

Ⅱ 各教科編集の概要

1 国 語

1 編集の具体的方針

- (1) 1学年を6分冊とし、各学年の第3巻及び第4巻を資料編とした。
第3巻の資料編には「文法」、「漢字に親しもう（小学校6年生で学習した漢字）」、「漢字の練習（常用漢字表に追加された漢字）」、第4巻の資料編には「学習を広げる」のうちの「資料」及び「索引」を掲載した。
※ 「1年で学習した漢字」、「2年生で学習した漢字」、「3年生で学習した漢字」は、各教材末の「新出漢字」の箇所に分割して掲載した。
- (2) 各学年の第3巻の資料編に、点字表記法の学習教材「点字の書き方」を追加した。第1学年にはその全文を、第2学年及び第3学年には「書き方の形式」以後を再録した。※1【資料1】
- (3) 各学年の巻頭にある「領域別目次」「学習の見通しをもとう」及び「中扉」の教材名以外を、削除した。
- (4) 「この教科書で学習するみなさんへ」は、修正を行った上で、分冊ごとに掲載した。【資料2】マーク類は原則削除し、マークを言語化して示した上で、「音声教材 CDなどを利用する学習。」の部分を削除した。また、最後に「原典ページを利用しよう」と見出しを加え、次のように追加した。
原典ページを利用しよう
原典ページは、 $\text{⋯} \square \text{⋯}$ で囲んでページ行左隅に示してある。
- (5) 教材名の前に、・印で示された内容は、第1星印を付けて示した。
- (6) 全学年を通して、原典の教材で全文を削除したものはない。また、できるだけ原典に忠実に点字化するように配慮したが、細かい点では、次のような修正を行った。
- ① 普通の文字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応措置を図った。
 - ② 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性と生徒の理解度を考慮して、修正したり、削除したりしたものがある。したがって、指導の際には、適切な補助教材で読解を助けるように配慮することが大切である。
 - ③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、生徒の理解度を考慮して、修正を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。
 - ④ 地図は、内容を読み取る上で不可欠なものに限り、修正を加えた上で、点図で掲載した。
 - ⑤ 「右の」、「左記の」、「上の」、「下の」などの表現をそれぞれ「これらの」、「次の」、「前の」、「後の」などの表現に修正した。
 - ⑥ 「注」は原則として、見開き2ページ分を奇数ページ末に掲載した。また、読みを妨げないように掲載箇所に配慮をし、教材末にまとめて掲載したものもある。
 - ⑦ 「注意する語句」は、課題の指示を添えて、見開き2ページ分を偶数ページ末に掲載した。
 - ⑧ 記号等の修正は、読解を助ける場合に限って行い、原則として原典どおりとしたが、箇条書きの行頭に用いられる中点（・）は削除し、文章の構造を明確にするための適切な記号に変更した。
- (7) 各教材末の「新出漢字」は、新出漢字部分を第1カギで囲み、欄外の漢字を見出し語として、教材末の音訓と熟語、及び「付録」の用例の順に掲載した。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。また、漢字ごとに行を替えて掲載した。
〔原典 第1学年 27 ページの例〕
「なが」める（ちょう \square なが $\text{⋯} \text{⋯}$ める） $\square \square$ 「ちょう」ぼう $\square \square$ 「なが」めがよい。
- (8) 各教材末の「新出音訓」は、第1カギで示し、既習の音訓を第1カッコで示した。
〔原典 第1学年 30 ページの例〕
「あや」うい（き \square あぶ $\text{⋯} \text{⋯}$ ない \square あや $\text{⋯} \text{⋯}$ ぶむ）
- (9) 古典教材は、次のように点訳した。
- ① 和語は歴史的仮名遣い、漢語は現代語の表記で点訳した。ただし、原典において、漢語に歴史的仮名遣いによる振り仮名がつけられている場合は、偶数ページの欄外の注にその振り仮名


を掲載した。

- ② 和語に添えられた読み方は、本文の読みを阻害しないように、偶数ページの欄外に掲載した。
 - ③ 現代語訳は（現代語訳）として、本文の後に掲載した。
 - ④ 漢文の表記は、書き下し文を掲載した。また、第1学年の「漢文を読む」と第2学年の「漢詩の風景」の教材のみ、漢文の基礎的知識及び漢詩の書き表し方を説明するために、訓点符号を用いた書き方も掲載した。
- (10) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、普通文字 200 字を点字 32 マス 11 行と対応させた。
「例」400 字（原典） → 400 字（点字 32 マス 22 行）
- (11) 「漢字」は、字形に関するものは生徒の理解度を考慮して修正を加え、必要に応じて点線文字で示した。同音異義語や同訓異字については、漢字を音と訓とで併記するか、または同様の意味をもつ別の熟語を示した。その際、漢字の音訓は、原典付録「常用漢字表」によった。

2 編集資料利用に当たって

1. 点字表記及びレイアウト等は、『日本点字表記法 2011 年版』（日本点字委員会編集・発行）に準じて行った。
2. 第1学年の3巻の「点字の書き方」は、表記法の内容を精選して掲載し、第2学年及び3学年の3巻では、「書き方の形式」を再録して、点字で学習する生徒の学習活動の参考にできることを意図している。特に、古文・漢文の表記の扱いについては、1学年の掲載部分を利用し、表記や仮名遣いについて丁寧な指導を行って欲しい。

2 編集の具体的内容

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
1年 1巻	14-15	上	修正	教科書を～開かれる。→枠で囲み、文毎に改行し掲載。	点字の特性を考慮して。
	17	1	修正	文頭の点（・）は第1星印で表記 作者、著書及び出典は教材末に掲載	
	19	下3-1 2	修正	下段横書きの具体例について【資料3】	点字の特性を考慮して。
		14-16	修正	アルファベットの間の中点は削除し、マスあけにする。 t a n p o p oはローマ字書きにする。	点字の特性を考慮して。
	20		修正	書き留める（学習の記録） 板書を写す。友達の発言や自分の感想を書き留める。 →板書や友達の発言、自分の感想を書き留める。 ノート例【資料4】	盲生徒の実態に即して。
	22	下	修正	漢字の読み方・成り立ち・意味、その漢字を使った熟語の意味や読み方などを調べたい時には、漢和辞典が使われる。漢和辞典の例【資料5】	盲生徒の実態に即して。 ※漢和辞典の構成を学ぶ教材として取り扱う。
	24	上	削除 修正	音声教材のマークは削除 担任の先生の話 持ち物は…→持ち物は、国語のノートと筆記用具。貸し出しカードに名前を書きますので、忘れずにね。 マーク(!)は(課題)とする。 聞き取りメモ 持ち物    筆記用具	点字の特性を考慮して。
	26	下	修正	(目標) 文頭の点（・）はそれぞれ1. 2. として教材の前に掲載。	点字の特性を考慮して。
	32		修正	漢字を確認しよう 1は該当する漢字部分を「 」で囲んで示す。【資料6】	盲生徒の実態に即して。
	33	上	追加	吹き出しマーク及び掲示の囲みを外して、それぞれ次のように追加。 (音声で伝える場合) (文字で伝える場合)	点字の特性を考慮して。
	34	上14	修正	…また、日本語の場合、漢字・平仮名・片仮名や、句読点を組み合わせることで、言葉のまとまりや意味を正確に伝えることもできる。文字の特徴を生かし、わかりやすい文章になるように工夫しよう。 →また、マスあけや、句読点によって、言葉のまとまりや意味を正確に伝えることもできる。わかりやすい文章になるように工夫しよう。	点字の特性を考慮して。 ※書き言葉の性質を学ぶ教材として、点字で学ぶ生徒にとって必要な内容にとどめ、特に墨字文化についての知識にはここでは触れていない。
	38	下	修正	スピーチの構成とスピーチメモの例【資料7】	点字の特性を考慮して。
	41	下4	追加	20字ぐらい→20字(点字32マス1行) ぐらい	
	44	3 5-10	修正	「ルビンのつぼ」を点図にした上で、文章を修正。 上の→該当ページ 白い→中央の 黒い→周りの	盲生徒の実態に即して。 ※視点(見方)を変えることの意味を読み取る説明文。例が視覚優位の教材であるため、盲生徒が理解しにくい場合は、意図にそう適切な具体例で指導することが望ましい。
	45	3 16	削除 修正	目からつぼの絵が→つぼの絵が 上の図の場合はどうであろうか。→ここに1枚の図がある。	
	46	7	修正	左の図を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであろう。 →別の図がある。化粧台の前に座っている女性の絵である。	
	49		修正	漢字を確認しよう【資料8】	盲生徒の実態に即して。
51	下	修正	マッピングの例【資料9】	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正内容	修正事項	備考
1年 1巻	52	下	追加	吹き出しは「 」で囲み、話者が女子のイラストの場合は、Aさんと追加。	盲生徒の実態に即して。
	53	6	補足	400字程度→400字（点字32マス22行）程度	点字の特性を考慮して。
	55	下3	補足	200字程度→200字（点字32マス11行）程度	点字の特性を考慮して。
	56 -57	下 下	修正	漢字の組み立てと部首 意外な部首の漢字【資料10】 漢字の組み立て部分は点図	盲生徒の実態に即して。
	57	下	修正	（練習問題）【資料11】	盲生徒の実態に即して。
	62-63		修正	歴史的仮名遣いによる表記は、すべて現代仮名遣いに変更する。	点字の特性を考慮して。
	64	下	修正	味、食感、見た目、香りの順に掲載	盲生徒の実態に即して。
	65	上	修正	程度を表す言葉の表現 間隔を点図で示す。【資料12】	点字の特性を考慮して。
	66	下1	修正	「。（句点）」→句点（。）	点字の特性を考慮して。
1年 2巻	70-71		修正	4～7 【資料13】	点字の特性を考慮して。 ※点字使用生徒が行える内容に変更した。指導に当たっては、課題の意図を踏まえた他のやり方を出し合うなど工夫することが望ましい。
	71	下	修正	吹き出しは「 」で囲み、話者が男子のイラストの場合は、B君と追加。	盲生徒の実態に即して。
	73		修正	情報コラム② 普通の文字の新聞の紙面構成の特徴を 知ろう 紙面構成は点図で示す。【資料14】	盲生徒の実態に即して。 ※普通の文字の新聞の点図を通して学ぶ教材。あくまでも概略であるので、実際の新聞に点字を貼って示すなどの指導が補足されることが望ましい。
	84-87		追加	書名は第1カギで、著者または筆署名は第1カッコで 囲んで示す。☐は削除し、「読み終えた本は、題名を 書いておこう。」と修正。	点字の特性を考慮して。
	110		修正	漢字を確認しよう 【資料15】	盲生徒の実態に即して。
	111	上	修正	赤い傍線はすべて第1カギで囲んで示す。	点字の特性を考慮して。
	112	上	修正	傍線と矢印を削除した文を書き、2行目に（指示する 語句→指示内容）の順で書き表す。	点字の特性を考慮して。
		下	修正	▼は削除し、（例文）とし、波線部は「 」で囲む。	点字の特性を考慮して。
	113	上	修正	例は文に当てはめて掲載する。【資料16】	点字の特性を考慮して。
	115	右下	修正	（書き方・紙面構成の工夫） 1. 地図や写真、イラストとそれらの説明などを掲載すると分かりやすい。 2. 目立たせたい情報は普通の文字では、文字の大きさや太さ、書体などを変えるが、点字の場合は書き出し位置や囲み符号の使用などの工夫をするとよい。	盲生徒の実態に即して。 ※案内文は様々な使用文字の場合を学んでおくことが大切である。生徒に適した様々な教材を工夫することが望ましい。
116	左下	修正	例の「相手」の地域の人と家族はそれぞれ1. 2. とし、 以下のように修正して掲載する。 1. 地域の人向け—体育祭の見どころ 2. 家族向け—自分の出る種目 とし、※書体を変えは「書き出し位置を変え」と修正。	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正内容	修正事項	備考
1年 2巻	117	上4-	修正	▶は(1)(2)に修正。家族向けの場合についての校内見取り図は、点図にする。	盲生徒に実態に即して。
	119	15 -16	削除	「下は、その日のフィールドノートの一部である。」の文と写真削除。	
	120- 124	下	修正	図1～図3は、表に修正。それぞれ表1, 表3, 表5とし、本文の該当箇所を図から表に修正する。	盲生徒に実態に即して。 ※表を活用した教材に変更している点を踏まえて、盲生徒の実態に配慮した、指導が望ましい。
	126	上	削除	(学習の窓)以外の「図表」はそれぞれ「表」に修正。	点字の特性を考慮して。
	127		修正	漢字を確認しよう 【資料17】	盲生徒の実態に即して。
	128	下	修正	「!」は、1. 及び2. と変更して掲載。	点字の特性を考慮して。
	1年 3巻	218	中	修正	○印は(例), ×印は(誤り)と修正。
219		上 中	修正	1字下げる→二マス下げるとに修正。	点字の特性を考慮して。
			削除	「文章と段落」の図は削除し、上段の「これを段落という。」の後に次の文を挿入。 「段落」は、いくつかの段落が集まって、大きなまとまりを作る場合もある。	
220		中6-9 11-	修正	×印は(不適切な例) ○印は(適切な例)と修正。	点字の特性を考慮して。
			修正	×印は(不適切な区切り方)と修正。	
223- 226		中 上中	修正	文の組み立てはもとの文、文の組み立て説明の順に掲載。【資料18】	点字の特性を考慮して。
225		中	修正	中・下段はそれぞれ上段の該当箇所に挿入。中段にはそれぞれ(例)と追加。	点字の特性を考慮して。
227		9	修正	例文は以下のように修正し、付属語の後に掲載。 ⠠空⠠を⠠飛ぶ鳥のように、わたしは自由でありたい。 空(じ)を(ふ)とぶ(じ)鳥(じ)の(ふ)ように(じ),わたし(じ)わ(ふ)自由で(じ)あり(じ)たい(ふ)。	点字の特性を考慮して。
		下	修正	「次の文を文節に区切り、その後単語に分けて、自立語を抜き出そう。」とし問題文はマスあけ無しで書く。	
228		下	修正	……例にならって、抜き出してみよう。 (例)花が美しく咲く。→美しく咲く	点字の特性を考慮して。
230		下	修正	図は(例)として、表に修正して掲載。	点字の特性を考慮して。
235- 238			修正	漢字の学習 小学校6年生で学習した漢字 【資料19】	盲生徒の実態に即して。 ※指導は、漢字の意味や音訓に関する知識を身につけられるように、教材指導時に文脈の中で適宜行い、後にディスプレイ上での漢字変換などが可能になるように配慮する。
239 -240			削除	小学校6年生で学習した漢字一覧は削除	
241 -243		修正	漢字の練習 1～9の指示文を以下のように修正し、傍線部は第1カギを付け示す。 1 衣服や住居に関する言葉 2 食生活に関する言葉 3 自然に関する言葉 4 人物に関する言葉 5 生き物に関する言葉を用いたことわざ・慣用句		

学年	ページ	行	修正内容	修正事項	備考
1年 3巻	243 -246		修正	6 体に関する言葉を用いた慣用句 7 言葉や文化に関する言葉 8 常用漢字表に追加された漢字を持つ都道府県名や地域を表す言葉 9 常用漢字の改訂で追加された音訓	盲生徒の実態に即して。 ※指導は、漢字の意味や音訓に関する知識を身につけられるように配慮して指導する。
1年 4巻	250		修正	「発想を広げる」は、下から次の順で掲載。 自分・生活 自然・環境 情報 文化 福祉 国際 各語句も、低い順に掲載する。	点字の特性を考慮して。
	252	上	修正	発想を広げるために マッピングで連想する 【資料20】	盲生徒の実態に即して。
	254	上	修正	タイトルを以下のように変更 文章の推敲・正しい書き方	点字の特性を考慮して。
		3	修正	「原稿用紙の使い方」は「文章の正しい書き方」に修正。	盲生徒の実態に即して。
		4-7	修正	推敲とは、書いた文章を練り直すことである。後の観点を参考に、伝えたいことが十分に書き表されているか、読み手に伝わる表現になっているかを確認しよう。用紙の上で推敲する時は、追加や修正などのための適切な記号を使うとよい。	盲生徒の実態に即して。
	254	☒	修正	原稿用紙例は推敲前と推敲語の順に掲載。	点字の特性を考慮して。
		下11-	修正	原稿用紙の使い方→正しい書き方 【資料21】	盲生徒の実態に即して。
	255	上	削除	円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフの具体例は削除し、説明文のみ（例）として掲載。	盲生徒の実態に即して。
		下8	修正	一、二字下げて→2～4マス下げて」に修正	
	257		削除	話し合いの各方法に関する図示は削除	
	258		追加	いろいろな通信文 後付けの扱い 後付け（点字で書く場合は、前付けとすることが多い）	点字の特性を考慮して。
	259	上5	修正	出席確認が必要な招待状などには、往復葉書や返信用の封筒を用いる場合がある。往復葉書の返信を、普通の文字で行う時は、次の部分を書き改めてもらおう。	盲生徒の実態に即して。
	260 261		修正	題名の上に☒を入れよう。→題名を書いておこう。	点字の特性を考慮して。
282	上4	修正	この教科書の原典の本文と、欄外や教材末にある漢字欄の新出漢字は、形が違っている。	盲生徒の実態に即して。	
	下	削除	各書体名には1.～4.と番号を付け、書体例は削除。	点字の特性を考慮して。	
284- 285		削除	台詞の第1カギは削除し、二重カギは第1カギに変更して掲載する。	点字の特性を考慮して。	
315			常用漢字表 付表【資料22】	盲生徒の実態に即して。	
1年 5巻	131	修正	(原文)を飾り線で囲み行ごとにマスあけ無しで掲載。漢字と濁点を宛てた歌→(濁点などを当てた歌)は、枠で囲む。訳は(現代語訳)とする。 注①③の文は削除。②を1., ④を2.と変更。 歴史的仮名遣い部分の読みは、句の形で原文を抜き出して脚注とする。 追加 「ゐ」「ゑ」の読み方を脚注に追加。	点字の特性に考慮して。	
		補足	・登るべきよーなし(ふつうの文字では「ヨー」は「ヤウ」と書き表す)	点字の特性を考慮して。	
		削除	上段の	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正内容	修正事項	備考
1年 5巻	151	上3	削除	白文は削除。	点字の特性を考慮して。
	151		修正	漢文を読む【資料23】	
	152	下	修正	①を削除し、それぞれ1. 2.と修正。 200字程度→200字（点字32マス11行）程度	点字の特性を考慮して。
	155	下	補足 削除	「否←→賛」の表のタイトルを（賛成か反対か）とし、否←→賛を削除。	点字の特性を考慮して。
	156	下1	追加	前文として「自分の意見を組み立てるために、次の □に入る言葉を考えよう。」を追加。	点字の特性を考慮して。
	156- 157	13	修正	話し合いの例を見開きで組む。左ページに（話し合いの進め方）、右ページに（話し合いの例）を示した。	
	159	上	追加	点線の吹き出し部分は、枠を削除し（友達の感想）とする。	盲生徒の実態に即して。
	160- 166		削除	図および写真は削除	盲生徒の実態に即して。
	165	グラフ	修正	グラフは10年刻みの数値を取り、表に修正。	盲生徒の実態に即して。 ※触察により変化を理解しやすようにした。
		欄外	削除	注「観測記録」の最後の一文を削除。	
	168	下6	追加	400字程度→400字（32マス22行）程度	点字の特性を考慮して。
	169		修正	漢字を確認しよう【資料24】	点字の特性を考慮して。
	171	下	追加	下段枠をそれぞれ（調べたい事柄）（下調べメモ）とタイトルを追加。	点字の特性を考慮して。
	172	下	修正	（集めた情報を整理した例）は、上から順に掲載し、7行目の後に掲載した。	点字の特性を考慮して。
	173	上3	修正	文字の大きさや分量→文字や分量 レポート用紙1枚程度→レポート用紙1枚（点字用紙2枚）程度	盲生徒の実態に即して。
174		修正	グラフは表に修正した。	盲生徒の実態に即して。	
175	上1	修正	「セイ」座と明「ジョウ（ショウ）」の「 」で示した部分は、同じ漢字の音で、「ほし」という訓をもつ。	点字の特性を考慮して。	
175- 176	枠内	追加	枠を削除し、指示文を追加。最初の漢字は削除し1. 2.に変更。傍線部は第1カギを付け、熟語を列挙する。次の1. 2.の「 」で示した部分は同じ漢字である。（練習問題）【資料25】	点字の特性を考慮して。	
1年 6巻	193	下13	修正	400字程度→400字（点字32マス22行）程度	点字の特性を考慮して。
	194		修正	漢字を確認しよう【資料26】	点字の特性を考慮して。
	195	下 9	削除 修正	▼古池や蛙飛びこむ水のおと→▼、傍線部は削除。 （例） 古池や蛙飛びこむ水のおと 「おと」一語言（名詞）	点字の特性を考慮して。
	195	13	修正	（例）—1行目と2・3行目	点字の特性を考慮して。
	196	4	修正	（例）—第1連	点字の特性を考慮して。
		16	修正	（例）—1行目と3行目。2行目と4行目。	点字の特性を考慮して。
	197	5	修正	（例）—第2連	点字の特性を考慮して。
	199	上3 上4	修正 修正	……次のように練習してみよう。 絵から→作品から	盲生徒の実態に即して。

学年	ページ	行	修正内容	修正事項	備考	
1年 6巻	199	上8	修正	構成や「色彩」などは→「構成」などは	盲生徒の実態に即して。 ※原典を生かした修正に留めているために、指導においては単元の目標を踏まえ、盲生徒の実態に即した教材を工夫することが必要である。	
		下7 12 13	修正	【色彩】の項目を削除し、他を1.～6.とする。 【想像したこと】描かれている場所や→場所や 複数描かれている場合は→複数挙げられている場合は		
	200	上3 4 12	削除 削除 削除	202・203ページや 美術の 事典や画集など→事典など		
		下1	削除	絵画・		
		付箋 例	修正	◎は「→取り入れる」と修正し、それぞれ201ページ 3行目の後に掲載する。		
		202- 203	削除 上2 下10	5例の写真は削除。 同じ絵→同じ作品 絵画や彫刻など→彫刻など		
	204		修正	単語の性質を見つけよう 下段を先に示し、上段は【資料27】のように修正。		点字の特性を考慮して。
	207	中17-	修正	男の子をBくんとし、以下のように修正 B君「『おはよう。』『こんにちは。』のどちらがいいだろう。」		盲生徒の実態に即して。
		下11 -12	削除	(生活の中の言葉から)のうち、 文字の項目を削除。		点字の特性を考慮して。
	208	下	修正	(アンケートの例) どちらかを選び、○で囲んでください。→どちらかを選んで、その言葉を書いてください。		盲生徒の実態に即して。
	209		修正	ポスターの例【資料28】		点字の特性を考慮して。
	210	上3	修正	3行目の行頭を削除し、後に(発表は前半と後半のグループに分ける)を追加して掲載する。		点字の特性を考慮して。
		上8-	修正	ポスターセッションの例は下段を(ポスターセッションのポイント)として先に示し、上段を後に示した。		盲生徒の実態に即して。
	212		修正	漢字3 漢字を、点字と点線文字で掲載【資料29】		点字の特性を考慮して。
213	下1	修正	練習問題【資料30】	点字の特性を考慮して。		
2年 1巻	28		修正	漢字を確認しよう【資料31】	盲生徒の実態に即して。	
	30-31		修正	現代語訳は、原文の後に(現代語訳)と表題を起こし、 囲み枠で囲む。	点字の特性を考慮して。	
	31	下8	追加	400字程度→400字(点字32マス22行)程度	点字の特性を考慮して。	
	33	3	修正	次の例→それぞれ後の例	点字の特性を考慮して。	
			修正	「カレーライス作り方」は「1. 順序立てて説明する」の後に(例)と表題を起こし、 囲み枠で囲む。 「飯ごう炊さんでカレーライスに挑戦!」は「2. 大事なことを最初に説明する」の後に(例)と表題を起こし、 囲み枠で囲む。	点字の特性を考慮して。	
	34	上9 -10	修正	(目的) — 駅伝のおもしろさを伝える。 (相手) — 駅伝を詳しく知らない友人。 →目的や相手に応じて、マラソンと比較しながら説明する。	点字の特性を考慮して。	
		16	修正	400字→400字(点字32マス22行)	点字の特性を考慮して。	
	35	1-10	修正	(比較して説明した例)として文には段落番号を(1)～(5)と付け、以下のように修正する。 ☐ (1)～(5)は段落番号を示す。	点字の特性を考慮して	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年 1巻	35	下 2-11	修正 修正	1. 最初に，説明の目的や…… (1) 2. 共通点…… (2) ～ (5) 3. 「まず」「次に」…… (2) ～ (4) 4. 「対して」「いっぽう」…… (3) (4) 5. 書き出しと結びを…… (5)	点字の特性を考慮して
	36	下8	修正	(例) 紙を□□。 1. 裂く (二つ以上に切り離す) 2. 破る (引きちぎってだめにする) (例) 1. 校門を□□。 2. 傘を□□。 1. の場合は「あける」とも「ひらく」とも言えるが，2. は「ひらく」とは言えても「あける」と言うことはできない。	点字の特性を考慮して
	37	上7 上図	追加 修正	図の ←→ の関係は対義語である。 □□□□ (対義語の例) (男性) ←→ (女性) (年上) 兄 姉 ↑ ↓ (年下) 弟 ←→ 妹	点字の特性を考慮して
	38	下4- 左下	修正 修正	①はそれぞれ1. 2. とする。 (メモの例) は表題を起こして点線枠で囲む 【資料32】	点字の特性を考慮して 盲生徒の実態に即して
	43	7-9 欄外	修正 追加	段落挿入符で囲み，2マスあけで書く。 「っ」→「っ(促音)」と挿入。	点字の特性を考慮して 点字の特性を考慮して
	44	16 19	修正 修正	竹を"take"と書く→竹をローマ字で書く 次ページの図のような→(該当ページ)の例のような	点字の特性を考慮して 点字の特性を考慮して
	45	上 欄外	修正 修正	ポスター例及び図【資料33】 「やさしい日本語」を用いた弘前市の案内板の例。 350m→ 弘前市立観光館 「観光客避難場所(逃げるところ)」 "Safety Evacuation Area"	点字の特性を考慮して 盲生徒の実態に即して
	48		修正	漢字を確認しよう【資料34】	盲生徒の実態に即して
	49	上 下 下9-	修正 修正 修正	発表資料の例・グラフの例【資料35】 ①はそれぞれ1. 2. とする。 (学校紹介文) は表題を起こして囲み枠で囲む。	盲生徒の実態に即して 点字の特性を考慮して 点字の特性を考慮して
	51	下	修正	挿絵の吹き出しは，Aくん・Bさんとし「」で示す。	点字の特性を考慮して
	52	表	修正	(進行案の例) は点線枠で囲む。【資料36】	点字の特性を考慮して
	54	上	追加	強大(「強い」と「大きい」) □□強弱(「強い」と「弱い」) □□強敵(「強い」と「敵」)	点字の特性を考慮して
	54- 55	下- 上	修正	二字熟語の主な構成【資料37】	盲生徒の実態に即して
	55	下	修正	練習問題 【資料38】	盲生徒の実態に即して

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年 1巻	56-61		修正	歴史的仮名遣い部分の読みは、句の形で原文を抜き出して脚注とする。 作者注は、本文末にまとめて掲載する。	点字の特性を考慮して
	62	下	修正	以下のように修正し、63ページ3行目の後に挿入する。 (気持ちを表す言葉の例) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> こいしい・なつかしい 喜ばしい・うれしい もどかしい・じれったい さびしい・わびしい くやしい・恨めしい </div>	点字の特性を考慮して
	63	下2 下5	追加	100字(点字32マス6行)程度 80字以上,100字以内(点字32マス5行以上,6行以内)	点字の特性を考慮して
	64	上	修正	単語の分類を、パンの製造過程にたとえて考えてみよう。→単語の分類について、考えてみよう。 とし、次のように修正して下段8行目の後に挿入する。 (例) (1) 主語になる—空気□□家□□山□□車 (2) 修飾語になる—少し□□この□□あらゆる□□ きつと□□きらきら (3) 述語になる—多い□□はやい□□静かだ□□話 す□□走る	点字の特性を考慮して
2年 2巻	67	7	修正	わたしたちには→人には	盲生徒の実態に即して
	67-69	欄外	修正	各「生活に生かす」は本文末にまとめて掲載する。	点字の特性を考慮して
	68	19	修正	玉石混交→「玉石」混交 とする。	盲生徒の実態に即して
	71-73	挿絵	修正	吹き出しは、Aくん・Bさん・Cさん・Dさんとし、「」で囲んで示す。	点字の特性を考慮して
	71	左上	修正	「若田さんは宇宙から情報を更新しているよ。」 →Cさん「若田さんは宇宙からインターネットで情報を更新しているよ。」	盲生徒の実態に即して
		左下	修正	1. 若田さんについて 人柄(雑誌の記事「若田さんのお母さんへのインタビュー」) 任務(新聞の記事「きぼう完成へ」) 2. 宇宙飛行士について 資格(本『宇宙飛行士になるには』) 仕事内容(インターネット検索結果「宇宙飛行士大研究」)	
	72	上1	修正	「割り付けの例」【資料39】 「割り付け(レイアウト)とは」の内容は欄外注に掲載する。	盲生徒の実態に即して
	73	上	修正	「新聞にまとめた例」【資料40】	盲生徒の実態に即して
	75-79		削除	英字とそのルビの部分については、ルビ部分のみを掲載し、英字は削除。	点字の特性を考慮して
	77	上16	追加	「老人」はルビのみを掲載し、脚注に以下の説明を追加した。 この「じいさん」は「老人」という漢字をあててある。	点字の特性を考慮して
80	注	修正	各注は該当ページに分割して掲載する。	盲生徒の実態に即して	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年 2巻	80	下	削除	地図は削除する。	盲生徒の実態に即して
	84		削除	図1～3を削除する。 図(重箱構造)と(門作用)はそれぞれ表題を起こし、 点図を掲載する。	盲生徒の実態に即して
	86-87	注	修正	各注は該当ページに分割して掲載する。	盲生徒の実態に即して
	88-91		修正	題名の上に☐を入れよう。→題名を書いておこう。	点字の特性を考慮して
	107		修正	漢字を確認しよう【資料41】	盲生徒の実態に即して
	113	上左	追加 修正	「次のAとBの言葉遣いを……だろう。」と、冒頭の 書き出しにし、続いて各A、Bの吹き出しを掲載する。	点字の特性を考慮して
	113- 114		修正	各挿絵は、(例)として、次のように修正し掲載する。 丁寧語 内田さんが歌い「ます」。 尊敬語 来賓の方が「お話しになり」ます。 ☺☺☺☐「お話になります」の「ます」は、話し手への 丁寧語。 謙譲語 父が先生を「ご案内し」ます。 ☺☺☺☐「ご案内します」の「ます」は、話し手への 丁寧語。	盲生徒の実態に即して
	114	上	修正	(尊敬語と謙譲語の例)【資料42】	点字の特性を考慮して
	115	上3-4	修正	謙譲語の中には、※印の語のように…→ 謙譲語の中 には、次にあげる語のように、敬意を表すべき動作・ 行為の受け手を必要としないものがある。 参る、おる、申す、いたす、存じる 接頭語を付けた語 「愚」見、「弊」社、「拙」著、 「粗」品 (例)わたしは、明日から……。	点字の特性を考慮して
		上 14-16	修正	(例)郷土史を研究されている西村先生から、ご著 書をいただきました。関心のある方にお貸しします。 「研究され」「ご著書」→「西村先生」への尊敬語 「いただき」→「西村先生」への謙譲語 「まし」一丁寧語 「お貸しし」→「関心のある方」への謙譲語 「ます」一丁寧語	点字の特性を考慮して
		下	修正	○印は(適切)、×印は(不適切)と修正して掲載する。	点字の特性を考慮して。
	117	下	追加	「後付け」の部分について、宛名の文に続けて次のよ うに追加する。 …「御中」と書く。なお、点字の手紙では前付けと することが多く、その場合は宛名・日付・署名の順に 書く。	点字の特性を考慮して。
	118	下	修正	2. 宛名一封筒の中央に書く。 差出人の住所・名前―表書きと重ならないように書 く。	盲生徒の実態に即して。
119	4～6	修正	教科書なども参考に、清書しよう。……丁寧な文字で 書くことを心がける。「封筒の書き方」をもとに封筒 も作成し、実際に手紙を送ろう。	盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年 2巻	120	下1-	修正	①はそれぞれ1, 2とし, ②~④を1. ~4. とする。	点字の特性を考慮して。
	125- 130		削除	写真のキャプションは削除する。	盲生徒の実態に即して。 ※原典を生かした修正に留めているために, 指導においては単元の目標を踏まえ, 盲生徒の実態に即した教材を工夫することが必要である。
	125	脚注	修正	左は「春(ラ・プリマヴェーラ)」→代表作に絵画「春(ラ・プリマヴェーラ)」がある。	
	126	脚注	削除	(左)を削除する。	
	127	8-9	削除	たくさんの手が描かれているが, 試しにその一つ一つのポーズを君もまねてみよう。手のポーズは… →たくさんの手が描かれている。手のポーズは…	
	130	13-14	削除	「君もいつか, …自分の目で見てほしい。」を削除。	
	131	学習	修正	「最後の晩餐」の図版と本文とを読み比べ→ 本文を読み	
	132		修正	漢字を確認しよう【資料43】	点字の特性を考慮して
2年 3巻	218- 219		修正	文中の赤字ゴシック体を「」で囲み, 各用語ごとに, 下段の説明を分割して掲載する。	点字の特性を考慮して。 点字の特性を考慮して。
		上10	修正	「文節どうしの関係と文の成分」とし, その後第1星印を付け, 次の文を追加する。 ※()内は連文節の場合をあらわす。	点字の特性を考慮して。
		15-17		「文節どうしの関係と連文節どうしの関係」とタイトルを付けて掲載する。【資料44】	点字の特性を考慮して
	220		修正	動詞・他動詞・自動詞・形容詞・形容動詞の中段の例を, それぞれ分割して掲載。	点字の特性を考慮して。
	221	中1	追加	(例)として具体例を掲載する。	点字の特性を考慮して。
		中 7-11	修正	中段は以下のように修正し, 上段9行目の後に挿入。 (例) 「友達」 「友達」が(主語)→来る。 「友達」は(主語)→来る。 「友達」も(主語)→来る。	点字の特性を考慮して。
		16	修正	形式名詞の(例) (例) 次の場合の, こと・とき など。 彼の「こと」を知っている。 一年生の「とき」に出会った。	点字の特性を考慮して。
		下	修正	文中での名詞の働き 「友達」とー(連用修飾語) 友達と本を読ぶ。 「友達」のー(連体修飾語) 友達の本を読ぶ。 「友達」だー(述語) 彼とわたしは友達だ。 「友達」ー(独立語) 友達 それは人生の宝だ。	点字の特性を考慮して。
	222- 234	下	修正	▼は「練習」とする。	点字の特性を考慮して。
	222	7	修正	程度の副詞の(例)の※は以下のように言語化する。 次のように……	点字の特性を考慮して。
		下 12-15	修正	○×を削除し, 次のように示す。 1. 言い切りの形が「○○だ」。→形容動詞 「静かな」山→「静かだ」。 2. 「大きな」という形のみ。→連体詞 「大きな」山→「大きだ」とならない。	点字の特性を考慮して。
223	1	修正	赤い一線部→「」で示した部分	点字の特性を考慮して。	
	下	追加	(例)として掲載する。	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年 3巻	226		修正	上段の▼は次のように修正。 次の動詞の活用の種類と活用を書いてみよう。	点字の特性を考慮して。
		表	修正	活用表内の表記の仕方（以後 p. 229まで同様） う→（一） よう→（よ一） 。→ 句点（。）	点字の特性を考慮して。
		左表	修正	次の動詞の活用を考え、表に書き込もう。 →次の動詞の活用の種類と活用を、書いてみよう。	点字の特性を考慮して。
	227	左表	修正	次の形容詞・形容動詞の活用を考え、表に書き込もう。 →次の形容詞・形容動詞の活用の種類と活用を、書いてみよう。 美しい(形容詞) 自由だ(形容動詞)	点字の特性を考慮して。
	227	下 4-5 7-8	修正	形容詞全体を「 」で囲み、以下のように読み方も示す。 「白く」と ございます →「白う（しろ一）」 ございます 「楽しく」と ございます →「楽しゅう（楽しゅ一）」 ございます （楽しう→楽しゅう）	点字の特性を考慮して。 ※和語は音便変化の場合、 点字では「う」と表記していることに十分留意させ、 指導に当たることが必要である。
		下 16 18	修正	「元気だ」か、「元気・だ」か。 「→形容動詞」を15行目末に掲載。 「→名詞」を17行目末に掲載。	点字の特性を考慮して。
	231	下 4 7	修正	「の」の働きの見分け方 「→主語を作る」を3行目末に掲載。 「→体言の代用」を6行目末に掲載。	点字の特性を考慮して。
	232	下1	修正	一線を引いた→「 」で示した	点字の特性を考慮して。
	233	下1	修正	助動詞に線を引こう。→助動詞を抜き出そう。	点字の特性を考慮して。
		下12-	修正	「れる」「られる」の見分け方は、p. 234末に掲載。	点字の特性を考慮して。
	234	下7 10	修正	「→助動詞」を5行目末に掲載。 「→形容詞」を9行目末に掲載。	点字の特性を考慮して。
		下11	修正	一線を引いた→「 」で示した	点字の特性を考慮して。
	236	下12	修正	※はそれぞれ、該当ページに掲載。 最初の注は、「う・よう」の欄に挿入。 二つ目の注は、「れる・られる」の欄に挿入。	点字の特性を考慮して。
	237 -240		修正	漢字の練習【資料45】	盲生徒の実態に即して。
243 -248		修正	漢字の練習【資料46】	盲生徒の実態に即して。	
2年 4巻	252 -253		修正	「発想を広げる」は、次の順で掲載。 自分・生活 文化 自然・環境 情報 国際 福祉 各語句は、下から順に掲載する。	点字の特性を考慮して。
	256	下17	削除	ひと目見て→削除	盲生徒の実態に即して。
	257		削除	全体（3箇所）→削除	盲生徒の実態に即して。
	259	上2	修正	文頭に「普通の文字の場合」を挿入する。	盲生徒の実態に即して。
			追加	二つの文例にはそれぞれ（改まった手紙の例）（通信文の例）と題を付けて掲載する。	盲生徒の実態に即して。
	下	修正	(1)…横書きの書式では、後付けが先に入ることもある。 →…横書きの書式や点字で書く場合では、後付けが先に入り、「前付け」とすこともある。 (4)冒頭に置かれる。 →冒頭に置かれる（前付け）。	盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年 5巻	157	下	修正	各テーマ例の後にそれぞれ（立場の例）と書いて例を列挙。	盲生徒の実態に即して。
	158	下	修正	（根拠について比較・検討した例）の中の記号を次のように修正する。 △→「根拠として不十分」 ◎→「根拠として十分」	点字の特性を考慮して
	159	下	修正	（パネルディスカッションの例）の下段の項目を（進行上の注意点）として、（パネルディスカッションの例）の前に掲載する。	点字の特性を考慮して
	161	上	修正	◎は（課題）と修正。	点字の特性を考慮して
		下1	修正	上のように→前の例のように	点字の特性を考慮して
		下3	追加	次の例のように「ない」「ば」を付けてみよう。 「ない」「ば」を付けてみよう。→次の例のように	点字の特性を考慮して
	164	上	修正	イースター島の地図は、点図で表す。	点字の特性を考慮して
	169	下6	追加	400字程度→400字（点字32マス22行）程度	点字の特性を考慮して。
	170		修正	漢字を確認しよう【資料50】	点字の特性を考慮して。
	173	3	修正	右のような→このような	点字の特性を考慮して
		下		（紙の辞書と電子辞書を比較した例）と（紙の辞書が良い根拠の例）として修正【参考51】	点字の特性を考慮して
	174	13	修正	600字程度→600字（点字32マス33行）程度	点字の特性を考慮して
	174	下	修正	（構成の仕方）→（他の構成の仕方）とし、（意見文の例）の文の後に掲載する。	
	175	2-8	修正	（推敲の例） ┌ 次一文が長い。「例えば」を使った方が、よりわかりやすい。 ├ 「第一に、…残すことができる。」→「第一に、…可能である。」 └	点字の特性を考慮して
	175- 176	11 -9	修正	（意見文の例）の各段落末尾に段落番号を付す。下段を（各段落の説明）とし、（意見文の例）の後に掲載。	点字の特性を考慮して
177	上図	修正	図を削除し、次のように修正し、掲載する。 メールを作成しているAさんが、漢字をどのように変換するか考えている。 「前回お会いしたのは、あつい夏の日でしたね。その後、お元気ですか。…またお会いできるきかいを楽しみにしています。」 漢字には 漢字には「夏はあつい」「お湯があつい」	点字の特性を考慮して	
	上1-3	修正	「あつい本」の「あつい」のように、同じ訓をもつものがある。また、同じ音をもつ漢字も多く、「お目にかかれるきかい」「性能のよいきかい」の「きかい」のように、同じ読みの熟語もある。 これらの語を書いたり、…。	点字の特性を考慮して	
	178	下	修正	（練習問題）【資料52】	点字の特性を考慮して。
2年 6巻	198		修正	漢字を確認しよう【資料53】	点字の特性を考慮して。
	199	上	修正	イラストを削除し、次のように修正して掲載する。 野球の試合が終わり、コーチが選手に言葉をかけている。→AチームとBチームの野球の試合が終わり、それぞれのコーチが選手に言葉をかけている。	点字の特性を考慮して。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
2年 6巻	199	上	修正	Aチーム(負けたほう)「来年□がんばろう！」 Bチーム(勝ったほう)「来年□がんばろう！」	点字の特性を考慮して。
	199	下2 下14	修正 修正	上の→前の 助動詞「う(ー)」	点字の特性を考慮して
	201	上10	修正	下の図を→次の例を	点字の特性を考慮して
		下	修正	(「ある日の自分」を見つめる物や人物を挙げた例) 【資料54】	点字の特性を考慮して
	202		修正	(気持ちの変化をまとめた例)【資料55】	点字の特性を考慮して
	202	上13	修正	600～800字程度→600字から800字(点字32マス33行～ 44行)程度	点字の特性を考慮して
		14	修正	(物語の例)の数字と波線は削除。下段は(描写の工夫) とし、(物語の例)の後に掲載。描写の工夫の説明に は、(物語の例)の波線部を引用し、ページと行を追 加する。【資料56】	点字の特性を考慮して
	204	地図	修正	「捨てる」の方言分布図は言語化する。【資料57】	点字の特性を考慮して
	205	上7	修正	方言による発音の違い→方言による「はた(キ)」の 発音の違いとして、点図で表す。	点字の特性を考慮して
	206	上	修正	1. 学校の前をバスが通る(とお__る)。 2. バイオリン教室に通う(かよ__う)。 「通る」と「通う」には同じ漢字が用いられている。 送り仮名は、……。	点字の特性を考慮して。
	207	下	修正	練習問題【資料58】	点字の特性を考慮して
	209	下	修正	(相手とテーマを考えた桜さんのメモの例)とし、掲 載。【資料59】	点字の特性を考慮して
修正			質問項目(1. 2. 5. は必ず聞くこと)とし、各 項目には1. ～5. の番号を付ける。	点字の特性を考慮して	
210	下	修正	(インタビューの例)下段を(確認事項)とし、各 項目に6. の番号を付して、1. ～インタビューの例の 前に掲載する。	点字の特性を考慮して	
211	6	修正	(600～800字)→(600～800字, 点字32マス33～44行)	点字の特性を考慮して。	
3年 1巻	30		修正	漢字を確認しよう【資料60】	点字の特性を考慮して。
	33		修正	批評文の例【資料61】	点字の特性を考慮して。
	34	下段	修正	テーマ例・分析の観点の例【資料62】	点字の特性を考慮して。
	35	4	追加	600字～800字→600字～800字(点字32マス33行～44行)	点字の特性を考慮して。
	38	下11	修正	なお、「僕」が「ぼく」と平仮名で書かれていても →なお、「僕」という漢字が平仮名で書かれていても	点字の特性を考慮して。
	39	上15	修正	和語+漢語→和語と漢語, 和語+外来語→和語と外来 語, 外来語+漢語→外来語と漢語	点字の特性を考慮して。
	40	下段	修正	坂野さんの聞き取りマップの例【資料63】	点字の特性を考慮して。
	42		削除	P. 42～45の図1～4は、該当箇所にキャプションの み入れて図は「省略」して掲載。	盲生徒の実態に即して。 ※筆者の論理的な展開の 仕方について、文脈中での 特に図の効果的な提示 方法を手掛かりに学ぶた めの教材とした。3年生 の教材であることを考慮 した修正であるが、目的 の確認と生徒の実態を踏 まえた慎重な指導が必要。

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
3年 1巻	48	2	削除	文章について以下の部分に修正等を行った。 「日頃眺めている」を削除	盲生徒の実態に即して。
		12 13	修正 修正	月を見るときには→月について話すときには 見えるかもしれない→感じられるかもしれない	
	49	10	修正	①……本文のどの部分に対応しているかを確認し、→ (1)……本文のどの部分に挿入されているかを確認し、	盲生徒の実態に即して。
	50		修正	漢字を確認しよう【資料64】	点字の特性を考慮して。
	51	上	修正	下段のポイント1. の文字表記の誤りと対応する箇所を修正した。 「松葉づえ」→「松葉ずえ」 「だるくなるし」をマスあけなし 「通して」→「とーして」	点字の特性を考慮して。 ※漢字や送り仮名の校正課題を、点字表記の問題に差し替えた。特に誤りやすい内容を選んでいるので、丁寧な指導が望ましい。生徒の実態を踏まえ、正しいマスあけや金塚がしっかりと身につくように配慮した指導が必要である。
		下	修正	さらに、原典の以下の不適切な部分は、正しい表記に変更する。 「速く」→「早く」 「過す」→「過ごす」 「温い」→「温かい」	
		下	修正	1, 表記→マスあけや仮名遣いは正しく書き表されているか。 (ヒント) マスあけと仮名遣いが3か所間違っている。	
	56	上	削除 修正	「(音は片仮名, 訓は平仮名で表している。)」の部分とイラストを削除し、以下のように掲載する。 朝食(チョウ, ショク) — ともに音読み 朝日(あさ, ひ) — ともに訓読み 毎朝(マイ, あさ) — 「マイ」は音読み, 「あさ」は訓読み 朝晩(あさ, バン) — 「あさ」は訓読み, 「バン」は音読み	点字の特性を考慮して。
	57	下	修正	「上」「下」「上下」を「前」「後」「前後」に修正。	点字の特性を考慮して。
		上	修正	複数の読み方をする熟語【資料65】	点字の特性を考慮して。
		下	修正	練習問題【資料66】	点字の特性を考慮して。
	60	14	修正	目を留めたもの→心に留めたものに	盲生徒の実態に即して。
64		修正	言葉を使おう【資料67】	盲生徒の実態に即して。	
66	上	修正	イラストを削除し、以下のように文章を修正し掲載。 母親に、すいかと桃を三つ買ってきて。」と頼まれたばくは、すいかを三つと桃を三つ買ってきた。 母「スイカは一つでよかったのに。」 僕「えっ。三つって言ったよ。」	盲生徒の実態に即して。	
		修正	◎は(課題)と修正。	点字の特性を考慮して。	
70	上	修正	新聞の書評欄を →新聞の書評欄などを	盲生徒の実態に即して。	
		削除	「書店の」を削除	盲生徒の実態に即して。	
	下例	修正	新聞の書評欄を毎週チェックしていこうと思う →新聞の書評欄などを毎週チェックしていこうと思う	盲生徒の実態に即して。	
95	上3	追加	「色味」を10番目の注として説明を追加する。 色味—微細な色合いのこと。	盲生徒の実態に即して。	
96	下17	削除	自分の目で →自分で	盲生徒の実態に即して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
3年 2巻	98	1	修正	読み終えた本には、題名の上に☑チェックマークを付けよう。→読み終えた本の題名を書いておこう。	点字の特性を考慮して。
	101	下	修正	イラストの吹き出しを、A君とBさんの会話の形とし、「冊」を「タイトル」に修正する。	盲生徒の実態に即して。
	110	20	追加	脚注に追加 ルントウー「ルン」は「うるうづき」の「うるう」、「トウ」は五行の「土」の意。	点字の特性を考慮して。
	124		修正	漢字を確認しよう【資料68】	点字の特性を考慮して。
	125	下	修正	①は、1. 2. 3. とし、(話し合いの例)と挿入	点字の特性を考慮して。
	126	上	修正	イラストを削除し、文を修正する。 これらの言葉は、→「腕を磨く」「腕を上げる」「腕が鳴る」のような言葉は、	盲生徒の実態に即して。
	127	下 7-12	修正	○と×の記号を削除し、以下のように修正。 1. 気が置けない—遠慮の必要がなく、気軽に付き合うことができる。(誤った意味—油断ができず、用心して付き合わなければならない。) 2. 情けは人のためならず—一人への親切は、巡り巡ってやがて自分に返ってくる。(誤った意味—一人に情けをかけることは、その人のためにならない。)	点字の特性を考慮して。
	129	17	修正	しおりや、見学先でもらったパンフレット、旅先で記録したメモ、写真などを見返す。→3. しおりや、見学先でもらったパンフレット、旅先で記録したメモ、写真などを整理する。	盲生徒の実態に即して。
		下	修正	(脚本)(報道文)→(脚本の形態)(報道文の形態)と修正し、上段6行目の後に挿入して掲載する。	点字の特性を考慮して。
	130	10	追加	A4判一枚程度→A4判一枚(点字紙32マス50行)程度	点字の特性を考慮して。
	下	修正	文章の形態を選んで書こう【資料69】	点字の特性を考慮して。	
131	各例	修正	○○○○→なまえ(○○)と修正する。	点字の特性を考慮して。	
3年 3巻	214	上	修正	・は、それぞれ(1)~(4)とする。	点字の特性を考慮して。
		中	修正	例文前の×印は(不自然な例)、○印は(推敲の例1)(推敲の例2)と改め、掲載。㊦の前の○と×は削除。傍線類は削除し、「」で囲み、⊕と⊖はそれぞれ(主部)と(述部)とし、p.215 1.の後に掲載する。	点字の特性を考慮して。
		下	修正	▼は(練習)と改め、p.215の1.の中段の例の後に掲載する。	点字の特性を考慮して。
	215	中	追加 修正	傍線類は削除し、例は(意味のまとまりがわかりにくい例)、(推敲の例)とする。さらに、 (1)読点を入れる (2)文を分ける・文節の順序を入れ替える とし、2.の後に掲載する。	点字の特性を考慮して。
		下	修正	二つの▼はそれぞれ(練習)と改め、中段の各例の後に掲載する。	点字の特性を考慮して。
	216	上	修正	〈例〉は削除し、○印は(適切な例)、×印は(不適切な例)、△印は(あまり使われない例)と改める。	点字の特性を考慮して。
	下	修正	二つの▼はそれぞれ(練習1)(練習2)と改め、修正する。【資料70】	点字の特性を考慮して。	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
3年 3巻	216	下	修正	(練習2)の()は㊦, []は()に修正。	点字の特性を考慮して。
	217			次の文を,(例)にならって(文節),(単語)ごとに区切って書こう。 (例) 明け方に雨が降った。 (文節) 明け方に 雨が 降った (単語) 明け方 に 雨 が 降った とし,(1)~(5)の文をマスあけ無しで示す。	点字の特性を考慮して。
		下	修正	3 単語の分類 次のa. b. の二文の単語ア. ~チ. について, 後の(1)~(4)の問いに答えよう。 a. 手をきれいに洗い, それから昼食を取った。 b. ああ, あの美しい山にいつか登りたい。 ア. 手 イ. を ウ. きれいに エ. 洗い オ. それから カ. 昼食 キ. を ク. 取っ ケ. た コ. ああ サ. あの シ. 美しい ス. 山 セ. に ソ. いつか タ. 登り チ. たい (問い) (1) 自立語をすべて選ぼう。 (2) 付属語をすべて選ぼう。 (3) 活用する単語をすべて選ぼう。 (4) 活用しない単語をすべて選ぼう。	点字の特性を考慮して。
	218	上	修正	4 自立語 ▼はそれぞれ1. 2. とし, リード文を修正した。 1. (1)~(8)がそれぞれ同じ品詞になるように, 空欄に入る単語を後の(語群)から選ぼう。 2. 次の「 」で示した語の品詞を後のa. b. から選んで, 記号で答えよう。	点字の特性を考慮して。
	219	下1	修正	5 用言の活用 ▼はそれぞれ1. ~2. とし, 2. のリード文を修正した。 2. 次の「 」で示した語について, A. (形容詞か形容動詞か)を答えよう。また, B. (活用形)を後の語群から選んで, 記号で答えよう。	点字の特性を考慮して。
		下 13	修正	6 付属語 ▼はそれぞれ1. ~3. とし, 1. のリード文を修正した。 1. 次の文から助詞と助動詞をそれぞれ抜き出そう。	点字の特性を考慮して。
	227- 232		修正	それぞれリード文を修正し, 該当の部分には「 」を付けて掲載した。 1 次の「 」で示した部分は常用漢字表に追加された漢字である。確認しよう。 2 次の県名や地名を表す言葉のうち, 「 」で示した部分は常用漢字表に追加された漢字である。確認しよう。	点字の特性を考慮して。
3年 4巻	238- 239			「発想を広げる」は下の気球から順に掲載。各語句も, 低い順に掲載する。 文化 自分・生活 自然・環境 情報 国際 福祉	点字の特性を考慮して。

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
3年 4巻	241	上	削除	会議の形式（決める話し合い）とし、「全体」の語と図を削除する。	盲生徒の実態に即して。
	243		修正	読み終えたら、表紙の上にチェックマークを入れよう。 →読み終えた本の題名を書いておこう。	点字の特性を考慮して。
	246	下	修正	作者の解説は p 249 下の本文末に移動。 ※の記号を削除して解説に続けて掲載。	点字の特性を考慮して。
	251	1-9	修正	書き下し文は現代仮名遣いに直して掲載し、続けて（現代語訳）と書いた上で訳を掲載する。	点字の特性を考慮して。
	253	上	追加	虞姫に注を追加。後の注は番号を順に繰り下げる。 注一「虞」という姫。虞は姫の名前。	点字の特性を考慮して。
		下 1-2	削除	漢文の原文は削除。	点字の特性を考慮して。
		下3	修正	叙事説明に補足説明を挿入。 原文では、「兮」という間投詞が、…… とし、その後の「兮」の文字はすべて「」を付ける。	点字の特性を考慮して。
		下16	追加	「虞兮虞兮」に注を追加 「虞姫」―「虞」は姫の名。「や」―「けい」に同じ。	点字の特性を考慮して。
	255		追加	抽象的な言葉の熟語のうち、次の同音異義語は短文か熟語にして掲載した。 「感性」を磨く 「想像」を絶する 天地「創造」 社会「制度」 「市場」経済 自然「現象」 社会に「還元」する 「共生」社会 「浸食」作用	点字の特性を考慮して。
	256	上9	修正	日常生活の中で頻繁に用いるものが多いが……。	点字の特性を考慮して。
	256- 257			熟語のうち、同音異義語のあるものは意味を補足した。 【資料71】	点字の特性を考慮して。
		上15	修正	それぞれ、資料編の常用漢字表の「付表」で調べてみよう。	点字の特性を考慮して。
		下3	修正	漢字一字で書き表すと「凵」となる。→一字で書き表す漢字がある。	点字の特性を考慮して。
		下4	修正	部首の「かぜ」と「木」を組み合わせた……。	点字の特性を考慮して。
		下9	修正	国字の例は音と訓で表す。 「どう（はたら__く）」 「こ__む」 「はたけ」 「とうげ」 「わく」 「さく（しぼ__る）」	点字の特性を考慮して。
		下16	修正	太い→（中国）はなはだ さく→（中国）わらう	点字の特性を考慮して。
260- 262		追加	原文、現代語訳の順に書き、訳には（現代語訳）と加える。歴史的仮名遣いは、すべて現代仮名遣いに改めて掲載した。	点字の特性を考慮して。 ※古文教材も読み味わう目的から現代語に改めてあるので留意が必要。	

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考	
3年 5巻	140		追加	「六歌仙」とよばれた平安時代初期の六人の和歌の名手など→「六歌仙」とよばれた平安時代初期の六人の和歌の名手（僧正遍昭，在原業平，小野小町，文屋康秀，喜撰法師，大伴黒主）など	点字の特性を考慮して。	
	143－ 148		修正	各歌の注をそれぞれの歌の後ろに挿入する。 歴史的仮名遣い部分の読みは，句の形で原文を抜き出して脚注とする。	点字の特性を考慮して。	
	149	下15	修正	「聞く－菊」「待つ－松」「眺め－長雨」 →聞く（耳で聞く）と菊（花），待つ（人を待つ）と松（樹木），眺め（眺望）と長雨（長い雨）	点字の特性を考慮して。	
	150－ 156		修正	歴史的仮名遣い部分の読みおよび栄耀（ええう）は，句の形で原文を抜き出して脚注とする。	点字の特性を考慮して。	
	152－ 153		修正	「おくの細道」俳句地図および平泉地図は点図にし，本文の後に挿入。俳句は解説とともに，深川から順に行程を追って番号を付ける。	点字の特性を考慮して。	
	165	上	修正	論理の展開を工夫して書こう □□□意見文の例 □□第一段落－自分の主張 □□第二段落－根拠(1)自分の体験 □□第三段落－根拠(2)資料の引用 □□第四段落－反論に対する意見 □□第五段落－主張のまとめ	点字の特性を考慮して。	
	167		上	修正	課題解決に向けて話し合おう【資料72】	点字の特性を考慮して。
			下	修正	課題解決に向けて話し合おう【資料73】	点字の特性を考慮して。
	171	上	修正	「二人の言葉の中にある、『ない』という言葉に注目しよう」を削除し，イラスト部分と次の課題の文章を入れ替える。 次の1.～3.の「ない」は，文法上異なる働きをしている。違いを考えてみよう。 1. 道が分から「ない」。 2. 地図も「ない」。 3. 頼り「ない」なあ。	点字の特性を考慮して。	
	179		修正	漢字を確認しよう【資料74】	点字の特性を考慮して。	
	181－ 182		修正	練習問題【資料75】	点字の特性を考慮して。	
	3年 6巻	186	5	追加	100字程度 → 100字（点字32マス6行）程度	点字の特性を考慮して。
15			修正	ひと目で内容が分かり → すぐに内容が分かり		
17			修正	文字やコメント欄の装飾。 → 書き出し位置や囲み符号の工夫。	点字の特性を考慮して。	
下17			修正	ポートフォリオの例【表紙】【レイアウト】【コメント】 → ポートフォリオのコメントの例	盲生徒の実態に即して。	
			修正	ひと目で内容が分かり → すぐに内容が分かり	盲生徒の実態に即して。	
			修正	文字の太さや色を変えたりするなど，見た目の効果を考える。 → 書き出し位置や囲み符号を工夫する。	点字の特性を考慮して。	
187		8	追加	発表者 → 発表者（木田洋子）	点字の特性を考慮して。	
188		下	追加	新聞の切り抜きを → 新聞の切り抜きなどを	点字の特性を考慮して。	
190～ 191		削除	漢文は書き下し文のみにし，訓読文は全て削除。 図を削除。	点字の特性を考慮して。		

学年	ページ	行	修正事項	修正事項	備考
3年 6巻	209～ 210		修正	漢字のまとめ【資料76】	点字の特性を考慮して。

3 参考資料

【資料1】 「点字の書き方」

1 点字について

1. 点字の考案

盲人のための文字は、古くからいろいろと試みられているが、現在用いられている6点点字が考案されたのは、1825年のことである。フランスのルイ・ブライユによって考案されたものである。当時、ルイ・ブライユは、世界で最初の盲学校であるパリ盲学校の生徒であった。ブライユが16歳の時のことである。

ルイ・ブライユが点字に初めて触れたのは、パリ盲学校の校長からシャルル・バルビエの12点点字を紹介された時のことである。ブライユは、自分自身で読み書きすることのできる新しい文字に触れ、抑えがたい感動を覚えたという。

彼は、この場ルビ絵の12点点字にまず習熟し、その欠点を批判し、2年あまり後には、この12点点字を二つに分けた6点点字の構想をまとめるに至った。時に1823年、ルイ・ブライユは14歳の少年であった。この後、2年の歳月をかけて、1825年に現在の6点点字が完成されたのである。

フランス政府が、このブライユの点字を盲人の公式文字として認めたのは、1854年のことである。

このブライユの点字が、我が国で初めて盲学校の生徒に紹介されたのは、1887年のことである。当時、東京盲啞学校の教師であった小西信八が、アルファベットを用いたローマ字式の点字を生徒に教えたのである。この生徒は1週間ほどで自由に読み書きができるようになったという。

点字の有用性に自信を持った小西信八は、早速東京盲啞学校の職員や生徒に、このブライユの点字を日本語に翻案することと呼びかけた。これに答えて翻案に努力したのが、同じ東京盲啞学校の教師であった石川倉次であり遠山邦太朗であった。また当時、東京盲啞学校の生徒であった伊藤文吉や室井孫四郎らは、先生方に劣らぬ1案をまとめ上げている。そうしたもののなかから、石川倉次のまとめ上げたものが、1890年（明治23年）に、日本の点字として選ばれ制定されたのである。

ブライユ少年がフランスで点字の考案に努力したことや、我が国において伊藤・室井などの生徒が点字の翻案に努力した事実は、深く心に留めておきたいことである。

2. ブライユの点字配列表

六つの点の組み合わせからなる点字は、点の組み合わせの数からすると63通りの組み合わせができる。次の一覧表は、その63通りの組み合わせに規則性を持たせて配列したもので、ブライユの点字配列表と呼ばれている。

ブライユは、この表を元にしてアルファベット・数字・アクセント・句読点・楽譜などを決めた。

我が国の点字も、基本的にはこの配列表にならっており、石川倉次の翻案になる50音の配列の仕方も、原理的にはこの配列表の原則にならって作成されているのである。

ブライユの点字配列表

⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧	⠨	⠩
⠪	⠫	⠬	⠭	⠮	⠯	⠰	⠱	⠲	⠳
⠴	⠵	⠶	⠷	⠸	⠹	⠺	⠻	⠼	⠽
⠿	⠀	⠁	⠂	⠃	⠄	⠅	⠆	⠇	⠈
⠉	⠊	⠋	⠌	⠍	⠎	⠏	⠑	⠒	⠓
⠔	⠕	⠖	⠗	⠘	⠙	⠚	⠛	⠜	⠝
⠞	⠟	⠠	⠡	⠢	⠣	⠤	⠥	⠦	⠧

3. 点字仮名

(1) 清音・濁音・半濁音

日本の点字の考案者である石川倉次は、ブライユの点字配列表から、 ⠠ を含むものを除いて、「ア行」に当てた。さらに、 ⠠⠠⠠ の点の組み合わせを加えて、カ・サ・タ・ナ・ハ・マ・ラの各行を表した。つまり、清音について母音は ⠠⠠⠠ の点の組み合わせで、子音は ⠠⠠⠠ の点の組み合わせで表しているが、例外としてワ行は、ア行と同じものを最も下げて表し、ヤ行はワ行に ⠠ の点を加えて表している。

濁音は、清音に濁点を表す ⠠ の点を前置し、半濁音は、清音に半濁点を表す ⠠ の点を前置して、それぞれニマスで表している。

(清音)	(濁音・半濁音)
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠ ⠠⠠

(2) 撥音・促音・長音

⠠	撥音 (はねる音)
⠠	促音 (つまる音)
⠠	長音 (のびる音)

(3) 拗音・拗濁音・拗半濁音

拗音は、主となる子音とヤ行の音から成り立っていて、普通の文字では、拗音のある列のイ段の音に小書きでヤ行の音を組み合わせて書く。点字では、各列のア段ウ段オ段の音に拗音を表す ⠠ の点を前置して、それぞれニマスで表している。

また拗濁音は、 ⠠ の点に濁音を表す ⠠ の点を加えた ⠠ を前置して示し、拗半濁音は、 ⠠ の点に半濁音を表す ⠠ の点を加えた ⠠ を前置してそれぞれ示す。

(拗音)	(拗濁音・拗半濁音)
⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠	⠠ ⠠ ⠠ ⠠ ⠠

⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

(4) 特殊音

外来音などに用いられる特殊音は、三つのグループに分類され、それぞれ前置点を付けて表している。

- ① 開拗音系
- ② 合拗音系
- ③ その他

① 開拗音系

⠠⠠⠠

⠠⠠⠠

⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠

⠠⠠⠠

⠠⠠⠠

⠠⠠⠠

② 合拗音系

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠

③ その他

⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠

⠠⠠⠠⠠



4. 数字とアルファベットなど

(1)数字は、ブライユの点字配列表の1行目に、数符を付けて書き表す。

⠼	(数符)
⠠⠼ ⠠⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼ ⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼	
⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼	(⠼は小数点)
⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼	(⠼は位取り点)
⠠⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼⠼	(⠼はアポストロフィ)

(2)アルファベットは、ブライユの配列表の1行目から3行目の前半に、4行目の最後のものをWとして挿入したものである。これらを日本語の文の中で用いる場合には、外字符を前置して表し、語句や文の場合は外国語引用符で囲んで示す。

大文字は一つだけを表す時には、大文字を外字符の後に添えてから示し、二つ以上続く場合は、二重大文字を前置して表す。

アクセント符は、該当する母音などに前置し、ピリオドは項目記号の後に付けたり、省略符として用いられる。

⠠	外字符
⠡	大文字符
⠢	二重大文字符
⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	
⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	
⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	
⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠	(外国語引用符)
⠠⠠⠠	(アクセント符)
⠠⠠⠠⠠	(ピリオド)

5. 表記符号の構成

(1)句読符

表記符号のうち、句点・疑問符・感嘆符は前に続け、文の終わりであれば後ろは二マスあける。また読点と中点は前に続け、後ろを一マスあける。ただしこれらが囲み符号の閉じ符号の前に使われる場合は、マスをあけずに書く。

⋮ (句点)	⋮ (疑問符)	⋮ (感嘆符)
⋮ (読点)	⋮ (中点)	

(2) 囲みの符号

囲みの符号は内側は続け、外側は囲まれた部分とその前後との分ち書きの原則に従う。

⋮ □ □ ⋮ ⋮	第1カギ
⋮ □ □ ⋮ ⋮	第2カギ
⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮	ふたえカギ
⋮ □ □ ⋮	第1カッコ
⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮	第2カッコ
⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮	二重カッコ
⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮	点訳者挿入符
⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮	第1指示符
⋮ ⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮ ⋮	第2指示符
⋮ ⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮ ⋮	第3指示符
□ □ ⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮	第1段落挿入符
□ □ ⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮ □ □ ⋮ ⋮	第2段落挿入符

(3) 関係符号

つなぎ符類と波線は、前後を続けて表す。

矢印類・棒線（ダッシュ）・点線は、前後を一マスあけて書き表す。また、矢印類は長さの増減が可能であるが、棒線と点線は増やすことは可能だが減らすことはできない符号である。

空欄符号や文中注記符は、分ち書きの規則に従う。空欄符号は、長さを増減することができる。

星印類は、前後を一マスあけて書く、第3星印の前は続けて書くこともある。

⋮	第1つなぎ符
⋮ ⋮	第2つなぎ符
⋮ ⋮ ⋮ ⋮	波線
⋮ ⋮	棒線
⋮ ⋮ ⋮	点線
⋮ ⋮ ⋮ ⋮	空欄符号
⋮ ⋮ ⋮	右向き矢印
⋮ ⋮ ⋮	左向き矢印
⋮ ⋮ ⋮ ⋮	両向き矢印
⋮ ⋮ ⋮	文中注記符
⋮ ⋮	第1星印
⋮ ⋮	第2星印
⋮ ⋮	第3星印

(4) 伏せ字とマーク類の符号

伏せ字やマーク類を点字で用いる場合は、それらの符号の用法に従って、適切に用いる必要がある。

特に、伏せ字は○△□×の形そのものを示しているわけではないので、伏せ字ではない部分に同じ形だからといって用いることはできない。

また、マーク類も同様で、適切な場所に説明と共にそれらの符号を使うなど十分な配慮が必要である。

⠠⠠⠠⠠	伏せ字の○
⠠⠠⠠⠠	伏せ字の△
⠠⠠⠠⠠	伏せ字の□
⠠⠠⠠⠠	伏せ字の×・数字の伏せ字
⠠⠠⠠⠠	その他の伏せ字
⠠⠠⠠⠠	パーセント
⠠⠠⠠⠠	アンパサド
⠠⠠⠠⠠	ナンバーマーク（井桁）
⠠⠠⠠⠠	アステリスク

(5) 文章構成関連符号

小見出し符類は前に続け、後ろは一マスあける。

詩行符類は前に続け、後ろは二マスあけて書く。

⠠⠠⠠⠠	□	第1小見出し符
⠠⠠⠠⠠	□	第2小見出し符
⠠⠠	□□	詩行符
⠠⠠	□□	二重詩行符

2 語の書き表し方

1. 現代語の書き方

現代語の書き方は、原則として「現代仮名遣い」に基づいているが、次の2点で現代仮名遣いとは異なる書き方をする。

(1) 助詞の「は」「へ」は、点字では「わ」「え」を用いる。

せんせい わ やさしい。

がっこう え いく。

(2) ウ列・オ列の長音のうち、「現代仮名遣い」で「う」と書き表す長音は、長音符を用いて書き表す。

くーき すーじ こーえん おとーさん

※ ただし、「楽しいことを思う」「道草を食う」「無理を言う」などの「思う」「食う」「言う」の「う」は、長音ではなく、動詞の活用語尾であるので「う」を用いて書く。

※ なお、オ列の長音のうち、次に挙げる語、及びその派生語は、「お」を用いて書く。

おおかみ おおせ おおぼこ おおやけ こおり こおろぎ ほお ほおのき ほおずき
ほのお とお

いきどおる おおう こおる しおおせる とおる とどこおる もよおす よそおい

いとおしい おおい おおきい とおい

おおむね おおよそ

また、「ぎーぎー」「きーきー」「ごーごー」「びゅーびゅー」などの擬声語の長音は、点字では長音符を用いて書き表す。

その他、「現代仮名遣い」では、「いれちえ」「みかづき」のように「ち」「つ」で始まる言葉が連濁によって濁音化した場合、および「ちぢむ」「つづく」のように「ち」「つ」が重なって2番目の音が濁音になった場合には、「ぢ」「づ」を用いている。点字で書き表す時には、特に正しい音で書き表せるように、十分注意する必要がある。

2. 外来語や外国の人名・地名の書き方

外来語や外国の人名・地名の書き方は、できるだけもとの音に近く、しかも平易な書き方になるようにする。また、外来語や外国の人名・地名の長音は、長音符を用いて書き表す。

ハーモニカ パーティー ケーキ シェークスピア ウィーン ディズニー スウェーデン

3. 数字や数字を含む語の書き表し方

ひとまとまりのすうは、数符を前置して4桁くらいまでは、位取り記数法で続けて書き表すが、「千」と仮名で書いてもよい。「まん」「おく」「ちょう」などは、仮名で区切りながら書き表す。

㊦㊧㊨㊩ ㊦㊧せんえん

㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬㊭ ㊦㊧㊨㊩㊪ ㊦㊧㊨㊩㊪㊫㊬ ㊦㊧㊨㊩㊪㊫

少数は小数点を用いて2,5のように書き、分数は一般書では読み上げる順に書き表す。

おおよそのすうで数字が重なるときは、それぞれに数符を付けてマスあけせずに書く。読点や中点があっても書き表してはならない。

1, 25 1と3ぶんの2

㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨

㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨

「2・26事件」のように月と日の省略を表す場合も、数字を重ねて続けて書き、中点などは用いない。

㊦㊧㊨ メーカー ㊦㊧㊨ 運動

数字の後に付く単位などはマスあけせずに続けて書くが、その最初の文字がア行またはラ行の時には、数字との間に第1つなぎ符を挟んで書く。

㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨

㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨

数字を含む言葉の書き方は、数字で書き表す場合と、仮名で書き表す場合の二通りに分けられる。一般的には、数量や順序の意味がある場合には数字を用いて書き、それらの意味が薄くなった慣用句では仮名を用いて書くことが多い。従って、同じ文字の語句でも、数量や順序の意味の有無によって数字と仮名に書き分けることになる。

おかねが ㊦㊧㊨ 関東いちえん

かれいちりゅうの経営で、 ㊦㊧㊨ 会社に発展させた。

数量や順序を表す語でも、和語の場合には仮名で書く。

ひとつ みっか ななくさ

人名や地名などの固有名詞は、数字を用いずに仮名で書き表す。

いちろう きゅうしゅう さんのみや

ただし、地番など、数量や順序の意味を明らかにする必要がある場合には、固有名詞であっても数字を用いて書き表す。

1丁目 3番地

町立 第1 中学校

4. アルファベットと外国語の書き表し方

文字として用いるアルファベットは、外字符を前置して書き表す。略称などで二文字以上の場合も、最初の外字符に続けて書く。その時、それらのアルファベットが大文字である場合は、外字符の後に大文字を付け、二文字以上大文字が続く場合は、二重大文字を付けて書き表す。

㊦㊧ ㊦㊧㊨ ㊦㊧㊨

1語中のアルファベットと数字との間は、マスあけせずに一続きに書く。

㊦㊧㊨ さいず ビタミン ㊦㊧㊨

一続きの1語中の仮名とアルファベットと数字の間は、続けて書き表す。また、アルファベットと仮名の間は第1つなぎ符を挟んで続けて書き表す。

数 ㊦㊧ おば ㊦㊧ 40 ㊦㊧

㊦㊧ ㊦㊧ ㊦㊧ ㊦㊧

外国の語句や文を日本語の文章中に引用する場合には、その前と後ろを外国語引用符で囲む。

点字のことを、 ㊦㊧ という。

外国語引用符と外字符とを混同して用いないように十分注意が必要である。例えば、 ㊦㊧ なら、情報技術の略称になるが、 ㊦㊧ とすると、3人称単数の人称代名詞となる。

5. 古文の書き方

古文の書き方は、原則として、和語は歴史的仮名遣いで書き表し、漢語は現代語に準じて書き表す。しかし、目的や必要によっては、すべてを現代仮名遣いに書き表したり、すべてを歴史的仮名遣いで書き表したりと、きめ細かく書き分けてもよい。

ただし、文語文法は現代文の文法とは異なる部分があるので、注意が必要である。

(原則に従った書き方)

ハルハ アケボノ。 ヤウヤウ シロク ナリユク ヤマギハ、 スコシ アカリテ、
ムラサキダチタル クモノ ホソク タナビキタル。

(現代仮名遣いに直した書き方)

アヤシガリテ ヨリテ ミルニ ツツノ ナカ ヒカリタリ。 ソレヲ ミレバ
3 スンバカリナル ヒト、 イト ウツクシューテ イタリ。

6. 漢文の書き方

漢文の書き方は、通常は書き下し文に直して書きあらわす。例えば、漢語の構造を明らかにしたり、漢詩の語数などを明確にしたりという必要がある場合には、訓点符号等を用いて書き表すこともできる。

(通常書き方 — 書き下し文)

しゅんみん あかつきを おぼえず
しよしよ ていちょうを きく
やらい ふううの こゑ
はな おつる こと する たしょう

(訓点符号を用いた書き方)

しゅん みん ず_{三三} おぼ_{三三三三} あかつき_{三三}を_{三三三三}
しよ しよ き_{三三}く_{三三三三} てい ちょう_{三三}を_{三三三三}
や らい ふう う_{三三}の こゑ
はな お_{三三}つること し_{三三}る た しょう

3 分ち書きの仕方

1. 点字の分ち書き

普通の文字で書かれた文章には、仮名文字で書かれた文章と漢字仮名交じりの文章とがある。幼児用の本などは前者であり、一般の小説や評論文などの文章は後者である。

仮名だけで書かれている文章は、文を読みやすくするために語のひとまとまりごとに区切って間をあけて書かれている。こうした書き方を「分ち書き」という。これに対して漢字仮名交じりの文章では、漢字によって語の区切りが比較的分かりやすくなっているために分ち書きをしないのが普通である。

点字は、仮名と同様に音を表す文字であるために、分ち書きをして、読みやすく、意味もとりやすくする必要があるので、そこで点字で文章を書く場合には、分ち書きをする。

点字の分ち書きの仕方は、一般に「文節分ち書き」と呼ばれているもので、文節の句切れ目ごとに区切って、間(マス)をあけていく方法である。この時、文節ごとに間をあけた部分のことを「マスあけ」と呼んでいる。

点字の分ち書きは、文節分ち書きであるので、原則的には、自立語はその前をあけて書き、付属語は自立語に続けて書く。しかし、マスあけの中には、文節の感覚が捉えにくいなどの理由で以下のような誤りやすいものがあるので、注意が必要である。

(1) 補助動詞・補助形容詞

はなが さいて いる。→「サイテイル」は誤り
話を 聞いて みよう。→「キイテミヨー」は誤り。
本を 読んで もらう。→「ヨンデモラウ」は誤り。
我が輩は 猫で ある。→「ネコデアル」は誤り。
もう 小学生では ない。→「ショーガクセイデワナイ」は誤り。

(2) 形式名詞

よむ ときに
かく ことを

ぼくの おもう ところでは
こんな ふうに
ドアを あけた まま

(3)意味の違いによって書き分ける必要があるもの

このあいだ(先日)彼にあったよ。
この 間に 挟んで おいたよ。
どうして(なぜ) 答えないの?
どう したら 答えるの?
風が 強まって きた。 そのうえ あめも ふりだした。
提出物は その うえに おいて ください。

2. 自立語内部の切れ続き

自立語はひと続きに書くのが原則であるが、長い複合語などの場合は、自立語内部も区切ってある方が読みやすくなる。そこで、和語・漢語・外来語を通して、自立できる意味のまとまりは区切って書き表す。

(1)ひと続きに表す自立語の例

①区切ると意味の理解を妨げる短い複合語・略語

朝日 水たまり 綱引き 鼻風邪
早割 大卒 英検

②接頭語や接尾語、副次的な造語要素を含む語

真夜中 裏番組 子どもたち 効果的 ハイスクール

③助詞などを含んでも、1語としてまとまっている複合語

髪の毛 床の間 手のひら 山の手

④区切ると理解を妨げる動植物名や理化学用語

水芭蕉 柊南天 ムカシトンボ ポリエチレン

⑤複合動詞や複合形容詞(動詞の連用形や形容詞の語幹に接続する動詞や形容詞)

笑いさざめく 歩き回る 近寄る 重苦しい

⑥サ変の動詞のうち、以下のような語

a. 促音化・撥音化などの音韻変化をしたり、連濁を起こしたもの

達する 接する 発する
重んずる 軽んずる 先んずる
応ずる 命ずる 信ずる

b. 自立性の弱い1字漢語について一体化したもの

関する 比する 有する 与する

c. サ変以外の活用を持つもの

愛する 死する 属する 感ずる 演ずる

⑦連濁を起こしたもの

株式会社 柱時計 湯飲み茶碗 鏡開き

(2)区切って書く自立語の例

①3拍以上の自立可能な意味の成分が二つ以上ある複合名詞

日本点字委員会 国語辞典 入学試験 自由研究 ガイドブック 曇りガラス

②2拍以下でも独立性が強く語の意味の理解を助ける複合名詞

歯科医師 交通事故 土地改良 県体育館 彼自身

③接頭語や造語要素の中で、後ろの成分に対して連体詞的な関係を持ち意味の理解を助ける場合や、語尾の造語要素などが前の成分を受けているような場合

満3歳 丸1日 非人道的 超現実的
国語や数学等々

④名詞や副詞に続くサ変の複合動詞

勉強する 具体化する いらいらする しっかりする
一致団結する 自画自賛する 意味する 損する

- ⑤年月日や名数およびその後続く語で自立性が弱くても意味を明確にする必要がある場合

2012年4月4日

午前1時23分56秒

12月31日18時19分発

1メートル60センチメートル強

15キログラム減

- ⑥二つ以上の自立可能な意味の成分からなる繰り返し言葉

昔々 遠い遠い ぱちりぱちり ぼつりぼつり

3. 固有名詞内部の切れ続き

固有名詞内部の切れ続きは、原則として自立語内部の切れ続きと同じであるが、特に、次のような点に注意する必要がある。

- (1)人名の名字と名前の間は区切って書き表すが、外国の人名の内、2拍以下の名字か名前は他と続けるか、つなぎ符類をはさんで続けて書いても良い。

中村桂子 北杜夫 李太白

レオナルド ダビンチ (レオナルド ダビンチ, レオナルド ダビンチ)

- (2)人名の後に敬称・尊称・官位などが続く場合、それが独立した意味のまとまりを持っている時は区切って書き表す。ただし、愛称・短縮形・一族を表す氏名などは続けて書き表す。

小林さん 田中様 鈴木殿 石川倉次氏

お月さま 魚屋さん まなちゃん 藤原氏

- (3)地名・国名・組織または団体名・会社名などは、3拍以上の意味のまとまりごとに区切る。ただし、2拍以下でも独立性が強い場合は、区切って書き表す。

大和郡山市 土佐清水市

アメリカ合衆国 中華人民共和国

襟裳岬 三浦半島 十国峠 華厳滝

社会福祉協議会 大阪市役所 全国盲学校長会 東京ドーム

4 表記符号の用い方

表記符号とは、語句や文の関係を明らかにしたり、語句の引用、強調、説明あるいは文の省略などを明らかにして、文章を読み取りやすくする記号のことである。この符号を用いる場合は、点字の触読性に配慮した上で、普通の文字との対応を図る必要がある。

1. 句読符の用法

- (1)文の終わりには句点を続けて書き、次の文との間を二マスあける。句点の後にかぎ類や括弧類の閉じ記号がくる場合には、句点と閉じ記号との間は続ける。

雨が降った。風も吹いた。

後ろから「おーい。」と呼ばれて、「だれだろうか。」と思った。

- (2)会話文や脚本・小説などで、表現を豊かにするために用いられる疑問符や感嘆符は、句点と同様、文の終わりにくる場合には後ろを二マスあけ、文中にくる場合には、後ろを一マスあける。疑問符や感嘆符の後ろにかぎ類や括弧類の閉じ記号がくる場合は、これらと閉じ記号との間は続けて書く。

「どうしてこうなったの？君は知っている？」

「しまった！おそかったか。」

「えっ？」と聞いて、彼は怪訝そうな顔のまま見つめていた。

あっ！と思わず息を飲み込んだ。

- (3)読点は、文の構成を明らかにして誤読を避けるために、次のような場合の後につけ、その後ろを一マスあける。

- ①副詞的語句や形容詞的語句の前後

やはり、思っていた通りでした。

静かな、明るい、春の日のことでした。

- ②語や意味が付着して誤読の恐れがある場合

よく晴れた夜、空を見上げました。

③読みの間を示したい場合

カン、カン、カンと半鐘が鳴りました。

④対話や引用文を示すカギの開き記号の前 など

その時、「気が進まないよ。」と彼は言いました。

- (4)中点は、対等な関係で並ぶ語句の区切り目には書き、その後ろを一マスあける。ただし重ね数字や略称を表すアルファベットの間、外来語などの複合語の内部の切れ続きを表す普通の文字の中点は、点字では原則として用いない。

春の七草とは、せり・なずな・ごぎょう・はこべ・ほとけのざ・すずな・すずしろのことである。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (5・7・5)

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠ (5・15) 事件

テーブル スピーチ (テーブル・スピーチ)

2. 囲み符号の用法

(1)カギ類

第1カギや第2カギは、会話または引用する文や語句の前と後ろを囲んで用いる。カギ類の内側は続け、外側は分ち書きの原則に従う。

先生は、「みんなの前で話すには『伝えようとする気持ち』が何より大切である。」とお話になった。

(2)カッコ類

語句や文の直後に注記をする必要がある場合には、第1カッコを用いる。第1カッコの中でさらにカッコを必要とする場合には、二重カッコを用いる。カッコ類の内側は続け、外側は分ち書きの原則に従うが、直前の語句の説明である場合には、開きカッコの前は原則としてその語に続ける。

1990年は、点字制定100周年(1890年⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠明治23年⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠に石川倉次の案が採用されたため)にあたる。

(3)指示符類

文や語句の一部を強調したり指定したりする場合に指示符類を用いる。試験問題などに用いられている下線などは、この指示符類によって書き表すことが多い。

⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠それは⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠困ったと、彼は眉をひそめた。

(4)点訳者挿入符

同音異義語などで、点字では意味がわかりにくいと思われる語句の直後に、点訳者が特に説明を加える場合に用いる。点訳者挿入符の用法は、カッコ類と同様である。

(5)段落挿入符

本文の要約や前文、詳細な説明やト書き、または段落単位の引用文などを本文とは段落を変えて書き表す場合に用いる。この場合、行頭から二マスあけて3マス目から開き記号を書き表し、記号の内側は一マスずつあける。終わりが句点などの場合でも、一マスあけるだけで良い。

3. 関係符号の用法

(1)つなぎ符

本来ひと続きに書くべき言葉の中に、数字やアルファベットが含まれていて、しかも誤読される恐れのある場合には、数字やアルファベットの後に、第1つなぎ符を入れて書き表す。また、漢字の訓読みなどで、漢字と送り仮名部分とを区別したいときには、第2つなぎ符を入れて書き表す。

100 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠円玉 ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠線

あか ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠るい よ ⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠⠠む

(2)棒線 (ダッシュ)

次のような場合に用い、記号の前と後ろを一マスずつあける。ただし、棒線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。

①対等な関係にある文や語句の対照

のれんに腕押し — 糠に釘

②前の文や語句の補足説明

明日—こどもの日—私たちは遊園地に出かける。

③挿入句

いよいよ明日はこの子牛—今私のそばですやすやと眠っている—と、お別れだ。

④感情の余韻や時間的隔たり，または漠然とした省略

まあ！なんということを一。

(3) 点線

感情の余韻や時間的隔たりまたは漠然とした省略などを表現しようとする場合に用いる。ただし、点線の後に句読点や区切り符号が続く場合は、マスあけはしない。また、語頭または語中の省略に点線を用いる場合には、点線の後ろはマス開けをしなくても良い。

そうはいっても □ ∴ ∴ ∴ ∴

∴ ∴ ∴ 的 考 え

(4) 空欄符号

試験問題などにある，隠された語句や文または記号などを表す場合に用いる。空欄符号の前と後ろは，分かち書きの規則や他の表記符号の用法に従う。普通の文字で空欄の中や傍に記号等が添えてある場合には，それらを空欄の前に出し，空欄符号に続けて書き表す。

次の ∴ ∴ ∴ ∴ ∴ に適当な語を入れよ。

「舞姫」の著者は，(ア) ∴ ∴ ∴ ∴ ∴ 時代の(イ) ∴ ∴ ∴ ∴ ∴ である。

(5) 文中注記符

欄外の注を必要とする語句につけて用いる。その注に番号が付く場合には，注記符の間に数字を挟んで書き表す。欄外の注は，該当ページの下部に線を引くなどして本文と区別して挿入する。

(6) 波線

場所・数量・時間などの範囲を表す場合に用い，範囲を表す語句の間に挟み込み，マスあけをしないで書き表す。

2012年 ∴ ∴ ∴ 2016年

東京 ∴ ∴ 大阪

10時 ∴ ∴ ∴ 12時

(7) 矢印類

文や語句を対照させたり，時間の流れや変化の方向を表す場合に用いる。記号の前と後ろは，一マスあけて書き表す。

かき □ ∴ ∴ ∴ □ きく □ ∴ ∴ ∴ □ くるま □ ∴ ∴ ∴ □ まり

つるつる □ ∴ ∴ ∴ ∴ □ ざらざら

(8) 星印類

特に注意を喚起する必要がある段落の始まりや箇条書きの前に用いる。段落や箇条書きが本来始まる位置から書き表し，記号の後ろは一マスあけて書き表す。

□ □ ∴ ∴ □ 次のことに気をつけて読もう。

4. 伏せ字とマーク類

(1) 伏せ字類

語句の一部をあえて伏せて書く場合に用いる。

○○学校 △△市 □□町

内線 20××番 (数字の伏せ字)

(2) マーク類

① % (パーセント) は，数字などの後に続けて書き表す。後ろに語句などが続く場合は，一マスあけて書き表す。仮名書きされている場合は，このマークは用いない。

100% 20% ∴ 引き 100ぱーせんと

② & (アンパサンド) は，日本文中で用い，記号の前と後ろを一マスあけて書き表す。

③ # (ナンバーマーク) は，日本文中で用い，後ろを一マスあけて書き表す。

④ * (アスタリスク) は，特殊な文字の一種として用い，後ろを一マスあけて書き表す。普通の文字でアスタリスクが文中注記符や星印の意味で用いられている場合は，それぞれの記号を用いて書き表す。

5. 文章構成関連符号

(1) 小見出し符類

見出し語の後ろに小見出し符類をつけ，一マスあけて本文を書き表すか，または小見出し符類を

つけた後、行替えをして本文を書き表す。

(2) 詩行符類

一般の文章の中に、詩を引用したり、紙面を節約したりするために詩行符を添えて詩行の変わり目を示し、行を変えずに追い込んで書き表すことができる。また、二重詩行符を添えて、連の変わり目を示すことができる。

3 書き方の形式

1. 作文一般

題は、1行目に書く。題の書き出しは、普通は7マス目であるが、題の長さによって、短ければ9マス目、長ければ5マス目から書くようにする。なお、2行以上にわたる場合には、2行目以降を1行目の書き始めからさらに二マス下げて表す。

名前は、題を書いた次の行に右寄せで書き、行末まで二マスくらいあくようにする。

ページは、点字用紙の表の右上に書く。

本文は、名前を書いた次の行の行頭3マス目から書き始める。段落の変わり目では行替えし、行頭は二マス下げて書き始める。

本文の1行を書き進み、行末から次の行に移って一マス目から書き続けることを行移しという。行移しをして書き続ける場合、行末にゆとりがあっても、ひと続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、次の行に移して書く。ただし、本来ひと続きに書くべき助詞や、助動詞のうち「ようだ」・伝聞の「そうだ」・「ごとし」・「らしい」・「みたい」・「です」・「だ」や、単位の前、カッコ類や点訳者挿入符の開き符号の前、波線の後ろなどから、次の行に移して書いても差し支えない。また、行を移すときに、行末にマスあけをするゆとりがなくなった場合でも、行移しをすることによって一マスあけか二マスあけの役割を果たすので、次の行の行頭でマスあけをしてはならない。

行移しにあたっては、特に次の事柄に注意する必要がある。

(1) 2行にまたがって書いてはならないもの

- ① 一続きに書き表すべき数字やアルファベット
- ② 濁音や拗音のように二マスで構成されている文字
- ③ ふたえカギ、指示符類などのように二マス以上で構成されている符号類

(2) 行頭に書いてはならないもの（これらの符号が、もし行末に書ききれない時には、その符号の直前の語句とともに次の行に移して書く。）

- ① 句点・疑問符・感嘆符・読点・中点など
- ② 囲み符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など）の閉じ符号
- ③ つなぎ符・波線・小見出し符・詩行符類など

(3) 行末に書いてはならないもの

- ① 数符・外字符などの前置記号
- ② 囲み符号（カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など）の開き符号—これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、開き符号から次の行に移して書く。

2. 詩・短歌・俳句など

自由詩は3マス目から書き始めるが、定型詩は普通5マス目から書き出してよい。

行や連によって、書き出し位置に変化をつける場合は、二マス又は4マスを単位として差を付けて書き表す。詩の1行が点字で2行にわたるときには、2行目は書き始めの行と二マスを単位として差を付けて書き表す。

短歌は、書き下しの場合3マス目から書き始め、その行に書ききれない部分は次の行の一マス目から書く。上の句と下の句を分けて2行に書き分ける場合には、上の句は3マス目から、下の句は5マス目からというように、行の書き出しに差をつける。3行書きの短歌は、1行ごとに行を改めて書き表す。

俳句や川柳は、3マス目または5マス目から書き始める。

(定型詩の例)

□□□□ナノハナバタケニ□イリヒ□ウスレ、
□□□□ミワタス□ヤマノハ□カスミ□フカシ。
□□□□ハルカゼ□ソヨフク□ソラヲ□ミレバ、
□□□□ユウヅキ□カカリテ□ニオイ□アワシ。
(タカノ□タツユキ) □□

(自由詩の例)

□□□□オレワ□カマキリ
(カマキリ□リュージ) □□

□□オウ□□ナツダゼ
□□オレワ□ゲンキダゼ
□□アマリ□チカヨルナ
□□オレノ□ココロモ□カマモ
□□ドキドキ□スルホド
□□ヒカッテルゼ

□□オウ□アツイゼ
□□オレワ□ガンバルゼ
□□モエル□ヒヲ□アビテ
□□カマヲ□フリカザス□スガタ
□□ワクワク□スルホド
□□キマッテルゼ

(詩行符を用いて書いた例)

□□□□□□
□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡□□アイタクテ≡≡
・ ・ ・ □□キョウモ≡□□ワタゲヲ≡□□トバシマス≡≡

(短歌の例)

リョーカン□□
□□カスミ□タツ□ナガキ□ハルヒニ□コドモヲト□テマリ
ツキツツ□コノ□ヒ□クラシツ

キタハラ□ハクシュー□□
□□イシガケニ□コドモ□7ニン□コシカケテ
□□□□フグラ□ツリオリ□ユウヤケ□コヤケ

イシカワ□タクボク□□
□□カニカクニ□シブタミムラハ□コヒシカリ
□□オモヒデノ□ヤマ
□□オモヒデノ□カハ

(俳句の例)

ヤマグチ□セイシ□□
□□サジ□ナメテ□ワラベ□タノシモ□ナツゴホリ

タカハマ□キョシ□□
□□□□ハクボタン□イフト□イヘドモ□コウ□ホノカ

3. 脚本

人物名を3マス目から書き、その後ろに小見出し符類を付ける、又は人物名の後ろを二マスあけて台詞を書く。台詞が2行以上にわたるときは、次の行は行頭から書く。台詞に第1カギをつける

必要はない。また、人物名を行頭から書き、次の行からは3マス目から書く方法もある。人物名は、繰り返して何回も現れるので頭文字などによる略記法を用いるのが便利である。

情景の説明は、第1段落挿入符で囲んで書き表し、ト書きは、第1カッコで囲んで書き表す。

(例)

□□□□□リヤオー□モノガタリ
□□□□ダイ1マク□□リヤオーノ□キューデン
□□ :: :: □アイズノ□ラッパガ□スイソー□サレル。□□リヤオーヲ□セントーニ
3ニンノ□ムスメ□ :: ゴナリル、□リーガン、□コーディーリア :: 、□ソノタ、
ジューシン□ケントヲ□ハジメ□オオゼイノ□カシंगा□トージョー□スル。□ :: ::
□□リヤオー :: :: □ミナノ□モノモ□シッテ□イル□トオリ、□フランスオート
バーガンディコーガ□コーディーリアヲ□ヨメニ□ホシイト□イッテ、□キテ
オラレル。□□ソノ□ゴヘンジヲ□スル□マエニ、□コンゴ□ダレガ□ワシニ
モットモ□コーヨーヲ□ツクシテ□クレルカ□ハナシテ□モラオー。□□ココロガケノ
ヨイ□モノニワ□ソノ□ブンニ□オージテ□リョーチヲ□サズケタイ。
□□ゴナリル :: :: □ワタシワ□コトバデワ□イエナイホド□オトーサマノ□コトヲ
オモッテ□イマス。
□□コーディーリア :: :: □ :: ドクハク :: □□ワタシワ□ナント□イオー。
ココロカラ□オツカエ□シタイノダケド。
□□リヤ :: :: □ :: チズヲ□サシナガラ :: □□ヨク□イッタ。□□オマエニワ、□コノ
キョーカイセンノ□ナカノ□リョーチヲ□ヤロー。□□サア□リーガン、□オマエヲ
ドーダ。
□□リーガン :: :: □オヤニ□コーコー□スルノワ□コノ□タノシミ、□ソノ□タノシミ
イガイノ□モノワ□ミナ□ワタシノ□テキデ□ゴザイマス。
□□コーディ :: :: □ :: ドクハク :: □□コンドウ□ワタシノ□バンダワ。□□ワタシノ□キモチワ
コトバデワ□イエナイ。□□ソーダ、□ワタシワ□ダマッテ□イヨー。□□(イカ□リャク)

4. 手紙

点字の手紙は、宛名や日付及び差出人名などを前付けとして最初に書くのが一般的である。この場合、まず1行目に相手の名前を書く。日付は、次の行に、相手の名前より二マスまたは4マス程度下げて書く。自分の名前は3行目に書くのが普通であるが、日付と同じ行に書いても差し支えない。名前のは、行末まで二マスくらいあくようにする。

また、普通文字の手紙のように、宛名、日付、差出人名を手紙の後付として最後に書くこともある。その場合には、日付、差出人名、宛名というように書く順序が変わるので注意する。

内容の書き方は自由であるが、前文(時候の挨拶、相手の安否を尋ねるなど)、本文、末文(終わりの挨拶など)と分けられる場合には、それぞれ行を改めて書くと良い。

なお、手紙を折って封筒に入れる場合は、封筒の大きさに合わせて、一を1行入れると点を傷めずに折ることができる。たとえば、32マスの点字盤では、点字用紙の裏面の4・9・14行目に入れて四つ折りにするか、裏面の5・12行目に入れて三つ折りにするとよい。

点字の郵便物は、切手を貼らずに、その位置に「点字用郵便」と書き、右肩1/3を開封にする。

(例1)

サトー□タロー□サマ
□□□□□2012ネン□4ガツ□15ニチ
スズキ□ジロー□□

(例2)

サトー□タロー□サマ□□ :: :: :: :: :: :: :: :: □スズキ□ジロー

(例3)

サトー□タロー□サマ
 :: :: :: :: □ :: :: :: :: □□スズキ□ジロー□□

(例4)

・・・□デワ□ゴケンコーヲ□オイノリ□イタシマス。

□□□□2012ネン□4ガツ□15ニチ
スズキ□ジロー□□

5. 日記類

個人的な日記には、一定の形式はない。個人の好みに応じてどのように書いてもよいものである。一般的には、最初に日付・曜日・天候などを書く。

日付については、次のような略記法を用いることもできる。

例えば、2012年4月15日を、

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮
⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮
⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮
⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮

のように略記する方法もある。また、年数は、各月の1日だけに記入するとか、1月1日だけにするとなどの工夫をして書く。

日付に続く曜日・天候なども、それぞれ二マスずつあけて書くべきものであるが、次のように一マスあけて書き続けても差し支えない。

⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮⋮
モク カイセイ ムフー

学級日誌などの公的な日誌類は、記入する項目が予め決められていることが多い。そうした場合には、項目毎に行を改め、項目の後は二マスあけるか、小見出し符を用いるとよい。また、毎日同じ項目を繰り返して書かずに、項目を記号や番号に置き換えるなどの工夫を行うのも良いことである。

いずれにしても、継続して書くことが前提の日記類の場合には、レターファイルとかルーズリーフなどでそのつど整理しておくことが大切である。

6. ノート類

ノートは教科や書くべき内容の違いによって、とり方も異なるものであるが、学習に役立てるためにとるものである。そこで、後から活用しやすいようにそれぞれ工夫して、検索しやすい形式でとっておく必要がある。また、一枚ずつ書き足していくものなので、ページ、書いた日付、単元名、内容などを最初に書く習慣を付けるようにすると整理しやすい。また、ページ行を使って、そのページに書かれている内容を簡単に記しておく、後でノートを利用する際に便利である。

一般に、ノート類は大項目・中項目・小項目とに分けて箇条書にすることが多い。この場合、項目の大きさを区別するために、項目に数字をつけて大小の序列を表すことが多い。一般的には、大きい項目から順に、

何も符号をつけない数字 1

ピリオドをつけた数字 1.

第1カッコをつけた数字 (1)

第1カッコとピリオドをつけた数字 (1.)

のように用いる。(数字の代わりに50音やアルファベットなどを用いる場合も、これにならう。)数字に符号をつけない場合は、数字の後を二マスあけて項目や見出しを書く。数字に句点やカッコなどの符号をつける場合は、一マスあけてもよい。

書き出しの位置は、最も大きな項目を九マスあたりから書き始め、項目が小さくなるごとに二マスずつ前に出して書くのが普通であるが、ノート類では、逆に最も大きな項目を一マス目から書き、項目が小さくなるごとに二マスずつ下げて書く方法をとってもよい。いずれの場合でも、同じ大きさの項目は数字等につける符号を合わせるとともに、書き出しの位置も同じマス目に揃えることが大切である。

ノートの書き方としては、そのほか、カッコ類・矢印・棒線・点線・波線類などの符号や、数に関する略記法を活用して見やすく活用しやすい方法を工夫する。

なお、ノート類は常に分類し、整理して、ファイルなどにとじ込んでおくように心がけることが、最も大切である。

7. 答案

点字では、一般的には試験問題と答案用紙が別になっている。したがって、答案を書くに当たっては、次のようなことに注意しなければならない。

(1) 解答用紙の最初の用紙には名前を書き、用紙すべてにページを付ける。

(2) 答案に書く番号や記号は、問題文の番号や記号と同じものを用いる。問題文に「問⋮1」と書いてあれば、答案にも「問⋮1」と書いて、その答えを書く。問題文の番号に句点や第1カッコが付いていれば、答案の番号にもそれぞれ句点や第1カッコを付けて同じように書く。

- (3)問題番号と解答との間は、二マスあけて書く。
- (4)問題はどこから解いてもよいのであるが、前後を動かして解答する場合には、それが何番のどの問の答えであるかが分かるように、番号をはっきりと書いて解答する。
- (5)答えは1問ごとに行替えをして書く。
- (6)記号で答えるような場合には、特に書き間違えないように注意する。もし、書き間違いをした場合には、その部分をメの字にしてしまうか、改行して訂正と書いた上で、改めて答えを書く。
- (7)答案を見直して、答えを書きかえる場合には、訂正と書いた後に、問題番号をはっきりと書いてから、改めたい答えを書く。

8. 目次

目次は、見出しの項目が少ない場合でも、1ページを使用する。

目次は、1行目の中程に目次と書き、次の1行をあけて見出し語を書く。見出し語は、1行に1項目ずつ行をつめて書くが、2行以上にまたがるときは、見出し語の行頭から二マス下げ、行末がページを表す数字の位置にかからないよう書く。項目に序列がある場合は、その序列にしたがって、書き始めの位置で違いを表す。

ページ数は、行末に記し、項目とページ数との間は、点線で埋める。この際に用いられるのは、㉓や㉔の点であるが、点線の前後は、それぞれ一マスずつあける。

9. 略記法

ノート類や試験問題などには、次のような略記法が用いられる。

① ページ・行の略記

p と 1 を用いて、ページと行を示す。その際に、行を下から数えた方が早い場合には、下という言葉を行の数字の前に入れて示す。

p 3 □ 15 (3ページ5行目)

p 4 □ シタ □ 12 (4ページ下から2行目)

② 下がり数字を用いる略記

㉓㉔㉕ (4ページ8行目)

㉓㉔㉕㉖ (11月3日)

③ ㉓の点を間にはさむ略記

㉓㉔㉕㉖㉗㉘ (10時40分)

④ ㉓の点を間にはさむ略記

㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚ (3丁目1番7号)

⑤ マスあけを省略してつめて書く略記

㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲ (電話番号)

【資料1】(2・3学年共通) 書き方の形式

1. 作文一般

題は、1行目に書く。題の書き出しは、普通は7マス目であるが、題の長さによって、短ければ9マス目、長ければ5マス目から書くようにする。なお、2行以上にわたる場合には、2行目以降を1行目の書き始めからさらに二マス下げて表す。

名前は、題を書いた次の行に右寄せで書き、行末まで二マスくらいあくようにする。

ページは、点字用紙の表の右上に書く。

本文は、名前を書いた次の行の行頭3マス目から書き始める。段落の変わり目では行替えし、行頭は二マス下げて書き始める。

本文の1行を書き進み、行末から次の行に移って一マス目から書き続けることを行移しという。行移しをして書き続ける場合、行末にゆとりがあっても、ひと続きに書くべき語句や符号がその行に入りきれないときには、次の行に移して書く。ただし、本来ひと続きに書くべき助詞や、助動詞のうち「ようだ」・伝聞の「そうだ」・「ごとし」・「らしい」・「みたい」・「です」・「だ」や、単位の前、カッコ類や点訳者挿入符の開き符号の前、波線の後ろなどから、次の行に移して書いても差し支えない。また、行を移すときに、行末にマスあけをするゆとりがなくなった場合でも、行移しをすることによって一マスあけか二マスあけの役割を果たすので、次の行の行頭でマスあけをしてはならない。

行移しにあたっては、特に次の事柄に注意する必要がある。

(1) 2行にまたがって書いてはならないもの

- ① 一続きに書き表すべき数字やアルファベット
- ② 濁音や拗音のように二マスで構成されている文字
- ③ ふたえカギ、指示符類などのように二マス以上で構成されている符号類

(2) 行頭に書いてはならないもの(これらの符号が、もし行末に書ききれない時には、その符号の直前の語句とともに次の行に移して書く。)

- ① 句点・疑問符・感嘆符・読点・中点など
- ② 囲み符号(カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など)の閉じ符号
- ③ つなぎ符・波線・小見出し符・詩行符類など

(3) 行末に書いてはならないもの

- ① 数符・外字符などの前置記号
- ② 囲み符号(カギ類・指示符類・カッコ類・点訳者挿入符・段落挿入符・外国語引用符・発音記号符など)の開き符号—これらの符号は、行末に余裕があっても、その符号に続く語句がその行に書ききれないときには、開き符号から次の行に移して書く。

2. 詩・短歌・俳句など

自由詩は3マス目から書き始めるが、定型詩は普通5マス目から書き出してよい。

行や連によって、書き出し位置に変化をつける場合は、2マス又は4マスを単位として差を付けて書き表す。詩の1行が点字で2行にわたるときには、2行目は書き始めの行と二マスを単位として差を付けて書き表す。

短歌は、書き下しの場合3マス目から書き始め、その行に書ききれない部分は次の行の一マス目から書く。上の句と下の句を分けて2行に書き分ける場合には、上の句は3マス目から、下の句は5マス目からというように、行の書き出しに差をつける。3行書きの短歌は、1行ごとに行を改めて書き表す。

俳句や川柳は、3マス目または5マス目から書き始める。

(定型詩の例)

□□□□ナノハナバタケニ□□イリヒ□□ウスレ、
□□□□ミワタス□ヤマノハ□カスミ□フカシ。
□□□□ハルカゼ□ソヨフク□ソラヲ□ミレバ、
□□□□ユウヅキ□カカリテ□ニオイ□アワシ。
(タカノ□タツユキ) □□

(自由詩の例)

□□□オレワ□カマキリ

(カマキリ□リュージ) □□

□□オウ□□ナツダゼ

□□オレワ□ゲンキダゼ

□□アマリ□チカヨルナ

□□オレノ□ココロモ□カマモ

□□ドキドキ□スルホド

□□ヒカッテルゼ

□□オウ□アツイゼ

□□オレワ□ガンバルゼ

□□モエル□ヒヲ□アビテ

□□カマヲ□フリカザス□スガタ

□□ワクワク□スルホド

□□キマッテルゼ

(詩行符を用いて書いた例)

□□□□□□

□□アイタクテ∴□□アイタクテ∴□□アイタクテ∴□□アイタクテ∴∴

・ ・ ・ □□キョウモ∴□□ワタゲヲ∴□□トバシマス∴∴

(短歌の例)

リョーカン□□

□□カスミ□タツ□ナガキ□ハルヒニ□コドモヲト□テマリ

ツキツツ□コノ□ヒ□クラシツ

キタハラ□ハクシュー□□

□□イシガケニ□コドモ□7ニン□コシカケテ

□□□フグヲ□ツリオリ□ユウヤケ□コヤケ

イシカワ□タクボク□□

□□カニカクニ□シブタミムラハ□コヒシカリ

□□オモヒデノ□ヤマ

□□オモヒデノ□カハ

(俳句の例)

ヤマグチ□セイシ□□

□□サジ□ナメテ□ワラベ□タノシモ□ナツゴホリ

タカハマ□キョシ□□

□□□ハクボタン□イフト□イヘドモ□コウ□ホノカ

3. 脚本

人物名を3マス目から書き、その後ろに小見出し符類を付ける、又は人物名の後ろを2マスあけて台詞を書く。台詞が2行以上にわたるときは、次の行は行頭から書く。台詞に第1カギをつける必要はない。また、人物名を行頭から書き、次の行からは3マス目から書く方法もある。人物名は、繰り返して何回も現れるので頭文字などによる略記法を用いるのが便利である。

情景の説明は、第1段落挿入符で囲んで書き表し、ト書きは、第1カッコで囲んで書き表す。

(例)

□□□□□リヤオー□モノガタリ

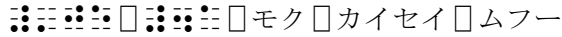
□□□□ダイ1マク□□リヤオーノ□キューデン

□□∴∴□アイズノ□ラッパガ□スイソー□サレル。□□リヤオーヲ□セントーニ



のように略記する方法もある。また、年数は、各月の1日だけに記入するとか、1月1日だけにするとなどの工夫をして書く。

日付に続く曜日・天候なども、それぞれ二マスずつつけて書くべきものであるが、次のように1マスあけて書き続けても差し支えない。



学級日誌などの公的な日誌類は、記入する項目が予め決められていることが多い。そうした場合には、項目毎に行を改め、項目の後は二マスあけるか、小見出し符を用いるとよい。また、毎日同じ項目を繰り返して書かずに、項目を記号や番号に置き換えるなどの工夫を行うのも良いことである。

いずれにしても、継続して書くことが前提の日記類の場合には、レターファイルとかルーズリーフなどでそのつど整理しておくことが大切である。

6. ノート類

ノートは教科や書くべき内容の違いによって、とり方も異なるものであるが、学習に役立てるためにとるものである。そこで、後から活用しやすいようにそれぞれ工夫して、検索しやすい形式でとっておく必要がある。また、一枚ずつ書き足していくものなので、ページ、書いた日付、単元名、内容などを最初に書く習慣を付けるようにすると整理しやすい。また、ページ行を使って、そのページに書かれている内容を簡単に記しておく、後でノートを利用する際に便利である。

一般に、ノート類は大項目・中項目・小項目とに分けて箇条書にすることが多い。この場合、項目の大きさを区別するために、項目に数字をつけて大小の序列を表すことが多い。一般的には、大きい項目から順に、

- 何も符号をつけない数字 1
- ピリオドをつけた数字 1.
- 第1カッコをつけた数字 (1)
- 第1カッコとピリオドをつけた数字 (1.)

のように用いる。(数字の代わりに50音やアルファベットなどを用いる場合も、これにならう。)数字に符号をつけない場合は、数字の後を二マスあけて項目や見出しを書く。数字に句点やカッコなどの符号をつける場合は、一マスあけてもよい。

書き出しの位置は、最も大きな項目を九マスあたりから書き始め、項目が小さくなるごとに二マスずつ前を出して書くのが普通であるが、ノート類では、逆に最も大きな項目を一マス目から書き、項目が小さくなるごとに二マスずつ下げて書く方法をとってもよい。いずれの場合でも、同じ大きさの項目は数字等につける符号を合わせるとともに、書き出しの位置も同じマス目に揃えることが大切である。

ノートの書き方としては、そのほか、カッコ類・矢印・棒線・点線・波線類などの符号や、数に関する略記法を活用して見やすく活用しやすい方法を工夫する。

なお、ノート類は常に分類し、整理して、ファイルなどにとじ込んでおくように心がけることが、最も大切である。

7. 答案

点字では、一般的には試験問題と答案用紙が別になっている。したがって、答案を書くに当たっては、次のようなことに注意しなければならない。

- (1) 解答用紙の最初の用紙には名前を書き、用紙すべてにページを付ける。
- (2) 答案に書く番号や記号は、問題文の番号や記号と同じものを用いる。問題文に「問 1」と書いてあれば、答案にも「問 1」と書いて、その答えを書く。問題文の番号に句点や第1カッコが付いていれば、答案の番号にもそれぞれ句点や第1カッコを付けて同じように書く。
- (3) 問題番号と解答との間は、二マスあけて書く。
- (4) 問題はどこから解いてもよいのであるが、前後を動かして解答する場合には、それが何番のどの問の答えであるかが分かるように、番号をはっきりと書いて解答する。
- (5) 答えは1問ごとに行替えをして書く。
- (6) 記号で答えるような場合には、特に書き間違えないように注意する。もし、書き間違いをした場合には、その部分をメの字にしてしまうか、改行して訂正と書いた上で、改めて答えを書く。
- (7) 答案を見直して、答えを書きかえる場合には、訂正と書いた後に、問題番号をはっきりと書き

てから、改めたい答えを書く。

8. 目次

目次は、見出しの項目が少ない場合でも、1ページを使用する。

目次は、1行目の中程に目次と書き、次の1行をあけて見出し語を書く。見出し語は、1行に1項目ずつ行をつめて書くが、2行以上にまたがるときは、見出し語の行頭から二マス下げ、行末がページを表す数字の位置にかからないよう書く。項目に序列がある場合は、その序列にしたがって、書き始めの位置で違いを表す。

ページ数は、行末に記し、項目とページ数との間は、点線で埋める。この際に用いられるのは、 ㉑ や ㉒ の点であるが、点線の前後は、それぞれ一マスずつあける。

9. 略記法

ノート類や試験問題などには、次のような略記法が用いられる。

① ページ・行の略記

p と l を用いて、ページと行を示す。その際に、行を下から数えた方が早い場合には、下という言葉を行の数字の前に入れて示す。

p 3 \square 15 (3ページ5行目)

p 4 \square シタ \square 12 (4ページ下から2行目)

② 下がり数字を用いる略記

㉑ ㉒ ㉓ (4ページ8行目)

㉑ ㉒ ㉓ (11月3日)

③ ㉑ の点を間にはさむ略記

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ (10時40分)

④ ㉑ の点を間にはさむ略記

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ (3丁目1番7号)

⑤ マスあけを省略してつめて書く略記

㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ (電話番号)

【資料2】(各学年共通 p. 8-9)

$\square\square\square\square$ この教科書で学習するみなさんへ

$\square\square$ この教科書を使って……活用しよう。

$\square\square\square\square$ 「話す・聞く・書く」

$\square\square$ 1. 題名・副題 $\square\text{㉑}$ 活動の目的と内容や形式。

$\square\square$ 2. 交流 $\square\text{㉑}$ 課題について確認しあったり、感想を述べあったりする場。

$\square\square\square\square$ 「読む」

$\square\square$ 1. 新出漢字・新出音訓 $\square\text{㉑}$ その教材で学習する漢字、漢字の読み方。

$\square\square$ 2. 注意する語句 $\square\text{㉑}$ その教材に使われている重要な語句。

$\square\square\square\square$ 意味 ㉑ 意味を調べる。

$\square\square\square\square$ 短文 ㉑ 短文を作る。

$\square\square\square\square$ 類義 ㉑ 類義語を調べる。

$\square\square\square\square$ 対義 ㉑ 対義語を調べる。

$\square\square\square\square$ 関連 ㉑ 関連語句を確認する。

$\square\square$ 3. 広がる読書(教材末) $\square\text{㉑}$ 教材と同じ著者・テーマの本の紹介。

$\square\square\square\square$ 「学習の見通しを持つ」 $\square\text{㉑}$ (目標)・(学習の見通しを持つ)

$\square\square$ その教材で身につける力や学習の流れを示している。これまでに学習してきたことを生かしながら、見通しを持って学習に取り組んでいこう。

$\square\square\square\square$ 「学習・活動に取り組む」 $\square\text{㉑}$ (学習の窓)

$\square\square$ 学習を生かして……活用しよう。

□□記「録」—「りょく（みどり）」と形がよく似ている漢字。

□□□□（自分の感想）

□□中学校でどんな出会いがあるのか、わくわくした。

□□□□（言葉メモ）

□□きょう「は」→今日だけ。

□□きょう「も」→いつも、ずっと。

-
- (1) 読んだ感想を発表しよう—一枠で囲んだり、線を付けたり、矢印や箇条書きを使ったりなど、工夫して書き留める。
 - (2) 「も」や「ずっと」—大切なところや目立たせたいところには、囲み符号などを付ける。
 - (3) 漢字注意！—気になる言葉や漢字に出会ったら書き出しておき、国語辞典などで調べるとよい。
 - (4) （自分の感想）や（言葉メモ）—自分の感想や課題、印象に残った表現や調べた語句の意味など、自由に書き留める。

【資料5】（1年 p.22）
漢和辞典

□□□□「ろく」 □□□□ 16画（総画数）、部首「かねへん（8画）」、部首以外の部分の画数8画
□□（音）ろく、（訓）— →漢字は音と訓で表す。

□□漢字の成り立ち □□□□意符の「金（金属）」と音符の「ろく（緑色）」とを合わせた字。
「こく（きざむ）」と音が似ているために、「きざむ」「しるす」の意味に使われるようになった。

□□漢字の意味 □□□□ (1) 書き記す。写し取る。とどめ残す。（用例）—「録」音、記「録」。

(2) 書き記したもの。写し取ったもの。（用例）—言行「録」、語「録」、付「録」

□□その漢字を使った熟語—「録音」レコードやテープなどに音を記録すること。

【資料6】（1年 p.32 上）漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。

(1)

ア. 新「せん」な印象を残す。

イ. 「あざ」やかな紅の花。

(2)

ア. 古い方法を「とう」襲する。

イ. 落ち葉を「ふ」む。

(3)

ア. 感情の「しん」幅が大きい。

イ. 首を左右に「ふ」る。

2 次の「 」で示した同じ音の漢字について、意味を調べよう。

(1)

ア. 「しん」縮自在

イ. 「しん」士淑女

(2)

ア. 和解「かん」告

イ. 「かん」喜の声

(3)

ア. 「ちょう」望が利く。

イ. 「ちょう」戦する。

(4)

- ア. 「しょう」 介状
- イ. 「しょう」 待状

小学校で習った漢字を身につけよう

1 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2 次の各文の後に「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) にくづき

- ア. はらに力を入れる。－「はら」
- イ. せ中に毛布をかける。－「せ」

(2) にんべん

- ア. 公の資料を提きょうする。－「きょう」
- イ. 器のかちを調べる。－「か」「ち」

【資料7】(1年 p.38 下)

□□□□□□ (スピーチの構成の例)

□□□□ 1. 紹介する相手

□□□□ 2. 話の要点

□□□□ 3. 説明

□□ (1) 中学生になって変わったこと

□□ (2) 具体的な体験

□□ (3) 紹介する相手の意見・感想

□□□□ 4. 取材した感想

□□□□□□ (スピーチメモの例)

□□□□ 1. 山本優花さん

□□□□ 2. 「吹奏楽部・フルートの練習」

□□□□ 3. (1)(2)について

□□ア. 昔からのあこがれが実現。

□□イ. (最初)－「音が出ない。」

□□→部活動で毎日2時間。家でも猛練習。

□□→ほっぺたが痛くなった。

□□ウ. (今)－「音が出るように。」

【資料8】(1年 p.49) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2 次の「 」で示した同じ音の漢字について、意味を調べよう。

(1)

- ア. 破「かい」する。
- イ. 「かい」古趣味

(2)

- ア. 天下無「てき」
- イ. 指「てき」する。

(3)

- ア. 光「たく」がある。

イ. 取捨選「たく」

(4)

ア. 「じょ」去する。

イ. 「じょ」行運転

小学校で習った漢字を身につけよう

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) りっとう

ア. 重要な役「わり」を果たす。

イ. 旅客機の出発する時「こく」だ。

(2) くさかんむり

ア. この竹はまだ「わか」い。

イ. 「ちょ」書を丁重に扱う。

【資料9】(1年 p.51 下)

(マッピングの例)

□□□□□□「お気に入りの場所」

□□□□ (近所の公園)

□□→家から歩いて5分。

□□→〇〇駅から歩いて10分。→ …

□□→噴水がある。→ブランコや砂場、ベンチがある。→小さい頃からよく遊んだ。→ …

□□→緑が多い。→静か。→ …

□□→緑が多い。→町で一番大きなけやきがある。→ …

□□→見晴らしがよい。→夕方の待ちをよく眺めた。→ …

□□□□ (自分の部屋) → …

□□□□ (家族と行った〇〇山) → …

□□□□ (卒業した小学校の図書館) → …

【資料10】(1年 p.56 下-57 下)

漢字の組み立て

漢字部位を表す図およびへん、つくり、かんむり、あし、たれ、にょう、かまえは点図にする。
各漢字ごとに、図は点図、部分の例は点線文字を添える。

漢字の例は以下のように修正する。

漢字の例 () 内は訓読みを表す。

デン「セツ」(ト_レ_レ_レク) ジュン「チョウ」(シラ_レ_レ_レベル) ギ「ロン」

ウン「キュウ」(ヤス_レ_レ_レム) 「キョウ」キユウゲン (ソナ_レ_レ_レエル)

「シ」ヨウシャ (ツカ_レ_レ_レウ)

「ハン」ダン ベン「リ」ヤ (キ_レ_レ_レク) ジ「コク」ヒョウ (キザ_レ_レ_レム)

エン「ジョ」(タス_レ_レ_レケル) 「コウ」カオン (キ_レ_レ_レク) 「ドウ」ブツ (ウゴ_レ_レ_レク)

キ「テキ」(フエ) マンネン「ヒツ」(フデ) キ「セツ」フウ (フシ)

「コン」ニチ (イマ) 「カイ」シャイン (ア_レ_レ_レウ) 「ヨ」ユウ (アマ_レ_レ_レル)

「ショウ」メイガカリ (テ_レ_レ_レル) 「ジュク」ゴ (ウ_レ_レ_レレル) ハツ「ネツ」(アツ_レ_レ_レイ)

「シ」ソウカ (オモ_レ_レ_レウ) 「ヒ」ツウ (カナ_レ_レ_レシイ) 「イ」ミアイ

ブンカ「チョウ」 キッサ「テン」(ミセ) ザイ「コ」ヒン

「ヒ」ロウ (ツカ_レ_レ_レレル) 「ビョウ」ニン (ヤ_レ_レ_レム) フク「ツウ」(イタ_レ_レ_レイ)

「ツイ」 トツ (オ_レツ_ヅウ) コウ「ツウ」(トオ_レツ_ヅル) 「エン」キョリ (トオ_レツ_ヅイ)
「キ」ショウ (オ_レツ_ヅキル) ユウ「エツ」カン (コ_レツ_ヅス) 「チョウ」ジンテキ(コ_レツ_ヅエル)
「カイ」テンスウ (マワ_レツ_ヅル) 「コ」ケイブツ (カタ_レツ_ヅメル) ヨウチ「エン」(ツノ)
「カイ」カイシキ (ヒラ_レツ_ヅク) ジ「カン」ワリ (アイダ) ゲン「カン」サキ (セキ)

各部首は点線文字で表し，漢字の例は以下のように修正する。

にんべん—「キュウ (ヤス_レツ_ヅム)・「キョウ (ツナ_レツ_ヅエル)・「シ (ツカ_レツ_ヅウ)」
ひとやね—「コン (イマ)・「カイ (ア_レツ_ヅウ)・「ヨ (アマ_レツ_ヅル)」
ひと—「ジン (ヒト)」

これらは「ひと」という部首でまとめられる。

意外な部首の漢字

漢字「く (くる_レツ_ヅしい)」の部首は，くさかんむりである。くさかんむりは「くさ」の意味を表すが，なぜ「く」が草に関係するのか不思議に思うだろう。「く」は，もとはにが味のある野菜のことで，……。

【資料11】(1年 p.57 下)

(練習問題)

次の(1)～(4)の「」で示した部分の漢字について，部首と後に()で示した説明に注意して漢和辞典などで調べてみよう。

- (1)ひへん—ソウマ「トウ」(ヒ) 「ム」カンシン (ナ_レツ_ヅシ) セキ「タン」(スミ) 「サイ」ガイ (ワザワ_レツ_ヅイ)
- (2)ころもへん—「サイ」バンショ (タ_レツ_ヅツ) 「ソウ」ショクヒン (ヨソオ_レツ_ヅウ) 「エリ」モト (音は「キン) 「フクロ」コウジ (音は「タイ))
- (3)さんずい—「ヒョウ」ザン (コオリ) 「オ」スイ (ヨゴ_レツ_ヅス) 「ゲン」リュウ (ミナモト) アン「タイ」
- (4)まだれ—「オウ」エン 「キョウ」ジュン (ウヤウヤ_レツ_ヅシイ) ク「ノウ」(ナヤ_レツ_ヅム) 「ケン」ショウキン (カ_レツ_ヅケル)

【資料12】(1年 p.65 上)

(程度を表す言葉)

強い ←●●●●●●●●●●→ 弱い

(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ)

- (ア) たいへん
- (イ) とても
- (ウ) かなり
- (エ) ほどよい
- (オ) 適度な
- (カ) ほんのり
- (キ) かすかな

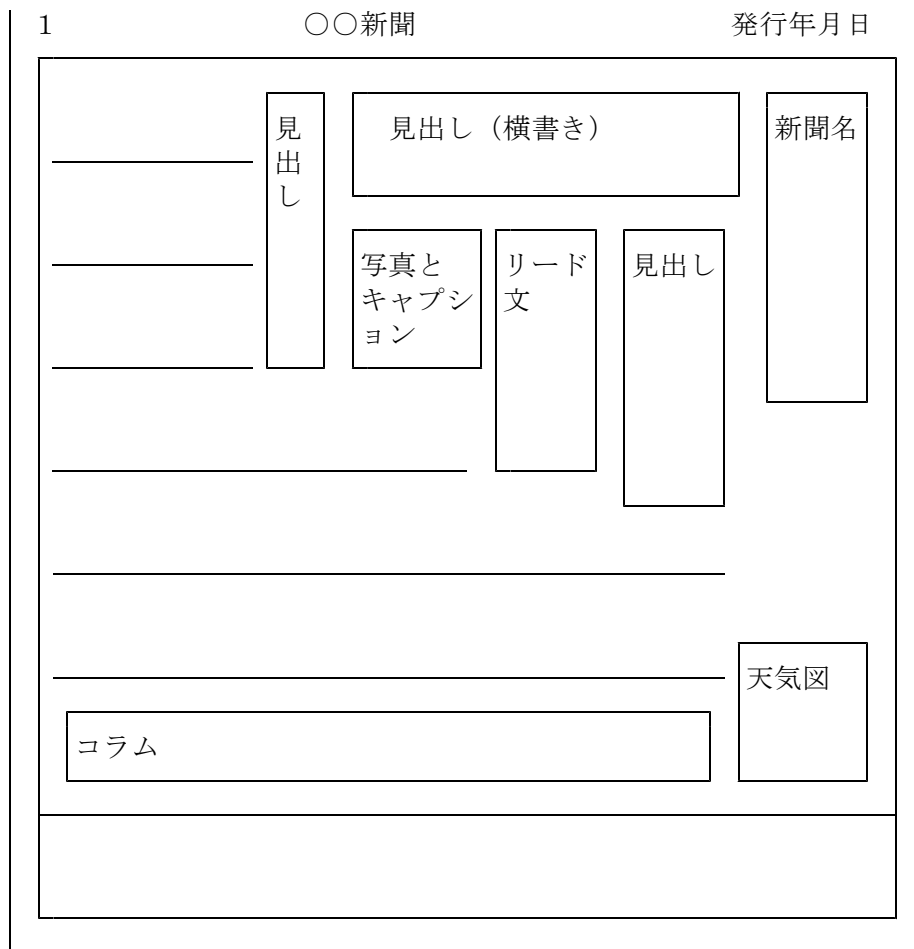
【資料13】(1年 p.70-71)

4 必要な情報を整理し，下書きをしよう

「書名」や「著者名」など，紹介に必要な情報を整理しよう。次の例を参考に，配置を考えながら下書きをしよう。

(準備)

1. ふたのついたお菓子の箱の空き箱などを用意し，ふたの寸法を測る。
2. 画用紙などをふたの寸法に切る。
3. 次のア. ～キ. を書く。
 - ア. 書名
 - イ. 著者名
 - ウ. 発行所名



発行年月日—その新聞が発行された日付と曜日。

見出し—記事の内容を短い言葉で表したもの。見出しが大きいもの（横書きにされたもの）ほど、重要な記事といえる。

リード文—本文の内容を要約したもの。重要な記事や長い記事に付けられる。

写真とキャプション—写真とそれを説明する文章。「絵解き」ともいう。

コラム—世の中の出来事や季節の話題などについて書かれた文章。書き手の意見や感想が盛り込まれる場合が多い。

その他—そのほかに新聞には、新聞社の意見をまとめた社説や、読者の意見を掲載した投書欄などがある。

※面の説明は脚注とする。吹き出しにはB君とつけて「 」で囲む。

【資料15】（1年 p.110）漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2 次の「 」で示した部分は、同じ読み方をするが違う漢字である。それぞれの漢字の意味を調べよう。

(1)「ほ」る

ア. 墓穴を「ほ」る。

イ. 仁王像を「ほ」る。

(2)「かわ」く

ア. のどが「かわ」く。

イ. 洗ったシャツが「かわ」く。

小学校で習った漢字を身につけよう

1 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。

※ 以下、該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) おおさと

ア. 「きょう」土の歴史を調べる。

イ. 「ゆう」便物を受け取る。

(2) さんずい

ア. 資「げん」を大切に作る。

イ. 人数が急「げき」に増える。

【資料16】(1年 p.113 上)

(例)

部活の練習に励んだ。□□□ 大会で2位だった。

部活の練習に励んだ。

1. 「だから」大会で2位だった。→結果に満足している。

2. 「しかし」大会で2位だった。→結果が不本意で、不満がある。

【資料17】(1年 p.127) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2 次の「 」で示した熟語について、それぞれ意味を調べよう。

(1) ふきゅう

ア. 「ふきゅう」の名作を読む。

イ. 新製品が「ふきゅう」する。

(2) たんせい

ア. 「たんせい」な顔立ちの仏像。

イ. 「たんせい」込めて植木を育てる。

小学校で習った漢字を身につけよう

1 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。

※ 以下漢字部分は、「 」を付けて示す。

2 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) きへん

ア. 果「じゅ」園のかきが熟れる。

イ. 自分のけん利を主張する。

(2) ごんべん

ア. 課題を速やかに検「とう」する。

イ. 雑「し」の記事を切り抜く。

【資料18】(1年 p.223・226)

p.223

□□□妹が歌う。

□□妹が(主語 だれが)→歌う(述語 どうする)

□□□星空が美しい。

□□星空が(主語 何が)→美しい(述語 どんناد)

□□□妹が生き生きと歌う。
□□生き生きと（修飾語 どのように）→歌う（どうする）

□□□色あせた写真は祖母の宝物だ。
□□色あせた（修飾語 どのような）→写真は（何）
□□祖母の（修飾語 だれの）→宝物だ（何）

p.226

□□□今朝、野鳥が初めて巣箱に入った。
□□今朝（連用修飾語）・野鳥が（主語）・初めて（連用修飾語）・巣箱に（連用修飾語）
→に入った（述語）

□□□今朝、僕は、野鳥が巣箱にはいるのを見た。
□□今朝（連用修飾語）・僕は（主語）・野鳥が巣箱にはいるのを（連用修飾語）→見た（述語）
□□野鳥が（主語）・巣箱に（連用修飾語）→はいるのを（述語）

□□□黒い鳥が赤い実をついばむのを見た。
□□黒い鳥が赤い実をついばむのを（連用修飾語）→見た
□□「黒い（連体修飾語）→鳥が」→主部
□□「赤い（連体修飾語）→実を」→連用修飾部
□□主部・連用修飾部→見た（述語）

【資料19】（1年 p.235-238）漢字の練習

1 次の「 」で示した部分の漢字は6年生で学習した漢字である。

※以下該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2 次の熟語は漢字のしりとりになっている。それぞれの漢字と熟語の意味を調べよう。

1. 頭「痛」→痛「切」→切「除」→除「去」→去「就」→就職
2. 批「評」→評「価」→価「値」→値「段」→段「階」→階層
3. 独「創」（的）→創「意」→意「欲」→欲「望」→望「郷」→郷土
4. 同「盟」（国）→盟「主」→主「体」→体「操」→操「作」→作詞（家）

3 次の「 」で示した熟語の意味を調べよう。

1. 「証明」問題
2. 実験「装置」
3. 「拡張」工事
4. 「閣議」決定
5. 「圧」縮空気

4 次の四字熟語の意味を調べよう。

1. 大同小異
2. 四捨五入
3. 聖人君子
4. 大器晩成

5 次の1.～5.の言葉について「 」と（ ）で示した部分は、同じ音であるがそれぞれ違う漢字である。

1. 「警」察（署） 「敬」語 伊豆（諸）島
2. 「水」（蒸）気 「垂」直線 権利（条）約
3. 「向」（上）心 「鋼」鉄性 健康（状）態
4. 「展」（覧）会 「転」勤する 混（乱）
5. 「裁」判（官） 借金返「済」 立て（看）板

6 次の二つの熟語について「 」で示した部分は違う漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- | | |
|---------------|------------|
| 1. ア. 友人関「係」 | イ. 電気「系」統 |
| 2. ア. 参「考」意見 | イ. 親「孝」行 |
| 3. ア. 列島「縦」断 | イ. 「従」属関係 |
| 4. ア. 職場「訪」問 | イ. 「方」向感覚 |
| 5. ア. 期「間」限定 | イ. 「簡」単な問題 |
| 6. ア. 需要と「供」給 | イ. 公「共」施設 |

7 次の語句について、「 」で示した部分は同じ漢字である。

- 星「座」占い 「座」席 「座」談会 正「座」する
- 検「討」事項 「討」議する 「討」論する 平家追「討」
- 負「傷」者 「傷」害事件 「傷」心の日々 中「傷」記事
- 単「純」作業 「純」白 「純」情な 清「純」な
- 興「奮」する 「奮」起する 「奮」戦する 発「奮」する
- 参「拝」する 「拝」見する 「拝」借する 礼「拝」する

【資料20】(1年 p.252) いろいろな発想法

発想を広げるために — マッピングで連想する

- 中の図書館
- 蔵書が多い→小説が増えた→何を読むかで迷う
- 蔵書が多い→傷んだ本もある
- 二年前に改装→とても広い
- 情報スペース→資料が豊富・パソコン
- 司書の△△先生→本に詳しい
- 図書委員会
- 利用者が多い→友達が増えた・活気がある

【資料21】(1年 p.254)

(文章の正しい書き方)

- 題名は、最初の1行目に、普通は7マス目から書くが、題の長さによって、短ければ9マス目、長ければ5マス目から書くようにする。
- 氏名は、題名の次の行に右寄せで書き、行末まで二マスくらいあくようにする。
- 書き出しや段落の始めは、3マス目から書き始める。
- 会話文は、原則として行を替え、第一カギで囲んで書く
- 句読点や会話を閉じるカギなど、ひと続きに書くべき語句や符号がその行に入りきらないときには、行移しをして書く。

【資料22】(1年 p.315 全学年共通)

常用漢字表 附表

- 「明日」 □●●● 「めい□みょう□ (あ●●●かり□あか●●●るい□あか●●●るむ□あか●●●らむ□あき●●●らか□あ●●●ける□あ●●●く□あ●●●くる□あ●●●かす)」 □□ 「にち□じつ□ (ひ□か)」
- 「小豆」 □●●● 「しょう□ (ちい●●●さい□こ□お)」 □□ 「とう□ず□ (まめ)」
- 「海女」 □●●● 「かい□ (うみ)」 □□ 「じょ□によ□によう□ (おんな□め)」
- 「海士」 □●●● 「かい□ (うみ)」 □□ 「し」 (さむらい)
- 「硫黄」 □●●● 「りゅう」 (いおう) □□ 「こう□おう□ (き)」
- 「意気地」 □●●● 「い」 (こころ) □□ 「き□け」 (「気持ち」の「き」 □□ 「ち□じ」 (つち)
- 「田舎」 □●●● 「でん□ (た)」 □□ 「しゃ」 (やどる)
- 「息吹」 □●●● 「そく□ (いき)」 □□ 「すい□ (ふ●●●く)」
- 「海原」 □●●● 「かい□ (うみ)」 □□ 「げん□ (はら)」
- 「乳母」 □●●● 「にゅう□ (ちち□ち)」 □□ 「ぼ□ (はは)」

ず)」

「三味線」 □ ● ● ● □ 漢数字の「3」 □ □ 「み □ (あじ □ あじ ● ● ● わう)」 □ □ 「せん」 (すじ)

「砂利」 □ ● ● ● □ 「さ □ シャ □ (すな)」 □ □ 「り □ (き ● ● ● く)」

「数珠」 □ ● ● ● □ 「すう □ す □ (かず □ かぞ ● ● ● える)」 □ □ 「しゅ」 (たま)

「上手」 □ ● ● ● □ 「じょう □ しょう □ (うえ □ うわ □ かみ □ あ ● ● ● げる □ あ ● ● ● がる □ のぼ ● ● ● せる □ のぼ ● ● ● す)」 □ □ 「しゅ □ (て □ た)」

「白髪」 □ ● ● ● □ 「はく □ びやく □ (しろ □ しら □ しろ ● ● ● い)」 □ □ 「はつ □ (かみ)」

「素人」 □ ● ● ● □ 「そ □ す」 □ □ 「じん □ にん □ (ひと)」

「師走」 □ ● ● ● □ 「し」 (せんせい) □ □ 「そう □ (はし ● ● ● える)」

「数寄屋」 □ ● ● ● □ 「すう □ す □ (かず □ かぞ ● ● ● える)」 □ □ 「き □ (よ ● ● ● せる □ よ ● ● ● せる)」 □ □ 「おく □ (や)」

「数奇屋」 □ ● ● ● □ 「すう □ す □ (かず □ かぞ ● ● ● える)」 □ □ 「き」 (めずらしい・すぐれている) □ □ 「おく □ (や)」

「相撲」 □ ● ● ● □ 「そう □ しょう □ (あい)」 □ □ 「ぼく」 (うつ・なぐる)

「草履」 □ ● ● ● □ 「そう □ (くさ)」 □ □ 「り □ (は ● ● ● く)」

「山車」 □ ● ● ● □ 「さん □ (やま)」 □ □ 「しゃ □ (くるま)」

「太刀」 □ ● ● ● □ 「たい □ た □ (ふと ● ● ● い □ ふと ● ● ● える)」 □ □ 「とう □ (かたな)」

立ち「退」 < □ ● ● ● □ 「たい □ (しりぞ ● ● ● く □ しりぞ ● ● ● ける)」

「七夕」 □ ● ● ● □ 漢数字の「7」 □ □ 「せき □ (ゆう)」

「足袋」 □ ● ● ● □ 「そく □ (あし □ た ● ● ● りる □ た ● ● ● える □ た ● ● ● す)」 □ □ 「たい □ (ふくろ)」

「稚児」 □ ● ● ● □ 「ち」 (わかい・おさない) □ □ 「じ □ に」

「一日」 □ ● ● ● □ 漢数字の「1」 □ □ 「にち □ じつ □ (ひ □ か)」

「築山」 □ ● ● ● □ 「ちく □ (きず ● ● ● く)」 □ □ 「さん □ (やま)」

「梅雨」 □ ● ● ● □ 「ばい □ (うめ)」 □ □ 「う □ (あめ □ あま)」

「凸凹」 □ ● ● ● □ 「とつ」 (でっぱり) □ □ 「おう」 (へこみ)

「手伝」 う □ ● ● ● □ 「しゅ □ (て □ た)」 □ □ 「でん □ (つた ● ● ● わる □ つた ● ● ● える □ つた ● ● ● う)」

「伝馬船」 □ ● ● ● □ 「でん □ (つた ● ● ● わる □ つた ● ● ● える □ つた ● ● ● う)」 □ □ 「ば □ (うま □ ま)」 □ □ 「せん □ (ふね □ ふな)」

「投網」 □ ● ● ● □ 「とう □ (な ● ● ● げる)」 □ □ 「もう □ (あみ)」

「父」 さん □ ● ● ● □ 「ふ □ (ちち)」

「十重二十重」 □ ● ● ● □ 漢数字の「10」 □ □ 「じゅう □ ちょう □ (え □ おも ● ● ● い □ かさ ● ● ● ねる □ かさ ● ● ● なる)」 □ □ 漢数字の「2」 □ □ 漢数字の「10」 □ 「じゅう □ ちょう □ (え □ おも ● ● ● い □ かさ ● ● ● ねる □ かさ ● ● ● なる)」

「読経」 □ ● ● ● □ 「どく □ とく □ とう □ (よ ● ● ● む)」 □ □ 「けい □ きょう □ (へ ● ● ● える)」

「時計」 □ ● ● ● □ 「じ □ (とき)」 □ □ 「けい □ (はか ● ● ● える □ はか ● ● ● らう)」

「友達」 □ ● ● ● □ 「ゆう □ (とも)」 □ □ 「たつ」 (複数の意味)

「仲人」 □ ● ● ● □ 「ちゅう □ (なか)」 □ □ 「じん □ にん □ (ひと)」

「名残」 □ ● ● ● □ 「めい □ みょう □ (な)」 □ □ 「ざん □ (のこ ● ● ● える □ のこ ● ● ● す)」

「雪崩」 □ ● ● ● □ 「せつ □ (ゆき)」 □ □ 「ほう □ (くず ● ● ● れる □ くず ● ● ● す)」

「兄」 さん □ ● ● ● □ 「けい □ きょう □ (あに)」

「姉」 さん □ ● ● ● □ 「し □ (あね)」

「野良」 □ ● ● ● □ 「や □ (の)」 □ □ 「りょう □ (よ ● ● ● い)」

「祝詞」 □ ● ● ● □ 「しゅく □ しゅう □ (いわ ● ● ● う)」 □ □ 「し」 (ことば)

「博士」 □ ● ● ● □ 「はく □ ぼく」 (ひろい) □ □ 「し」 (さむらい)

「二十」 □ ● ● ● □ 漢数字の「2」 □ □ 漢数字の「10」

「二十歳」 □ ● ● ● □ 漢数字の「2」 □ □ 漢数字の「10」 □ □ 「さい □ せい」

「二十日」 □ ● ● ● □ 漢数字の「2」 □ □ 漢数字の「10」 □ □ 「にち □ じつ (ひ □ か)」

「波止場」 □ ● ● ● □ 「は □ (なみ)」 □ □ 「し □ (と ● ● ● まる □ と ● ● ● める)」 □ □ 「じょう □ (ば)」

「一人」 □ ● ● ● □ 漢数字の「1」 □ □ 「じん □ にん □ (ひと)」

「日和」 □ ● ● ● □ 「にち □ じつ (ひ □ か)」 □ □ 「わ □ お □ (やわ ● ● ● らぐ □ やわ ● ● ● らげる □ なご ● ● ● む □ なご ● ● ● やか)」

「二人」 □ ● ● ● □ 漢数字の「2」 □ □ 「じん □ にん □ (ひと)」

「二日」 □ 漢数字の「2」 □□ 「にち□じつ□ (ひ□か)」
「吹雪」 □□□□ 「すい□ (ふ□□く)」 □□ 「せつ□ (ゆき)」
「下手」 □□□□ 「か□げ□ (した□しも□もと□さ□□げる□さ□□がる□くだ□□る□
くだ□□す□くだ□□さる□お□□ろす□お□□りる)」 □□ 「しゅ□ (て□た)」
「部屋」 □□□□ 「ぶ□ (くぶん) □□ 「おく□ (や)」
「迷子」 □□□□ 「めい□ (まよ□□う)」 □□ 「し□す□ (こ)」
「真面目」 □□□□ 「しん□ (ま)」 □□ 「めん□ (おも□おもて□つら)」 □□ 「もく□ぼく□ (め□
□ま)」
「真っ赤」 □□□□ 「しん□ (ま)」 □□ 「せき□しゃく□ (あか□あか□□い□あか□□らむ□
あか□□らめる)」
「真っ青」 □□□□ 「しん□ (ま)」 □□ 「せい□しょう□ (あお□あお□□い)」
「土産」 □□□□ 「ど□と□ (つち)」 □□ 「さん□ (う□□む□う□□まれる□うぶ)」
「息子」 □□□□ 「そく□ (いき)」 □□ 「し□す□ (こ)」
「眼鏡」 □□□□ 「がん□げん□ (まなこ)」 □□ 「きょう□ (かがみ)」
「猛者」 □□□□ 「もう□ (たけし) □□ 「しゃ□ (もの)」
「紅葉」 □□□□ 「こう□く□ (べに□くれない)」 □□ 「よう□ (は)」
「木綿」 □□□□ 「ぼく□もく□ (き□こ)」 □□ 「めん□ (わた)」
「最寄」 □□□□ 「さい□ (もつと□□も)」 □□ 「き□ (よ□□る□よ□□せる)」
「八百長」 □□□□ 漢数字の「8」 □□ 漢数字の「百」 □□ 「ちょう□ (なが□□い)」
「八百屋」 □□□□ 漢数字の「8」 □□ 漢数字の「百」 □□ 「おく□ (や)」
「大和」 □□□□ 「だい□たい□ (おお□おお□□きい□おお□□いに)」 □□ 「わ□お□
(やわ□□らぐ□やわ□□らげる□なご□□む□なご□□やか)」
「弥生」 □□□□ 「や□ (数の多いこと) □□ 「せい□しょう□ (い□□きる□い□□かす□
い□□ける□う□□まれる□う□□む□お□□う□は□□える□は□□やす□き□なま)」
「浴衣」 □□□□ 「よく□ (あ□□びる□あ□□びせる)」 □□ 「い□ (ころも)」
「行方」 □□□□ 「こう□ぎょう□あん□ (い□□く□ゆ□□く□おこな□□う)」 □□ 「ほう□ (か□
た)」
「寄席」 □□□□ 「き□ (よ□□る□よ□□せる)」 □□ 「せき□ (座る場所)」
「若人」 □□□□ 「じゃく□にやく□ (わか□□い□も□□しくは)」 □□ 「じん□にん□ (ひと)」

【資料 23】(1年 p.151 上) 訓読とは

1. 送り仮名ー漢文の場合は、漢字の右下に片仮名で小さく書かれた文字をいい、点字では第1つなぎ符(ㇿ)をはさんで続けて書き表す。歴史的仮名遣いを用いる。
2. 返り点ー漢字の左下に補う。次のレ点ー・二点の他にも数種類の返り点がある。
レ点 (すぐ下の1字から返って読む) — ㇿ
一・二点 (2字以上を隔てて、上に返って読む) — ㇿㇿ ㇿㇿㇿ
3. 読点(、)句点(。)などを付けて句や文の切れ目を示す。

(漢文の訓読)

あ□□るひと□い□□はく、□□□もつ□て□□□□□し□□の□ほこ□□を□□□□□、
とほ□□さば□□□□□し□□の□たて□□を□□□□□□□い□□かん□ (じょ)。□□と。
そ□□の□ひと□ぎ□□る□□□□□あた□□は□□□□□こた□□ふること□なり。

これらの符号をもとに漢文を訓読し、「矛盾」の文章のように書き改めたものを「書き下し文」という。

(書き下し文)

ある人いはく、「子の矛をもつて、子の盾を陥さばいかん。」と。
その人応ふることあたはざるなり。

【資料 24】(1年 p.169) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

- 1 次の「 」で示した部分は、同じ漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2 次の「 」に入る熟語をあとの選択肢から選ぼう。

- (1) 「 」をつけた投球。
- (2) 外科医が「 」する。
- (3) 魚を「 」する。
- (4) 色の「 」をつける。

(選択肢)

- ア. 巡回
- イ. 冷凍
- ウ. 濃淡
- エ. 緩急

小学校で習った漢字を身に付けよう

1 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。

※ 以下、該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) ひへん、にちへん

- ア. 温「だん」な気候の地域。
- イ. 美しい「えい」像を見る。

(2) しかばね

- ア. 古い地「そう」を調べる。
- イ. 未来への「てん」望が開ける。

【資料 25】 (1年 p.176) 漢字2 練習問題

1 次の「 」で示した漢字は同じ漢字である。音の違いに注意して、それぞれの熟語を読もう。

- (1) 「ゆう」益な話、経験者の「う」無
- (2) 「さ」糖菓子、土「しゃ」降り
- (3) 「そう」相互作用、首「しょう」官邸
- (4) 自「こ」満足、十年の知「き」

2 次の熟語の意味を調べよう。また、「 」の部分の漢字について、文末に示した訓読みを用いて短い文を作ろう。

- (1) 「なん」解な文章 (むずか__しい)
- (2) 号「きゅう」する (な__く)
- (3) 確定「しん」告 (もう__す)
- (4) 所「もう」する (のぞ__む)
- (5) 技「こう」をこらす (たく__み)
- (6) 「はく」力満点 (せま__る)
- (7) 「しゃ」断機 (さえぎ__る)
- (8) 「き」画会議 (くわだ__てる)

3 次の熟語は二通りの読み方がある熟語である。それぞれの読み方で短い文を作ろう。


- (1) 「ケンブツ」 「みもの」
- (2) 「ガッピ」 「つきひ」
- (3) 「タイセイ」 「おおぜい」
- (4) 「フンベツ」 「ぶんべつ」




【資料 26】 (1年 p.194) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう。

1 次の「 」で示した部分は、同じ漢字である。

※以下、該当する漢字部分にのみ「 」を付けて示す。

2 後の（ ）の意味の慣用句になるように、に合う言葉を後の選択肢から選ぼう。

- (1) 腰を。(落ち着いて物事を行う)
(2) 釘を。(前もって注意しておく)
(3) 琴線に。(心に深く感じ入る)

(選択肢)

- ア. 触れる (シヨク ふ__れる)
イ. 据える (す__える)
ウ. 刺す (シ さ__す)

小学校で習った漢字を身に付けよう

1 次の「 」で示した部分は、小学校で習った漢字である。

※ 以下、該当の漢字部分は、「 」を付けて示す。

2 次の各文について「 」で示した部分は、同じ部首を持つ漢字である。

(1) すん

- ア. 専門分野を究める。(セン もっぱ__ら)
イ. 人々の「そん」敬を集める。(ソソ __とうと__い)

(2) のぎ・のぎへん

- ア. 神「び」的な景色に出会う。(ひ ひ__める)
イ. 「こく」物の出荷先を調べる。(コク)

【資料 27】(1年 p.204) 文法への扉 3

(課題)

次の自立語や付属語を組み合わせて、文を三つ作ろう。

(条件)

1. 単語は何回使っても良い。
2. 必要ならば、単語の形を変えても良い。
(例)「作る」と「ない」で「作ら・ない」

(自立語)

「笑う」 「買う」 「デパート」 「白い」 「わたし」 「作る」 「ああ」
「夢」 「丈夫だ」 「ない」 「行く」 「コート」 「いつも」 「見る」
「この」 「母」 「こと」 「犬」 「そして」

(付属語)

「だ」 「た」 「を」 「と」 「わ」 「の」 「に」 「て」

【資料 28】(1年 p.209) ポスターの例

□□□□□□「おはよう。」と「こんにちは。」
□□□□— 境界線はどこにある?—

1年3組

黒木・小島・林・山田□□

1 言葉の由来

「おはよう。」←「おはやく…ですね。」

「こんにちは。」←「こんにちは…ですね。」

2 意識調査(1年3組のアンケート結果から)

(1)あいさつをする時間帯

表1 挨拶をする時間帯

時間帯	おはよう。	こんにちは。
9時	32人	0人
10時	28人	4人
11時	6人	26人
12時	0人	32人

(2)あいさつをする相手
表2 あいさつをする相手

相手	おはよう (ございます)。	こんにちは。
家族	する	しない
友達	する	ほとんどしない
先生	する	する

(キャッチコピー) — 「おはよう。」と「こんにちは。」境界線はどこにある？
見る人の興味を引くように、印象的なキャッチコピーを考えよう。

1. 一見して、内容がわかるもの。
2. 説明を聞きたくなるような、魅力的なもの。

(表やグラフ) — 表1、表2

調査結果などの数値はそのまま示すより、表やグラフに置き換えた方がわかりやすい。説明したい内容にあった表やグラフの種類を選ぼう

(割り付け) — 文字や図表、写真などを紙面に配置することを割り付け (レイアウト) という。次の点に気をつけながら、見やすく魅力的な紙面構成を工夫しよう。

1. 内容の分量や順序
2. 文字の書き出し位置や囲み符号、飾り
3. 図表などの位置

【資料 29】(1年 p.212 ~ 213) 漢字 3 ※太字は点線文字を示す。
漢字の成り立ちには、象形、指事、会意、形声とよばれるものがある。

(1) 象形 — 物の形をかたどって、その物を表す。

(例) ば (うま)

馬

(2) 指事 — 抽象的な事柄を、記号やその組み合わせで表す。

(例) ジョウ (うえ) カ (した)

上

下

(3) 会意 — 二つ以上の字を組み合わせ、新しい意味を表す。

(例) き き りん (はやし)

木 木 → 林

くち とり めい (な__く)

口 鳥 → 鳴

(4) 形声 — 二字を組み合わせ、一方で音、他方で意味を表す。音を表す部分を「音符」、意味を表す部分を「意符」とよぶ。

(例) いふ おんぶ ドウ

金 同 → 銅

いふ おんぶ セイ (きよ__い)

シ 青 → 清

「ドウ」の漢字、左の「かねへん」が金属を示す意符であり、右の「どう」が音符である。

音符はおんだけでなく、意味も表す場合がある。

「セイ」の漢字は、左の「さんずい」が意味を表す水の意符であり、右の「せい（あお）」が音符であると同時に「澄みきっている」という意味も表す。

(例) ひ た はたけ (はた)
火 田 → 畑
やま うえ した とうげ
山 上 下 → 峠

【資料30】(1年 p.213) 練習問題

1 次の「 」で示した部分の漢字の成り立ちは、それぞれ()に示した通りである。それぞれの漢字の意味を調べてみよう。

- (1) 「げつ」ようび (象形)
- (2) 「ちゅう」じつ (形声)
- (3) 「ほん」だな (会意)
- (4) 「か」せんじき (形声)
- (5) ねん「まつ」(指事)
- (6) 「すみ」じ (形声)

2 次の「 」で示した部分の漢字は、会意文字である。それぞれの漢字の意味を調べてみよう。

- (1) 「がん」石
- (2) 「めい」暗を分ける
- (3) 子「そん」繁栄
- (4) 通「しん」手段

3 次の「 」で示した部分の漢字は、共通する音符を持っている。それぞれの熟語例を参考にし、同じ音を持つ別の熟語を作ってみよう。

- (1) 炊「はん」器 黒「ばん」 「はん」売員
- (2) 「しょ」名捺印 近隣「しょ」国 残「しょ」見舞
- (3) 「ゆ」出 「ゆ」快 教「ゆ」

【資料31】(2年 p28)

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。意味を考えながら読もう。

- (1)
ア. 静「寂」に包まれる。
イ. 「寂」しさを紛らす。
- (2)
ア. 「脚」光を浴びる。
イ. テーブルの「脚」
- (3)
ア. 忘れ物をして「慌」てる。
イ. 人の往来が「慌」ただしい。

2. 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) ちから
ア. 事情を「勘」案する
イ. 弾「劾」する
ウ. 奨「励」する
- (2) あなかんむり
ア. 衝「突」
イ. 「窒」素
ウ. 「窯」元

(3) くちへん

ア. 「吹」奏楽

イ. 満「喫」

ウ. 先生に一「喝」される。

エ. 注意を「喚」起する。

(4) しんにょう・しんにゆう

ア. 「逃」亡する。

イ. 「逸」脱

ウ. 普「遍」的

エ. ご「逝」去

小学校で習った漢字を広げよう

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの熟語を読もう。

(1) 「音」楽 福「音」書

(2) 「仮」面 「仮」病

(3) 散「歩」する 「歩」合

(4) 卵「黄」 「黄」砂現象

(5) 「発」表 「発」端

(6) 「拾」得物 金「拾」万円

【資料 32】(2年 p38)

(メモの例)

□□□□ 職場体験

□□ 「和菓子・内田」さん

□□□□ お店の場所

□□ 1. 学校前

→市バスで三つ目

□□ 2. さつき公園前

……

【資料 33】(2年 p45)

□□□□ 「やさしい日本語」で書いたポスターの例

□□□□ OPEN

□□□□ あいています

スーパー

□□ スーパーがあいています。

□□ 食べ物と水を買うことができます。

□□□□ ○○スーパー南町店 (○○小学校前)

□□ 午前10時から午後6時まで

□□○年○月○日 南町商店街

□□□□ 「やさしい日本語」2005年検証実験

□□ 1. 日時 2005年10月23日 13:00～14:15

□□ 2. 参加者 85名

□□ 3. 参加者の国籍 (13か国)

アメリカ・オーストラリア……

□□ 4. 結果

□□□□ (適切に行動できた人の割合)

□□ 通常の日本語—60%

□□ 「やさしい日本語」—85%

【資料 34】(2年 p48)

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

(1)

ア. 敵を一網打「尽」にする。

イ. 心を「尽」くす。

(2)

ア. 懲「戒」処分が下る。

イ. 不注意を「戒」める。

(3)

ア. 「肝」胆相照らす。

イ. 「肝」を冷やす。

(4)

ア. 「避」暑地に出かける。

イ. 直射日光を「避」ける。

2. 次の「 」で示した部分はそれぞれ同じ音をもつ異なる漢字である。漢字の意味を考えよう。

(1)

ア. 「疲」労がたまる。

イ. 文書を「披」見する。

ウ. 「被」告人

(2)

ア. 港の船「舶」

イ. 「拍」手で迎える。

ウ. 著名な画「伯」

3. 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語を読もう。

(1)あめかんむり

ア. 「震」災の被害

イ. 幽「霊」が出る。

ウ. 「零」細企業

(2)さんずい

ア. 「濫」造する。

イ. きれいに「洗淨」する。

ウ. 分「泌」液

小学校で習った漢字を広げよう。

1. 次の(1)～(4)と後のア. ～エ. の語句を結びつけて、ことわざを作ろう。

(1)江戸の敵を

(2)郷に入っては

(3)災いを転じて

(4)能あるたかは

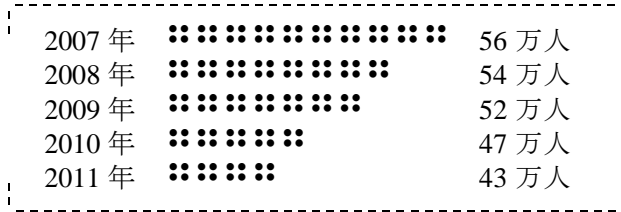
ア. 爪を隠す

イ. 福となす

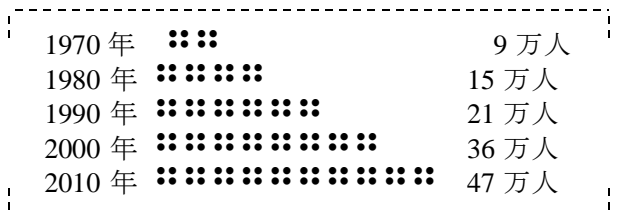
- ウ. 長崎で討つ
- エ. 郷に従え

【資料 35】（2年 p49）

□□□□（グラフ 1）— 「観光客数の推移」



□□□□（グラフ 2）— 「観光客数の推移」



【資料 36】（2年 p52）

□□□□（進行案の例）

「目標」— 理由をわかりやすく説明して、提案を採用してもらおう。

（提示する資料）

資料 1

写真— 「共生」のイメージ

（説明内容のメモ）

□□□□ 1. はじめに（今村）□□（20秒）

□□お年寄りや体の不自由な人も、誰もが気持ちよく暮らせる社会。 →そんな願いを込めて……

資料 2

「共」の漢字

□□□□ 2. 「願いの漢字」（全員）□□（10秒）

□□私たちが選んだ漢字は、「共」です。←ここで資料 2 を出す。

（資料 2 は文字とイラスト？ 文字だけ？）

資料 3

「共」は
「公共」の「共」
「共生」の「共」

□□□□ 3. 漢字の意味（坂野）□□（1分）

□□「公共」の「共」— 「誰もが」快適に暮らせる

□□「共生」の「共」— 「いっしょに」生きていく仲間

資料 4

□□□□ 4. 「共」に込めた願い（平川）□□（2分）

「共」に込めた願い
幸せな生活
安全・安心な公共空間
共に生きる心

- すべての人びとに幸せな生活を。
- 安全・安心な公共空間を。
- 仲間として共に生きる心を。

資料5

きょう

共 (点線文字)

- 5. まとめとPR (山田) (30秒)
- 「共」はみんなに共通の願い。
- 「共」こそ「願いの漢字」にぴったり！

(資料は「共」のイメージの写真と文字)

【資料37】(2年 p54)

二字熟語の主な構成

1. 意味が似ている漢字の組み合わせ

(例)

拡大(「ひろげる」と「おおきい」)

思考(「おもう」と「かんがえる」)

規則(「きまり」と「きまり」)

縮小(「ちぢむ」と「ちいさい」)

山岳(「やま」と「やま」)

搭乗(「のる」と「のる」) など

2. 意味が対になる漢字の組み合わせ

(例)

善悪(「よい」と「わるい」)

前後(「まえ」と「うしろ」)

売買(「うる」と「かう」)

強弱(「つよい」と「よわい」)

禍福(「わざわい」と「しあわせ」)

慶弔(「いわう」と「とむらう」) など

3. 主語と述語の関係

(例)

地震(地が震える)

国営(国が営む)

雷鳴(雷が鳴る)

日照(日が照る)

人造(人がつくる)

自作(自らがつくる) など

4. 後の漢字が前の漢字の目的や対象を示す。

(例)

洗顔(顔を洗う)

登山(山に登る)

開会(会を開く)

造園(そのをつくる)

遷都(みやこをうつす)

帰郷(ふるさとに帰る)

就職(職につく) など

5. 前の漢字が後の漢字を修飾する。

(例)

軽傷 (軽い傷)
激増 (激しく増える)
水路 (水のみち)
熱心 (うちこむ心)
俊足 (すばやいあし)
逆流 (さかさまの流れ)
多忙 (多くて忙しい) など

このほかに、「刻々」(「こく」は「きざむ」)「喜々」(「き」は「よろこぶ」)など、同じ漢字を重ね、その状態や様子を強調して表す熟語もある。

三字熟語の主な構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ

(例)

衣食住 (「ころも」と「たべる」と「すむ」)
上中下 (「うえ」と「なか」と「した」)
松竹梅 (「まつ」と「たけ」と「うめ」) など

2. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ

前に打ち消しの意味の「不」「無」「非」「未」や、後ろに「的」「性」「化」などが付いたものも多い。

(例)

大成功 (「おおきい」と「せいこう」)
専門家 (「せんもん」と「か」)
不安定 (「ふ」と「あんてい」)
絶対的 (「ぜったい」と「てき」)
初対面 (「しょ」と「たいめん」)
肖像画 (「しょうぞう」と「が」)
無意味 (「む」と「いみ」)
可能性 (「かのう」と「せい」) など

四字以上の熟語の構成

1. 漢字一字の言葉の組み合わせ

(例)

春夏秋冬 (「はる」「なつ」「あき」「ふゆ」)
花鳥風月 (「はな」「とり」「かぜ」「つき」) など

2. 二字熟語の組み合わせ

(例)

課外授業 (「かがい」と「じゅぎょう」)
国際交流 (「こくさい」と「こうりゅう」)

3. 漢字一字の言葉と二字熟語の組み合わせ

(例)

大雨注意報 (「おおあめ」と「ちゅうい」と「ほう」)
運転免許証 (「うんてん」と「めんきよ」と「しょう」) など

【資料 38】(2年 p.55)

練習問題

1 次の(1)～(5)の「 」で示した熟語は、それぞれ同じ構成の熟語である。どんな構成か調べてみよう。

(1)

- ア。「自我」が強い。
- イ。「優秀」な成績

(2)

- ア. 「師弟」関係
- イ. 「雌雄」を決する。
- ウ. 兄弟「姉妹」

(3)

- ア. 「国立」大学
- イ. 「日没」

(4)

- ア. 「着色」料
- イ. 「兼業」農家

(5)

- ア. 「麦芽」糖
- イ. 「濃霧」注意報
- ウ. 「極秘」

2 次の(1)～(4)の□には「不・無・非・未」のいずれかを、(5)～(7)の□には「的・性・化」のいずれかを入れて、三字熟語を作ろう。

- (1) □経験
- (2) □本意
- (3) □秩序
- (4) □常識
- (5) 比較□
- (6) 妥当□
- (7) 有料□

3 次の四字熟語の意味を調べよう。

- (1) 右往左往
- (2) 喜怒哀楽
- (3) 輕挙妄動
- (4) 疾風迅雷
- (5) 鯨飲馬食
- (6) 温厚篤実

【資料 39】(2年 p.72)

□□□□ (割り付けの例)

□□□□ ザリガニ事件□□ (見出し)
□□■■■■ □失敗を次へつなげる□■■■

□□■■■■ □小学校2年生の若田光一さんは、……ことになる。□■■■■□□ (リード文)

- 1. ザリガニつりに夢中になった話。
 - 2. お父さんとのエピソード。
 - 3. 置き時計の話。
 - 4. 次へつなげる姿勢について。□□ (感想)
- (1.～4. は記事の内容 — 箇条書きなどを使い簡潔にメモする。)
- 若田家の教育方針に感動。□□ (感想)

□□○○新聞○月○日夕刊新聞記事より□□ (情報源)

【資料 40】（2年 p.73）

□□□□（新聞にまとめた例）

□□□□□□「若田光一さんがわかる！新聞」
□□□□「守りにはいるな！」— 挑戦を続ける宇宙飛行士 —
□□■■■■□ 2009年……生き方とは。□■■■
□□若田光一さんが、……。

□□□□「ザリガニ事件」
□□■■■■□失敗を次へつなげる□■■■
□□■■■■□小学校2年生の若田光一さんは、ザリガニにまつわるある事件をきっかけに、「失敗を次へつなげる」姿勢を学ぶことになる。□■■■

□□若田さんの人柄を表す……。

□□□□宇宙で「生きる」人柄
□□宇宙飛行士に必要な様々な訓練。……

□□□□「若田光一さん年表」
1963□□埼玉県に生まれる。
1969アポロ11号月面着陸。宇宙への憧れを抱く。
……

【資料 41】（2年 p.107）

漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

(1)

- ア. 失敗が「尾」を引く。
- イ. 飛行機の「尾」翼。

(2)

- ア. 水たまりの上を「跳」ぶ。
- イ. 水が「跳」ねる。
- ウ. 高く「跳」躍する。

2 次の「 」で示した部分はそれぞれ異なる漢字である。漢字の意味を考えよう。

(1)

- ア. 暗「礁」に乗り上げる。
- イ. 「焦」点が合う。

(2)

- ア. 全体を「掌」握する。
- イ. 高「尚」な趣味。

(3)

- ア. 不満が「噴」出する。
- イ. 裏切りに「憤」激する。
- ウ. 古「墳」を見学する。

【資料 42】（2年 p.114）

□□□□ (尊敬語と謙讓語の例)

動詞の場合

1. 動詞全般に使える形

「尊敬語」	「謙讓語」
お…になる	お…する
ご…になる	ご…する
…れる・…られる	

2. 特定の形に変化する動詞

	「尊敬語」	「謙讓語」
行く・来る	いらっしゃる	参る・伺う
いる	おいでになる	おる
言う・話す	おっしゃる	申す・申し上げる
見る	ご覧になる	拝見する
食べる	めしあがる	いただく
する	なさる	いたす
くれる	くださる	――
もらう	――	いただく
聞く	――	伺う・承る
知る・思う	――	存じる

名詞の場合

1. 名詞全般に付く形

「尊敬語」	「謙讓語」
(先生からの)「お」手紙	(先生への)「お」手紙
(先生からの)「ご」意見	(先生への)「ご」意見

2. 特定の名詞に付く形

「尊敬語」	― 「芳」名・「御」社・「貴」校 (あなたの学校)・「尊」父
「謙讓語」	― 「愚」見・「弊」社・「拙」著・「粗」品

【資料 43】 (2年 p.132)

漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1 次の「 」で示した部分には新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) 「井戸」を掘る。
- (2) 「既製」の洋服を買う。
- (3) 立派な「城郭」を築く。
- (4) 地元に大会を「誘致」する。
- (5) 水面に「波紋」が広がる。
- (6) 企業の「囑託医」になる。

2 次の「 」で示した部分はそれぞれ異なる漢字である。漢字の意味を考えよう。

(1)

- ア. 「犠」牲者
- イ. 礼「儀」作法

(2)

- ア. 1万円紙「幣」
- イ. 「弊」害が生じる

(3)

- ア. なんとしても「阻」止する
- イ. 「租」税収入
- ウ. 「粗」野なふるまい

3 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) こんべん

- ア. 「讓」歩する
- イ. 選手宣「誓」
- ウ. 漢詩を朗「詠」する。

(2) こころ

- ア. 暗「愚」な君主
- イ. 哀「愁」を帯びた音色
- ウ. 戦没者追「悼」式典
- エ. 遺「憾」に思う

小学校で習った漢字を広げよう

1 次の「 」で示した部分は、後のどの漢字を用いるだろう。

- (1) 重要な職務に「つ」く。
 - ア. 大統領の「シュウ」ニン式
 - イ. シールが「フ」チャクしている。
- (2) 布をはさみで「た」つ。
 - ア. 横「ダン」歩道
 - イ. 「サイ」ほう道具
 - ウ. 申し出をキョ「ゼツ」する。
- (3) 作家が自伝を「あらわ」す。
 - ア. 「ヒョウ」メンがつるつるしている。
 - イ. 自然「ゲン」ショウ
 - ウ. あの小説はメイ「チョ」だ。
- (4) 彼を責任者に「お」す。
 - ア. 名前の後に「オウ」インする。
 - イ. 先生が「スイ」センした本。

【資料44】(2年 p.218~219)

「文節どうしの関係と連文節どうしの関係」

(例文) 山の上に白い家がある。

(文節どうしの関係)

「山の」(連体修飾語) → 上に
「白い」(連体修飾語) → 家が
「家が」(主語) → ある (述語)

(連文節どうしの関係)

「山の上に」(連用修飾語) → ある (述語)
「白い家が」(主部) → ある (述語)

(p. 219)

(例文) 山の上に白い家がある。

(自立語と付属語)

自立語—山 上 白い 家 ある
付属語—の に が

(活用の有無の例)

活用がある—白い ある

活用がない—山 の 上 に 家 が

【資料 45】(2年 p.237~240)

1 次の「 」で示した部分の漢字は6年生で学習した漢字である。

2 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) 立候「補」 「補」強 「補」助 「補」給
- (2) 苦「難」 「難」破船 「難」解な文章 「難」易度
- (3) 財「宝」 国「宝」 「宝」石 我が家の家「宝」
- (4) 駅の階「段」 石「段」 「段」落 手「段」
- (5) 死「亡」届 「亡」命 国家の興「亡」 「亡」国
- (6) 「納」品 収「納」 「納」税 「納」期が迫る
- (7) 「善」意 「善」行を積む 「善」良な人 親「善」試合
- (8) 自「律」的 規「律」を守る 調「律」師 法「律」
- (9) 注「射」器 放「射」状 反「射」 ロケットの発「射」
- (10) 「映」像 上「映」 「映」画館 世相を反「映」する

3 次の各組の「 」で示した部分は、同じ音であるが、それぞれ違う漢字である。

- (1) たん — 「単」位の修得 「短」気な人 「誕」生日
- (2) だん — 横「断」歩道 温「暖」化 相「談」
- (3) こん — 「困」難 「混」雑 「根」気強い
- (4) しょう — 「招」待者 故「障」車 民間伝「承」

4 次の四字の漢字でできた熟語の意味を調べよう。

- (1) 臨時休業
- (2) 公私混同
- (3) 秘密厳守
- (4) 皇后陛下

5 次の熟語は同じ偏をもつ二字の漢字でできている。へんの意味を確認し、熟語の意味を調べよう。






- (1) 肺臓 (にくづき)
- (2) 源流 (さんずい)
- (3) 議論 (ごんべん)
- (4) 俳優 (にんべん)
- (5) 植樹 (きへん)
- (6) 地域 (つちへん)
- (7) 価値 (にんべん)
- (8) 激減 (さんずい)
- (9) 呼吸 (くちへん)
- (10) 誤読 (ごんべん)

6 次の各組の「 」で示した部分は、同じ漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) 「策」略 外交政「策」
- (2) 「筋」肉 道「筋」
- (3) 正しい「姿」勢 容「姿」
- (4) 「革」命 皮「革」製品
- (5) 国立「劇」場 演「劇」
- (6) 「紅」白 口「紅」
- (7) 「骨」折 背「骨」
- (8) 「宅」地 住「宅」

- (9) 「勤」務 欠「勤」
- (10) 「尺」度 縮「尺」
- (11) 「穀」物 米「穀」
- (12) 「仁」術 「仁」愛

7 それぞれが慣用句になるように、後のA群から語句を選ぼう。また、その慣用句の意味を、後のB群から選び、記号で答えよう。

- (1) 耳を 。
- (2) 頬を 。
- (3) 肩を 。
- (4) 腹を 。
- (5) 舌を 。

A群

- 割る
- 巻く
- 染める
- 疑う
- 並べる

B群

- ア. 包み隠さずに話すこと。
- イ. 恥ずかしそうにすること。
- ウ. 非常に感心すること。
- エ. 聞いたことが信じられないこと。
- オ. 対等な力をもつこと。

【資料 46】(2年 p.243~248)

1 次の「 」で示した部分は、常用漢字表に追加された漢字の中で、動作や行動・状態を表す言葉である。あとの「新出漢字」を参考にして、理解を深めよう。

- (1) 両耳で耳を「ふさ」ぐ。

.....

2 次の「 」で示した部分は、常用漢字表に追加された漢字の中で、感情を表す言葉である。あとの「新出漢字」を参考にして、理解を深めよう。

- (1) 海外での生活に「あこが」れる。

.....

3 次の「 」で示した部分は、常用漢字表に追加された漢字の中で、物事の様子を表す言葉である。あとの「新出漢字」を参考にして、理解を深めよう。

- (1) 「あいまい」な返事をする。

.....

4 次の「 」で示した部分は、常用漢字表に追加された漢字である。あとの「新出漢字」を参考にして、理解を深めよう。

- (1) 幼少の「ころ」を思い出す。

.....

5 次の慣用句・ことわざの意味を確認しよう。また、「 」で示した部分は、常用漢字表に追加された漢字である。あとの「新出漢字」を参考にして、理解を深めよう。

- (1) 「かま」を掛ける

.....

6 次の「 」で示した読み方は、常用漢字表の改訂で追加された音訓である。確認しよう。

- (1) 新製品の開発に「かか」わる。

.....

【資料 47】(2年 p.279)

(種割り表)

以下の表は、「種があり割る」—あり□わる, 「種がない」—なし, 「種があるのに割らない」—あり□わらないを表す。

	アブラヤシ	クーラ	パンダ
ボツソウ	あり□わる	なし	なし
A	あり□わらない	なし	なし
B	あり□わる	あり□わる	あり□わらない
C	なし	あり□わる	あり□わる

【資料 48】(2年 p.136)

(源氏と平家の戦い)

1. 石橋山の戦い(1180年8月)
2. 富士川の戦い(1180年10月)
3. 倶利伽羅峠の戦い(1183年5月)
4. 宇治川の戦い(1184年1月)
5. 一の谷の戦い(1184年2月)
6. 屋島の戦い(1185年2月)
7. 壇の浦の戦い(1185年3月)

【資料 49】(2年 p.153)

訓点符号を用いた書き方

くに□やぶ□れて□さん□が□あ□り
しろ□はる□にして□そ□もく□ふか□し
かん□じては□とき□に□はな□にも□そそ□ぎ□なみだ□を
うら□んでは□わか□れを□とり□にも□おどろ□かす□こころ□を
ほ□か□つら□なり□3□げつ□に□
か□しよ□あた□る□ばん□きん□に□
はく□と□か□けば□さら□に□みじか□く
す□べて□ほつ□す□ざ□らんと□た□へ□しん□に

【資料 50】(2年 p.170)

漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」で示した部分には新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) 工夫を「凝」らす。
- (2) 「うるし」の器に菓子を盛る。
- (3) 鉄が「ぼうちょう」する。
- (4) 「こうきゅう」の平和を願う。
- (5) 上告が「ききやく」される。
- (6) 車が「ひんぱん」に往来する。
- (7) 「こうなん」を使い分ける。

2. 次の「 」で示した部分はそれぞれ異なる漢字である。漢字の意味を考えよう。

(1)

- ア. 激しく「抗」議する。
イ. 炭「坑」で働く。

(2)

- ア. 財「閥」解体
イ. 鬼を征「伐」する。

(3)

ア. 草木を「培」養する。

イ. 裁判の「陪」審員

(4)

ア. みそを「醸」造する。

イ. 豊かな土「壤」

3. 次の「 」で示した語は同じ部首を持つ。その意味を調べよう。

(1) くさかんむり

ア. 「薪」炭を商う。

イ. 「藩」主に仕える。

ウ. 細「菌」に感染する。

(2) きへん

ア. 盆「栽」を育てる。

イ. 将「棋」を指す。

ウ. 素「朴」な人柄。

小学校で習った漢字を広げよう。

1. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。語の意味を考えながら読もう。

(1)

ア. 「強」情を張る。

イ. 他人に無理を「強」いる。

(2)

ア. 勝利の「女」神がほほ笑む。

イ. 天「女」が軽やかに舞う。

【資料 51】(2年 p.173)

□□□□ (紙の辞書と電子辞書を比較した例)

□□□□□□ 「紙の辞書」

□□□□ (よい点)

□□ 1. カードや付せんを貼り付けることができる。

□□ 2. 複数の意味がある言葉も読める。

□□□□ (問題点)

□□ 1. 分厚く、重い。

□□ 2. 複数の辞書と比較するのに時間がかかる。

□□□□□□ 「電子辞書」

□□□□ (よい点)

□□ 1. 小型で軽量。

□□ 2. 言葉を入力するだけで、すぐ調べられる。

□□□□ (問題点)

□□ 1. 価格が高い。

□□ 2. 電池で動く場合、切れると使えない。

□□□□ 「自分の立場」

□□ 中学生が使う辞書は、紙の辞書がよい。

□□□□ (紙の辞書がよい根拠の例)

□□ 1. ある言葉を調べたときに、同じページに載っているほかの言葉も読める。

→新しい発見がある。

□□ 2. カードや付せんを貼り付けることができる。

→学習の記録を残せる。

□□ 3. 価格が安い。

【資料 52】(2年 p.178)

同じ訓・同じ音をもつ漢字

練習問題

次の文の「 」で示した漢字は()のどちらの意味か。またもう一方の漢字の音を調べよう。

1. 人権を「おかす」ことは許されない。(あえて行う 侵害する)
2. 法案を倫理委員会に「はかる」。(くわだてる 相談する)
3. 管弦楽団の指揮を「とる」。(とらえる 執り行う)
4. 優勝者に贈る純金の杯を「いる」。(はなつ 金属を溶かして物をつくる)
5. 二酸化炭素を「はいしゅつ」する。(要らないものを出すこと 優れた人物を世に出すこと)
6. 「くじゅう」の選択を迫られる。(苦い経験 苦しみ悩むこと)
7. 核兵器の「きょうい」を訴える。(ひどく驚くこと 何者かに脅されること)
8. 他人の行動に「かんしょう」しない。(口出しをすること 感じて心をいためること)
9. 「へいこう」感覚を失って転ぶ。(並び行われること つりあい)
10. 作品を娯楽として「きょうじゅ」する。(教え授けること 味わい楽しむこと)
11. 西に進むか東に進むかの「きろ」に立つ。(帰り道 分かれ道)

【資料 53】(2年 p.198)

漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」は同じ漢字である。それぞれの意味を考えながら読もう。

(1)

ア. 音楽に陶「酔」する。

イ. 船に「酔」う。

(2)

ア. 仕事に束「縛」される。

イ. 紙の束をひもで「縛」る。

(3)

ア. 大会で敢「闘」賞に輝く。

イ. 貧困と「闘」う。

2. 次のア. イ. の「 」で示した部分は同じ音の漢字である。漢字の意味を調べよう。

(1)

ア. 「距」離をとる

イ. 「拒」否する

(2)

ア. 「胴」体の一部

イ. 心の空「洞」

(3)

ア. 「卑」近な例

イ. 石「碑」を建てる

(4)

ア. 仕事の報「酬」

イ. 「醜」態を晒す

3. 次の「 」で示した部分は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1)てへん

ア. 人権を「擁」護する。

- イ. 全てを包「括」する。
- ウ. 身柄を「拘」束される。
- エ. 土地を開「拓」する。

(2) うかんむり

- ア. 華やかな「宴」席。
- イ. 「寛」「容」な精神。
- ウ. 便「宜」を図る。
- エ. 「寡」黙 なる人柄。

小学校で習った漢字を広げよう

1. 次の(1)～(4)とア.～エ. の語群の語句を結びつけて、文を作ろう。またその意味を調べよう。

- (1) 挨拶を
- (2) 商いに支障を
- (3) 相手の機嫌を
- (4) 己の生活を

(語群)

- ア. 来す
- イ. 交わす
- ウ. 省みる
- エ. 損ねる

【資料 54】(2年 p.201)

□□□□ (「ある日の自分」を見つめる物や人物を挙げた例)

□□□□ 「試合の日の自分」(絵里)
 □□ バスケットシューズ □□ ユニフォーム □□ バスケットボール
 □□ チームメイトの横山さん □□ 応援に来た上村さん □□ 対戦相手東中学校
 □□ 顧問の北川先生 □□ 母の手作り弁当

→バスケットシューズの視点から書いてみよう。

【資料 55】(2年 p.202)

□□□□ (気持ちの変化をまとめた例)

(場面と気持ち)
 試合が始まる前→ 緊張と不安
 試合前半 (シュートが全く入らない) → いらいら
 → 「横山さんの言葉」
 試合後半 (シュートが決まり出す) → 希望

【資料 56】(2年 p.203)

□□□□ (描写の工夫)

- 1. 情景描写
 □□ 「今にも雨が降り出しそうな黒雲」(該当ページ・行) — 不安な気持ちを表している。
- 2. 行動を表す表現
 □□ 「ベンチに戻る足取りは重く」(該当ページ・行) — 沈んだ気持ちを表している。
- 3. 色彩を用いた描写
 □□ 「青いユニフォームも輝きだした」(該当ページ・行) — 前向きな気持ちに変化したことを表している。

【資料 57】（2年 p.204）

□□□□ 国立国語研究所「日本語地図」を基にしたもの

□□□□「捨てる」の方言分布

□□すてる，すつるなどー北海道日本海側地域の一部，岩手県の一部，関東甲信越地方の一部，新潟県佐渡地方，伊豆大島，北陸東海地方の一部，滋賀県の一部，和歌山県沿岸部，淡路島の一部，兵庫県日本海側地域の一部，中国地方，愛媛県，高知県，徳島県の一部，福岡県の一部，熊本県山間部の一部，対馬・五島列島の一部

□□うしつるー佐賀県，長崎県，熊本県，大分県・宮崎県の一部，福岡県有明海沿岸地域の一部

□□うっするー鹿児島県，宮崎県・大分県・長崎県の一部

□□していゆんー沖縄県

□□ほーる，ほるなどー石川県能登半島の一部，福井県・三重県・和歌山県・京都府・兵庫県の一部，淡路島の一部，香川県，徳島県の一部

□□ほーかる，ほかるなどー北陸東海地方の一部，福岡県の一部

□□ほーかす，ほかすなどー近畿地方，福岡県の一部

□□なげる，ぶんなげるなどー北海道，東北地方，福井県の一部

□□うっちゃるー関東地方，静岡県・愛知県の一部

□□ぶちやる（ぶちやる）ー新潟県，長野県，群馬県，山梨県，静岡県の一部

【資料 58】（2年 p.207）

練習問題

次の「 」の部分は同じ漢字である。その意味を調べよう。

1. 風邪を引いて体力が「おとろ」えた。（「衰」弱）
2. お申し出を「つつし」んでお受けします。（「謹」賀新年）
3. 「ねば」り「づよ」く取り組む。（「粘」液□□最「強」）
4. 足腰を「きた」え「なお」す。（「鍛」錬□□「直」角）
5. 朝の練習を「なま」ける。（「怠」惰）
6. 責任者への報告を「おこた」る。（「怠」慢）
7. あの犬は「かしこ」そうだ。（「賢」者）
8. 疲労のあまり判断力が「にぶ」くなる。（「鈍」感）
9. 童歌を歌う「ほが」らかな声が響く。（明「朗」）
10. 子供が「すこ」やかに育つ。（「健」康診断）
11. 後に「うれ」いを残す。（「憂」鬱）
12. 栄養の「かたよ」りに注意する。（「偏」見）

【資料 59】（2年 p.209）

□□□□（相手とテーマを考えた桜さんのメモの例）

□□□□インタビューの相手とテーマ

□□父

→趣味→ギター・料理

→仕事

□□祖母

□□健一さん

→家族

→将来の夢→美容師

→友達

□□青木さん

→「いとこの健一さんは美容師のたまご。詳しく話を聞いてみたい。」

【資料 60】(3年 p.30) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」で示した部分には、新しく習った漢字が含まれる。意味を考えながら読もう。

- (1) 他人の言葉を「じゃすい」する。
- (2) 古代ローマの「こうてい」
- (3) 「かとく」を継ぐ。
- (4) 面倒な事柄を「きひ」する。
- (5) 貴人を「まいそう」した古墳
- (6) 品物の代金を「しはら」う。
- (7) 「こころにく」いほどの気配りだ。

2. 次の「 」で示した部分は、それぞれ異なる漢字である。それぞれの熟語の意味を考えよう。

(1)

戦「艦」大和

会計「監」査

(2)

荒地を開「墾」する。

「懇」意な問柄

(3)

初志を貫「徹」する。

がれきを「撤」去する。

(4)

姉が「妊」娠する。

重要な「任」務

3. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) りっしんべん・こころ

ア. 我「慢」がならない。

イ. 「悦」楽にひたる。

ウ. 「怠惰」な生活(「たい」と「だ」)

エ. 休「憩」をとる。

(2) てへん

ア. 犯罪を「捜」査する。

イ. 栄養を「摂」取する。

ウ. 適切な「措」置をとる。

エ. 登録を「抹」消する。

小学校で習った漢字を広げよう

1. 次の「 」で示した部分には、ア. ~ウ. のどの漢字を用いるだろう。

(1) 水面に月が「うつ」る

ア. 机を「移」動する。時代が「移」る。

イ. 「写」真。書類を書き「写」す。

ウ. 「映」画。鏡に「映」る。

(2) 夜が明け「そ」める

ア. 最「初」。桜が咲き「初」める。

イ. 「染」色。布を「染」める。

(3) 作家が自分の「お」い立ちを語る。

ア. 人「生」。草が「生」い茂る。

イ. 「老」人。年「老」いた男。

(4) 大勢の人を見て、気「おく」れする。

- ア. 午「後」。「後」れ毛。
- イ. 「遅」刻。時間に「遅」れる。

【資料 61】（3年 p.33）説得力のある考えを述べよう

- 批評文の例
- 傍線（a）は、肯定的評価で使っている表現
- 傍線（b）は、否定的評価で使っている表現

情報バラエティ番組は、生活に役立つ知識を、映像を見たり専門家のお話を聞いたりして紹介する番組だ。司会やタレントが、各コーナーを盛り上げる構成になっている。

午後七時から十時頃までの学校帰りや仕事帰りの人が見られる時間帯に設定されていて、(a) ゆっくり楽しめる点はとて良いと思う。また、ドラマなどと違い、司会者とのやりとりなどから、(a) 出演者の臨機応変な対応を見ることが出来るのも魅力だ。

しかし最近、(b) 演出の点で気になることが二つある。第一に過剰な字幕である。字幕は、高齢者や聴覚障害のある人にとっては…… 必要である。

- 1. 現状（事実をとらえる）—第1段落
- (1) …は…である。
- (2) …には…という背景・目的がある。
- (3) …と比較すると…の傾向がある。
- 2. 評価すべき点（価値や意味を見いだす）—第2段落
- (1) …は…点がよい・魅力だ。
- (2) …の現象は…の点で意味がある。
- ……

【資料 62】（3年 p.34 下）説得力のある考えを述べよう

- テーマ例
- （ ）は観点の例
- 「各教科の学習内容などから」
- 1. 小説（題名・表現・構成・登場人物・テーマ）
- 2. 音楽（歌詞・メロディー・構成・テーマ）
- 「直接体験したことから」
- 1. 学校行事（目的・企画運営・内容・満足度）
- 2. ボランティア（意義・内容・達成度・課題）
- ・ ・ ・
- 分析の観点の例
- 選んだ事柄—最近の情報バラエティ番組
- 1. 時間帯□□□□放送時間はいつ頃か。
- 2. 視聴者□□□□対象はどのような人か。
- 3. 出演者□□□□どのような人が出ているか。
- 4. 構成□□□□どのようなコーナーがあるか。
- 5. 内容□□□□どのような企画・内容が特徴か。
- 6. 演出方法□□□□映像・ナレーション・字幕・フリップ・効果音などはどうなっているか。

【資料 63】（3年 p.40 下）評価しながら聞こう

- 1. マップの最初に、自分の意見と理由をひと言で書く。
- 2. 他の人の意見に賛成のときは（賛成・納得）、反対のときは（反対・疑問）の箇所に要点を書き留める。
- 3. 囲みや矢印を使って整理し、自分の意見を再確認する。

□□□□坂野さんの聞き取りマップの例

- 自分の意見—安易に外来語を使わない
- (理由)
- 1. 意味がわかりにくい。
- 2. 伝わりにくい言葉は使わないほうがよい。
- 他の人の意見
- (賛成・納得)
- 似た考え→事故・災害の問題。会話に参加できない。
-
- (反対・疑問)
- 「積極的に使うべき」
- 予想外の考え→新しい技術や考え方
-

【資料 64】(3年 p.50) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」で示した部分には、新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

- (1) チームの「ちゅうかく」をになう。
- (2) 土地を「せんゆう」する。
- (3) 生活の「かばん」を固める。
- (4) 「ついおく」にふける。
- (5) 「せいこん」を込めた仕事。
- (6) 「にわとり」の鳴き声が聞こえる。

2. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) とりへん (ひよみのとり)

- ア. 「酢酸」を使った実験 (「す」と「さん」)
- イ. 「酵」素の働きを利用する。
- ウ. 「酪」農がさかんな地域。
- エ. 情状「酌」量の余地がある。

(2) さんずい・みず

- ア. 「滋」養強壯
- イ. 日本「海溝」 (「海」と「溝」)
- ウ. ゲーテに私「淑」する。
- エ. 花びらについての「水滴」。(「水」と「滴」)

3. 次の「 」で示した熟語には、ア. イ. のどちらの漢字を用いるだろう。

(1) 物語が「カキョウ」に入る。

- ア. 架橋—橋を架ける
- イ. 佳境—非常によい場面

(2) 問題点が「ケンザイ」化する。

- ア. 顕在—はっきりあらわれて存在すること
- イ. 健在—元気で暮らしていること

(3) 強国が「ハケン」を争う

- ア. 派遣—命じて出張させること
- イ. 覇権—競争者を抑えて得た権力

(4) 「テンブ」の才の持ち主。

- ア. 天賦—生まれつき
- イ. 添付—添え付け

小学校で習った漢字を広げよう

1. 次の(1)～(4)の熟語について、()内の説明を参考にして同じ構成の熟語をア.～ク. からそれぞれ二つずつ選ぼう。

- (1)喫茶 (のむ, ちゃ)
- (2)燃焼 (もえる, やく)
- (3)薄暮 (うすい, くれる)
- (4)今昔 (いま, むかし)

- ア. 岩室—岩石でおおわれた室
- イ. 忘恩—受けた恩を忘れること
- ウ. 貸借—貸すことと借りること
- エ. 仲介—物事をまとめるなかだち
- オ. 弓道—弓で射る技芸
- カ. 若干—多くはない不定の数量
- キ. 深淺—深いことと浅いこと
- ク. 写經—經文を写すこと

【資料 65】(3年 p.57 上) 熟語の読み方

複数の読み方をする熟語

- (1)ネンゲツ□□としつき
- (2)ミョウニチ□□あす
- (3)うわて (彼のほうが一枚「上手」だ) □□かみて (舞台の「上手」に立つ) □□じょうず (姉は「上手」な字を書く)

「ネンゲツ□□としつき」や「ミョウニチ□□あす」は、いずれの読み方でも同じ意味を表すが、「うわて□□かみて□□じょうず」は、同じ漢字を用いても読み方によって意味が異なる。

【資料 66】(3年 p.57 下) 熟語の読み方

練習問題

1. 次の「 」で示した熟語の意味を調べてみよう。なお、重箱読みは(4)(10)(12)、湯桶読みは、(3)(6)である。

- (1)「峡谷」を歩く。
- (2)「干潟」にすむ生物。
- (3)「喪中」のはがき。
- (4)「素直」に助言を聞く。
- (5)川の「浅瀬」を渡る。
- (6)「切符」を買う。
- (7)物事の「発端」を探る。
- (8)国王に「謁見」する。
- (9)「繭玉」を飾り付ける。
- (10)「錠前」をかける。
- (11)天敵を「威嚇」する。
- (12)「基石」を片付ける。

2. 次の「 」で示した部分は、ア. は音で、イ. は同じ漢字が含まれる熟字訓で読む。それぞれ意味を確認しよう。

- (1)ア. 甲「乙」 イ. 「乙女」(おつ, おんな)
- (2)ア. 「崩」壊 イ. 「雪崩」(ゆき, くず^ニ^ニれる)
- (3)ア. 「撲」滅 イ. 「相撲」(そう, ぼく)
- (4)ア. 「硫」酸 イ. 「硫黄」(りゅう, こう)

【資料 67】(3年 p.64) 言葉を使おう

1. 使用者が限定される言葉

- (1)方言
- (2)仲間内の言葉

2. 世代によって使われ方が違う言葉

(1) よび名に違いがある。

(例) 辞書□□字引

スニーカー□□ズック

スプーン□□さじ

タートルネック□□とっくり

(2) 表す意味に違いがある。

(例) シャツ→肌着・ワイシャツ

3. 地域によりよび名が違う言葉

(例) かたつむり□□まいまい□□でんでんむし

とうもろこし□□とうきび□□なんば

【資料 68】(3年 p.124) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」で示した部分には、新しく習った漢字が含まれる。語の意味を考えながら読もう。

(1) 街は「閑散」としていた。

(2) 「思慕」の念を抱く。

(3) 「崇高」な理念を語る。

(4) 「牧畜」を営む。

(5) 若者を「雇用」する。

(6) 「地殻」変動が起こる。

(7) 勝利に「腐心」する。

2. 次の「 」で示した部分は、それぞれ異なる漢字である。それぞれの熟語の意味を考えよう。

(1)

隣村を「併」合する。

土「塀」に沿った道。

(2)

心身を錬「磨」する。

「麻」酔をかける。

(3)

「紡」績工場

「防」災訓練

(4)

「需」要と供給

有名な「儒」学者

3. 次の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) にんべん・ひと

ア. 「偶」然出会う。

イ. 会長を補「佐」する。

ウ. 模「倣」と創造

エ. 「仙人」のつかう術。(「せん」と「にん」)

(2) つち

ア. ペンキで「塗」装する。

イ. 美しい「塑」像

ウ. 「墮」落した生活

エ. 信用が失「墜」する。

小学校で習った漢字を広げよう

(練習)

次の1. 2. の俳句について、後に「 」で示した部分の助詞をア. イ. の助詞と置き換えて比較し、意味や表現効果について考えよう。

1. 作者未詳

米洗ふ前に螢が二つ三つ

前「に」

ア. まえ「を」

イ. まえ「え」

2. 正岡子規

6月を綺麗な風の吹くことよ

6月「を」

ア. 6月「に」

イ. 6月「わ」

【資料71】(3年 p.256～257)

次の同音異義語は、それぞれ意味を補足した。

戴「冠」式

法「曹」界

嗣子(あととり)

「毀」損(こわす)

禁「錮」刑

「勾」留期限

少「尉」(将校の位)

元「帥」(総大将)

「咽」喉(のど)

汗「腺」(汗を分泌する腺)

「虜」囚(とりこ)

更「迭」(役目の人をかえる)

「矯」正(欠点を直す)

「硝」酸銀

「蛮」勇(向こう見ずの勇ましさ)

「逖」信(郵便や電信を送り伝える)

一「隻」(船を数える単位)

老「翁」(年老いた男)

鼻「孔」(鼻の穴)

食「糧」(食物)

甲乙「丙」

「憧」憬(あこがれ)

右「舷」(右の船べり)

覚「醒」(目をさます)

失「踪」(行方をくらます)

「斑」紋(まだらもよう)

「冶」金(金属を加工する技術)

「妖」怪(ばけもの)

【資料72】(3年p.167上) 課題解決に向けて話し合おう

□□□□話し合いの流れ

□□□□ 1. テーマや全体像を決める

□□ア. グループ会議(1)

□□イ. 全体会議(1)

□□□□ 2. 内容を具体化する

- グループ会議(2)
- 3. 内容を決定する
- 全体会議(2)

【資料73】(3年p.167下) 課題解決に向けて話し合おう

□□□□ 課題を整理した例

- 課題1 地球温暖化
- 1. 重要性—地球の生態系に深刻な影響を与える。
- 2. 緊急性—すぐ取り組む必要がある。
- 3. 宣言による効果—家庭での具体的な取り組みを示せば、効果が上がる。
- 課題2 ごみ問題
- 1. 重要性—ごみを燃やすときに、・・・
- ・・・

【資料74】(3年p.179) 漢字を確認しよう

新しく習った漢字を覚えよう

1. 次の「 」で示した言葉の意味を調べよう。

- (1) 出来事の「概略」を話す。
 - (2) 「犬猿」の仲。
 - (3) 「花壇」の水やりをする。
 - (4) 情報を「秘匿」する。
 - (5) 「荘重」な音楽が響く。
 - (6) 問題解決の「端緒」。
2. 次の「 」で示した部分は、それぞれ異なる漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。
- (1) 円「弧」を描く。
「孤」独な人。
 - (2) 大「砲」を撃つ。
水「泡」と消える。
 - (3) 特「殊」な能力。
「朱」色の絵の具。
 - (4) 陰「謀」を巡らす。
「某」所に隠れる。

3. 次の四字の熟語の意味を調べよう。

- (1) 自由奔放
- (2) 森羅万象
- (3) 清廉潔白
- (4) 竜頭蛇尾
- (5) 和洋折衷

小学校で習った漢字を広げよう。

1. 次の「 」で示した部分は、それぞれ音読みと訓読みの組み合わせが同じである。それぞれの熟語の意味を調べよう。

- (1) ともに音読み
ア. 悪事を「暴露」する。 (「ばく」と「ろ」)
イ. 剣道の「修行」をする。 (「しゅ」と「ぎょう」)
- (2) 音読みと訓読み

ア. 「石高」が上がる。 (「こく」と「だか(たか)」)

イ. 「反物」を仕入れる。 (「たん」と「もの」)

(3) 訓読みと音読み

ア. 祖母の「新盆」。 (「にい」と「ぼん」)

イ. 思い出の「場所」。 (「ば」と「しょ」)

(4) ともに訓読み

ア. 「小銭」で払う。 (「こ」と「ぜに」)

イ. 「中州」でつりをする。 (「なか」と「す」)

【資料75】(3年p. 181~182) 練習問題

1. 次の熟語の意味として合うものを、あとの選択肢から選ぼう。

(1) 理性

(2) 倫理

(3) 普遍

(4) 契約

(5) 利潤

(6) 猶予

(選択肢)

ア. 人としてあるべき生き方や道徳。

イ. 物事を決行する時を先に延ばすこと。

ウ. 物事を筋道立てて考え、判断する能力。

エ. すべてのものに当てはまること。

オ. 売買や貸し借りの約束を交わすこと。

カ. 企業などが得る利益。

2. 次の「 」で示した熟語の意味を、熟語を構成している言葉に注意して調べよう。

(例) 少子高齢化→しょうし□こうれい□か

(1) 食品の「消費期限」を確かめる。→しょうひ□きげん

(2) 「産業廃棄物」を処分する。→さんぎょう□はいき□ぶつ

(3) 日本の「食糧自給率」を調査する。→しょくりょう□じきゅう□りつ

(4) 「循環型社会」への移行を議題に上せる。→じゅんかん□がた(かた)□しゃかい

(5) 「生物多様性」を維持する取り組みを支持する。→せいぶつ□たよう□せい

(6) 国の「重要無形文化財」に指定された芸能を鑑賞する。→じゅうよう□むけい□ぶんか□ざい

3. 次の「 」で示した熟語の類義語をあとの選択肢から選ぼう。

(1) 程々の休みを取り、体力の「消耗」を抑える。

(2) 他人に隷属することをよしとしない。

(3) 事実を「克明」に描いた戯曲。

(4) 甚だしい「侮辱」を受けて憤慨する。

(5) 彼の作品は、他の「凡庸」な作品とは一線を画する。

(6) 暴君が国外へ「放逐」される。

(7) 政治家は「庶民」の訴えに耳を傾けるべきだ。

(8) 不正を働いた委員の「罷免」要求が出される。

(9) 政府によって反乱が「鎮圧」される。

(選択肢)

ア. 武力「制圧」。

イ. 「恥辱」に堪える。

ウ. 「丹念」な仕事ぶり。

エ. 「追放」される。

オ. 懲戒「免職」。

カ. 一般「大衆」。

- キ. 「平凡」な作品。
- ク. 「消費」期限。
- ケ. 「従属」関係。

4. 次の「 」で示した熟語の対義語をあとの選択肢から選ぼう。

- (1) 「静脈」注射をする。
- (2) 「既知」の概念。
- (3) 人口が「漸増」する。
- (4) 施設が「閉鎖」された。
- (5) 地面が「隆起」する。
- (6) 「叙情」的な文章。
- (7) 犯人を「逮捕」する。
- (8) 社長のご「令嬢」。

(選択肢)

- ア. 叙事
- イ. 釈放
- ウ. 開放
- エ. 漸減
- オ. 令息
- カ. 陥没
- キ. 動脈
- ク. 未知

5. 次の四字の熟語の意味を調べよう。

- (1) 戸籍謄本
- (2) 文化勲章
- (3) 舗装道路
- (4) 扶養家族
- (5) 中枢神経
- (6) 綱紀粛正

6. 次の語句の意味を調べ、短い文を作ろう。

①～⑨を1. ～9. に変更する

【資料76】(3年p.209～210) 漢字のまとめ

1. 次の各組の「 」で示した部分は、同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の意味を調べよう。

(1) たけかんむり

- ア. 名「簿」。
- イ. 点「筆」。

(2) しめすへん

- ア. 「禪」宗のお寺。
- イ. 「祝」宴を催す。

(3) やまいだれ

- ア. 炎「症」を起こす。
- イ. 「病」理。

(4) ひらび

- ア. 「暫」時。
- イ. 薄「暮」の時。

(5) くにかまえ

- ア. 「囚」獄。
- イ. 「因」果関係。

(6) こざとへん

ア. 丘「陵」を越える。

イ. 「降」参する。

(7)ころもへん

ア. 「裕」福な家。

イ. 「補」強する。

(8)おおざと

ア. 在留「邦」人。

イ. 望「郷」の思い。

(9)しかばね

ア. 「尿」素。

イ. 「屋」号

(10)ごんべん

ア. 楽「譜」を読む。

イ. 「論」理的

2. 次の「 」で示した部分は同じ漢字である。それぞれの語の意味を調べよう。

(1)

貴「重」な体験をする。

「重」荷を背負う。

八「重」桜を見る。

人権の尊「重」。

効率を「重」視する。

(2)

「神」経を研ぎ澄ます。

「神」主が祝詞を上げる。

「神」聖な場所。

伊勢「神」宮へ詣でる。

(3)

「早」春の気配を感じる。

「早」速出かける。

「早」寝早起き。

「早」熟な子ども。

(4)

委員長に任「命」する。

宿「命」のライバル。

寿「命」が延びる。

「命」綱を付ける。

(5)

現「役」引退を示唆する。

「役」職につく。

使「役」に駆り出される。

自分にぴったりの「役」柄。

(6)

せみが「羽」化する。

千「羽」づるを折る。

「羽」毛布団をかける。

天女の「羽」衣。

(7)

父「兄」が同伴する。

「兄」嫁が手伝う。

長「兄」の持ち物。

義「兄」弟になる。

(8)

盛「夏」が訪れる。

「夏」至の日。

「夏」山登山。

晩「夏」の候。

(9)

「声」色を変える。

名「声」を得る。

「声」高に叫ぶ。

小「声」で話す。

(10)

京「浜」工業地帯。

「京」都に旅行する。

「京」阪地方。

電車で上「京」する。

3. 次の「 」で示した部分は同じ漢字であり、ア. は音読み、イ. は訓読みである。

(1)

ア. 「ガン」科に通う。

イ. 「まなこ」を見開く。

(2)

ア. 幾「カ」学を学ぶ。

イ. 彼は「なに」者だろう。

(3)

ア. 「コウ」鉄の扉。

イ. 「はがね」のような体。

(4)

ア. 一朝一「セキ」にはできない。

イ. 「ゆう」立が降る。

(5)

ア. 野球を観「セン」する。

イ. 勝ち「いくさ」になる。

(6)

ア. 耳「ビ」科に行く。

イ. 「はな」歌を歌う。

(7)

ア. 「ボク」場で馬に乗る。

イ. 緑の「まき」場。

(8)

ア. 「オウ」金時代を築く。

イ. 「こ」金色に実る麦。

4. 次の「 」で示した部分は同じ音を持つが違う漢字が使われている。それぞれの意味を調べよう。

(1)

休日にはもっぱら湖「畔」でつりをする。

保護者が同「伴」する。

(2)

経歴の「詐」称は禁じられている。

木工「作」業をする。

(3)

「胎」児の健康状態を診る。

「怠」惰な生活を送る。

(4)

禅「僧」が著した書物を読む。

むき出しの地「層」。

(5)

アンケートの「該」当する欄に丸を付ける。

弾「劾」裁判所。

(6)

緑のない「褐」色の大地が広がる。

本質を「喝」破する。

(7)

各官庁の管「轄」する仕事を調べる。

分「割」払いをする。

(8)

相手チームの作戦の「盲」点をつく。

被害「妄」想に陥る。

(9)

目撃者が法「廷」で証言する。

日本「庭」園の中を歩く。

小型船「艇」に乗る。

(10)

病気が完全に治「癒」する。

警官に説「諭」される。

「愉」快な歌を歌う。

5. 次の(1)～(5)の熟語について、()内を参考にして、同じ構成の熟語をア.～オ. から選ぼう。

(1) 豊富 (豊かと富む) □□皮膚 (皮と膚)

(2) 表裏 (表と裏) □□伸縮 (伸びることと縮むこと)

(3) 市営 (市が営む) □□私製 (わたくしが作る)

(4) 花園 (花を栽培した園) □□猟銃 (猟に使う銃)

(5) 受講 (講習を受けること) □□脱臭 (においを抜く)

(選択肢)

ア. 王冠 (王のかぶる冠)

イ. 旋回 (めぐると回る)

ウ. 清濁 (清いことと濁っていること)

エ. 殉教 (宗教のために命を犠牲にすること)

オ. 円高 (円の価値が高い)

6. 次のア. イ. の文について「 」で示した部分は、それぞれ同訓異字の漢字である。文の後に示した音読みを参考にして、各文の漢字の意味を調べ、それぞれ熟語を作ってみよう。

(1) 「たず」ねる

ア. 学生寮に住む兄を「たず」ねる。(音は「ほう」)

イ. 友達に明日の予定を「たず」ねる。(音は「じん」)

(2) 「しば」る

ア. 目的を一つに「しば」る。(音は「こう」)

イ. やぎの乳を「しば」る。(音は「さく」)

(3) 「おど」る

ア. リズムに合わせて「おど」る。(音は「よう」)

イ. 美しい景色を見て胸が「おど」る。(音は「やく」)

(4) 「う」る

- ア. 彼の話は教訓に富み、「う」るところが大きい。(音は「とく」)
イ. 評論家として世の中に名前を「う」る。(音は「ばい」)

7. 次の「 」で示した部分と同じ熟語を、それぞれ後のア. イ. から選ぼう。

- (1) ごみ問題は「いぜん」として解決していない。
ア. 両チームは「いぜん」から戦いを望んでいた。
イ. 旧態「いぜん」とした町。
- (2) 険しい山道を「しんちょう」に登る。
ア. 「しんちょう」に検討する。
イ. 学力の「しんちょう」を図る。
- (3) 細かい「いしょう」が施された器。
ア. 斬新な「いしょう」の服。
イ. 花嫁「いしょう」。
- (4) 市長がやめ、開発計画に「へんこう」が生じる。
ア. 進路を「へんこう」する。
イ. 考え方が「へんこう」している。
- (5) 絵画のコンクールで「ひょうしょう」される。
ア. 功労者を「ひょうしょう」する。
イ. 意識に現れるイメージを「ひょうしょう」という。

8. 次の「 」で示した部分は、それぞれ訓読みの漢字である。後に示した同じ漢字を含む語句を参考にして、漢字の意味を調べてみよう。

- (1) 玄関の前に「こわ」そうな番犬が「ひか」えている。
ア. 「こわ」そうな(きょう「ふ」しん)
イ. 「ひか」えて(ふよう「こう」じょ)
- (2) 宗家の先生から「はげ」ましと、お「ほ」めの言葉を「たまわ」る。
ア. 「はげ」まし(げき「れい」する)
イ. お「ほ」めの(ご「ほう」び)
ウ. 「たまわ」る(おん「し」公園)
- (3) 空は「くも」り、「はげ」しい風が容赦なく「ふ」いた。
ア. 「くも」り(「どん」てん)
イ. 「はげ」しい(「げき」ぞうする)
ウ. 「ふ」いた(「すい」そうがく)
- (4) 「あた」りは「おごそ」かな空気に「つつ」まれた。
ア. 「あた」り(しゅう「へん」ちいき)
イ. 「おごそ」か(にんげんのそん「げん」)
ウ. 「つつ」まれた(やく「ほう」し)